

位教育全書

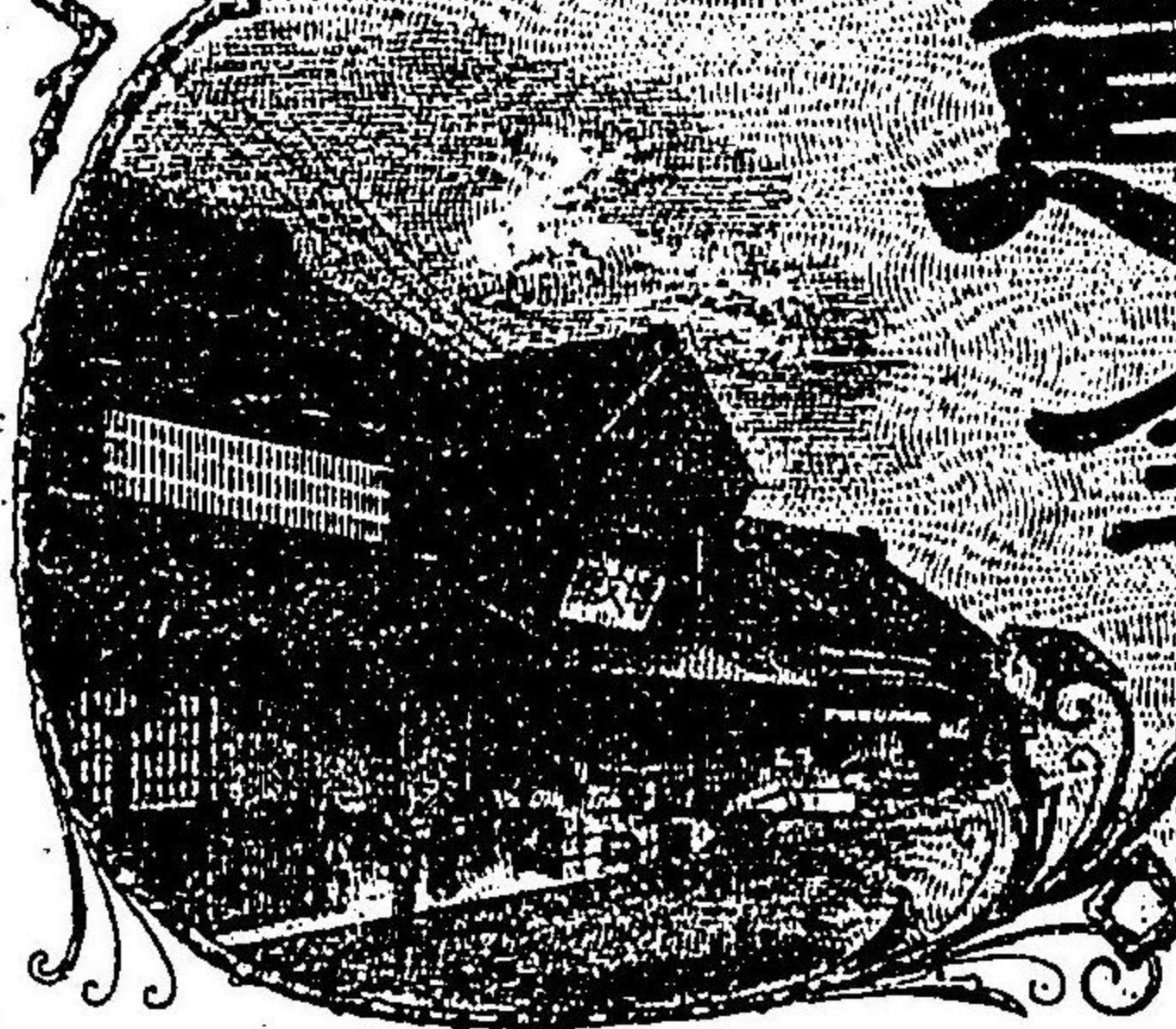
68

第七拾五編

931

萬國宗教大意全

內山正如著



東京博文館

013741-000-7

68-93

万国宗教大意

内山 正如 / 著

M26

ABA-0227



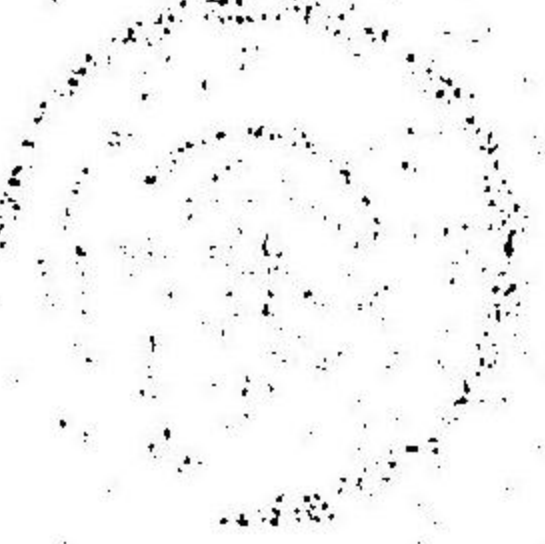
68
93

特
309

原
山
正
如
著
辭
集
卷
之
全

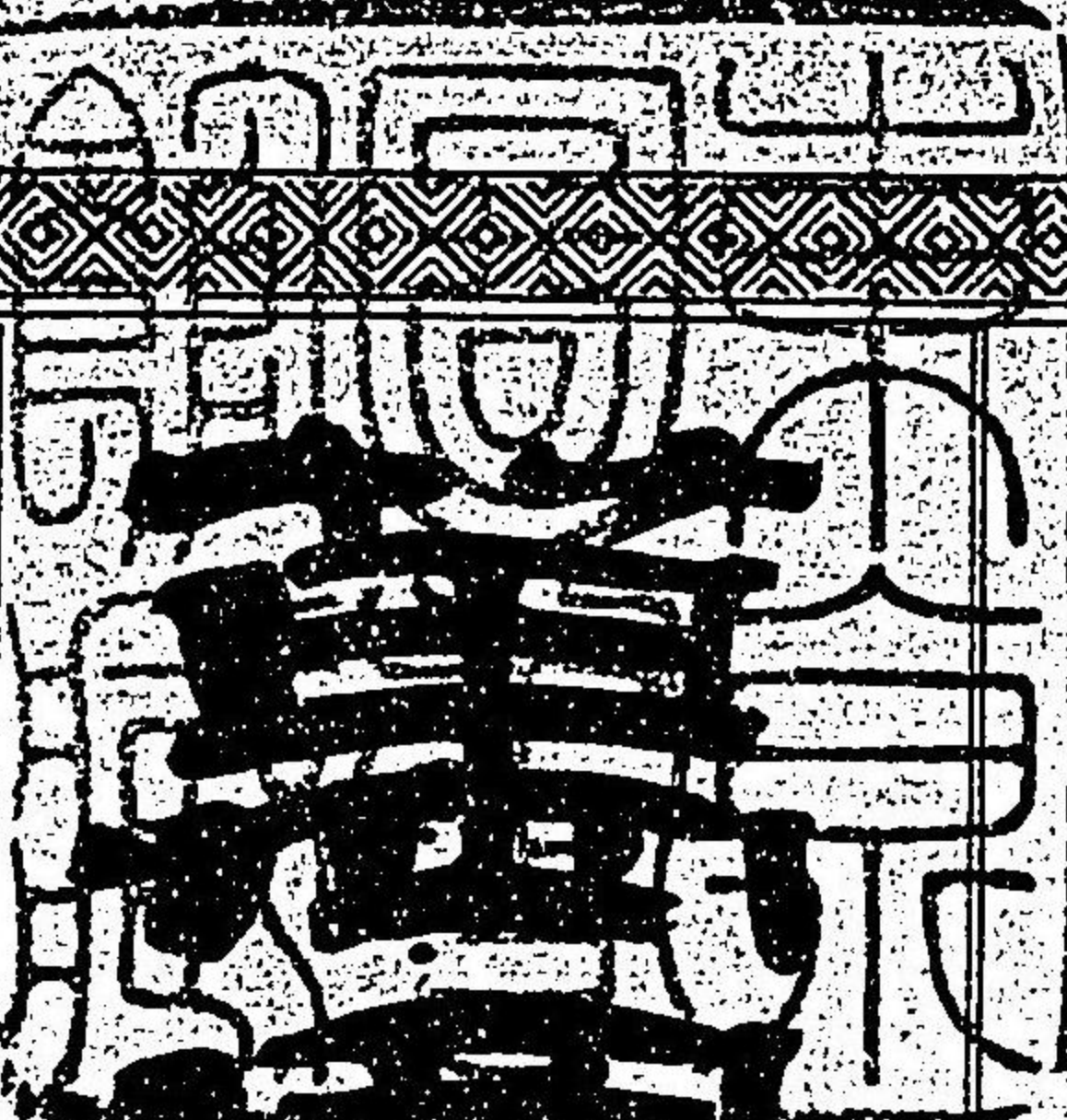
原
山
正
如
著
辭

東京
博文
館
藏
版



68
93

特
309

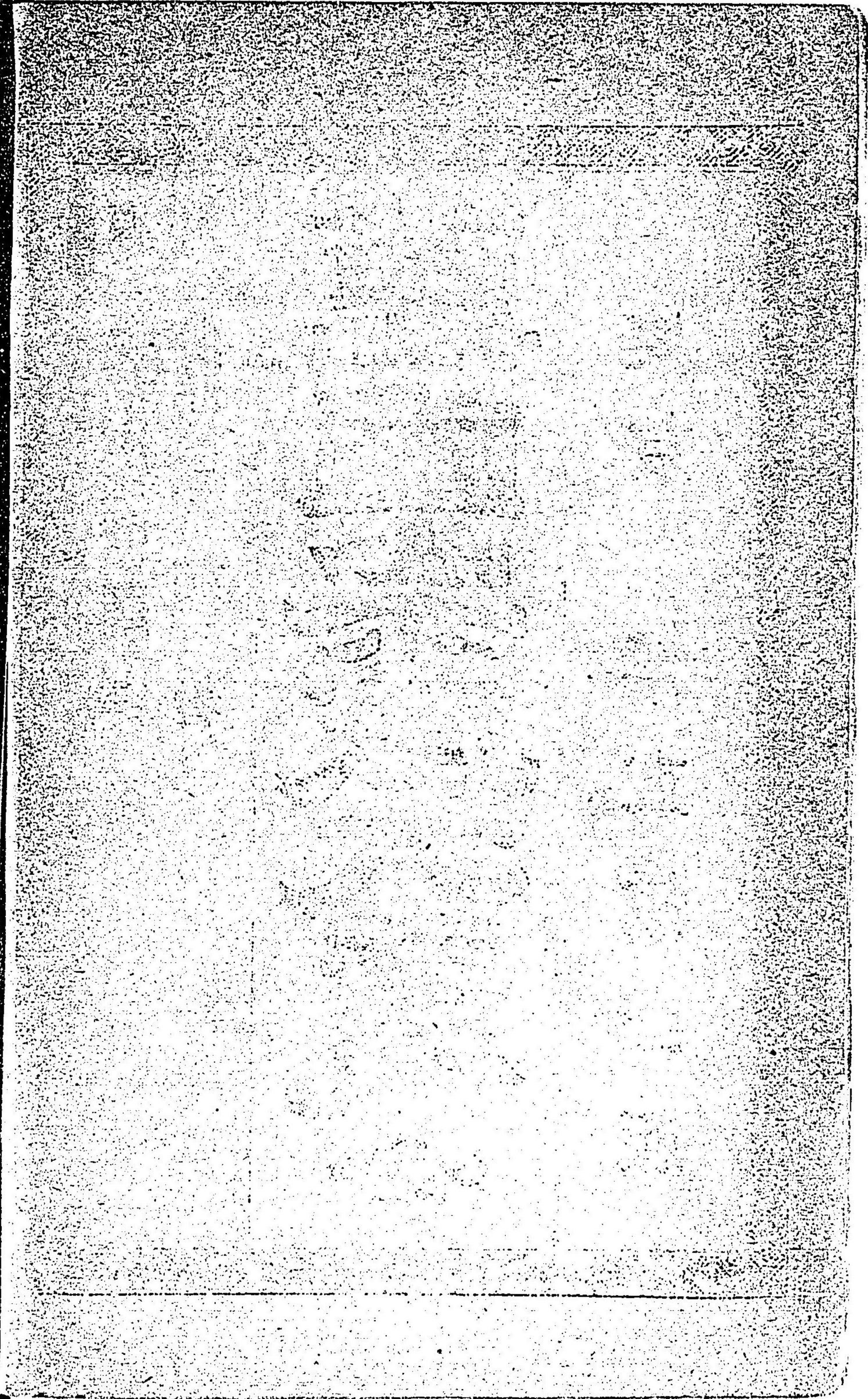


原 坦 山 師 題 辭
內 山 正 如 著

禮 記 宗 義 大 意 全

東 京 博 文 館 藏 版

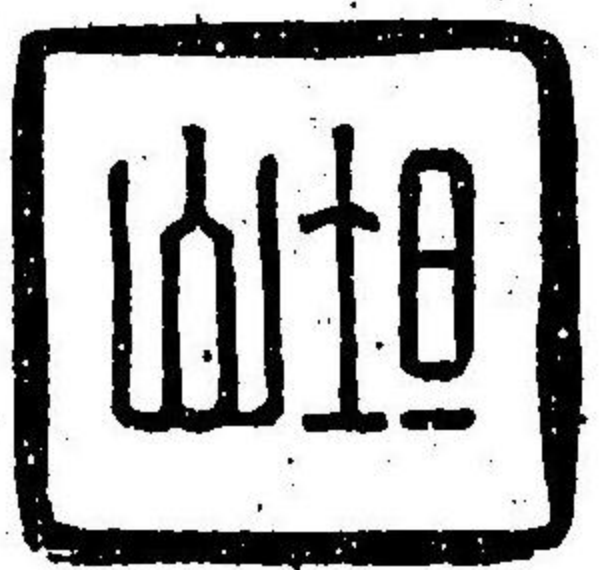






心

明道之官家
子之官家



萬國宗教大意自序

古今時ヲ異ニス人心豈ニ異ナカラシヤ人心既ニ異ナル宗教豈ニ獨リ舊狀ヲ墨守センヤ夫レ宗教ハ社會ト共ニ變遷發達セサル可カラス然ラサレハ背世悖時遂ニ湮滅ニ歸スノ外ナシ當今宇内ノ文物ハ燦然トシテ著明ノ進步ヲ爲シ人民ノ着想亦タ昔日ト天淵ノ差アリ然リ而フシテ能ク斯世斯人ヲ利濟シ現未ノ樂境ヲ得セシムルノ宗教ハ果シテ此等人世ニ適應スルノ實力ヲ有スルナル乎粗ヨリ精ニ進ミ微ヨリ著ニ到ルハ萬物進步ノ原則ナリ現今ノ宗教ハ果シテ此等ノ原則

ニ徴シ得ベキ乎余ハ之ヲ知ル希臘北歐等ノ粗拙ノ神
 教ハ既ニ世ニ竄形シ稍ヤ精緻ニ進ミタル歐亞ノ中世
 教ハ互ニ優劣ヲ競ヒ版圖ヲ角フノ小天地ニ餘念ナキ
 ナ而シテ未タ一教ノ超然トシテ舊套ヲ脱シ社會ト共
 ニ進歩シテ遠大ノ教益ヲ今日ニ謀ルモノナキヲ知ル
 耶蘇教ハ運轉ニ勝ツ然レトモ船舶脆弱ニシテ實理海
 ナ航スルニ足ラス佛教ハ船舶ニ勝ツ然レドモ運轉拙
 劣ニシテ實理海ヲ航スルニ足ラス鴨短鶴長兩者各ノ
 一端ニ僻ス乃チ推測的ノ教理ヲ以テ實理活動ノ現時
 ニ適セシメントス背世悖時舊狀ヲ墨守スルニ非ズシ

テ何ソ願フニ宗教布宣ノ要道ハ教理ヲシテ能ク時勢
 ニ應シ人情ニ適セシメ以テ其機ニ乗スルニアリ而シ
 テ機ハ一髮ノ間ニアリ悠々閑過シテ何時カ之ニ乗セ
 ン日本現今ノ僧侶ハ機ヲ見ルニ迂ニシテ事理ヲ辨ス
 ルニ踈ナリ故ニ動モスレハ自家ノ宗義ダモ知ラサル
 アリ況ヤ餘教ノ如キハ其名モ知ラス斯ノ如キ僧侶ニ
 管理セララル、宗教ノ傾運想フベシ余頃日感スル所ア
 リテ本書ヲ著ハス然レトモ身ハ劇務ノ衝ニアルヲ以
 テ心織筆耕其餘暇ヲ得ス故ニ其宗教ヲ記スル所敢テ
 自家ノ評論ヲ加ヘス唯タ漫然其大要ヲ述ヘテ童蒙初

學ノ徒ニ便ス蓋シ其ノ微衷ノ存スル所ハ徒ニ萬國ノ
 宗教ヲ臚列シテ其名ヲ知ラシムルニ非ス庶幾クハ其
 能ク性質ノ那邊ニ存スルカナ鑒識シ而シテ現今社會
 ノ發達ニ適應スルノ完全宗教ヲ指定シ利濟ノ要道ヲ
 得ルノ小楷梯タラシメンユトヲ冀望スル者ナリト云
 爾

明治二十四年秋十月上澣

幻堂居士識

凡例

- 一 宗教ニ關スル書類ノ梓ニ上ルモノ鮮シトモ然レモ多クハ
- 一 宗一派内ノ教義ヲ述フルノミニシテ博ク各教ニ涉ラス之
- レ本書ヲ編述シテ各教大意ヲ了解スルノ便ニ供ス
- 一 本書ノ目的前陳ノ如シト雖モ本書ノ主トスル所ハ佛教ニア
- リ而シテ宗教界ノ萬象ヲ審知スル爲メ漸次各教ノ教義ニ及
- ブナリ
- 一 本書初メ宗教演說體ヲ以テ記述ス中口思フ所アリテ之ヲ改
- ム然レモ猶ホ未ダ澁滯重複アルヲ免カレヌ是レ拙文ノ罪ノ
- ミ請フ更ニ他日ヲ待テ之ヲ訂サン
- 一 本書ハ專ラ教學研究初歩者ノ便ヲ與フルニ據ルヲ以テ務メ
- テ行文ノ平易ヲ計リ且ツ傍訓ヲ施ストセリ

一本書記述ノ教數内外諸籍ノ標定ニ依リテ且ク十三宗トセリ
 而シテ其順序ノ如キハ全ク著者ノ適意ニ出ツ
 一本書記述ノ洋名中國名ニハ其傍ヲニ復線ナ記シ人名ニハ
 單線ナ施シ亦特別ノ稱號及ヒ古哲ノ名言ニハ括弧「」ヲ用
 ヒ置ク
 一本書ノ初メニ挿入セシ像中孔子ヲ以テ他ノ教祖ニ加ヘ以テ
 五大教祖ニ配列セシハ頗ル不權衡ニ似タリ然レモハ且ク
 儒教ノ祖タル邊ヨリ出セシ迄ニテ敢テ宗教真相的ノ撰擇ニ
 依リシニ非ス猶ホ老聃ヲ加ヘテ六大教祖トナスモ妨ナキモ
 ノトス亦タ本書標題ニ萬國ノ二字ヲ附スルハ各種宗教ノ萬
 國ニ瀰漫シツ、アル點ヨリ冠用セシモノナリ

著者識

萬國宗教大意目錄

第壹編

總論

第壹章 宗教ノ定義……………丁

第貳章 宗教ノ起原……………五丁

第三章 宗教ノ發達……………一二丁

第四章 宗教ノ教理……………一八丁

第五章 宗教ノ勢力……………二四丁

第六章 宗教ノ種類……………三〇丁

第七章 宗教ノ異名……………四三丁

第貳編

佛教

第壹章 緒論……………五一丁

第貳章	佛教ノ大體	五三丁
第三章	佛教ノ組織	五九丁
第四章	五教ノ概要	六〇丁
第五章	佛教ノ本旨	六八丁
第六章	信佛家ノ本色	七〇丁
第七章	信教ノ理由	七八丁
第八章	佛教ノ傳道	八六丁
第一、印度ノ傳道		九〇丁
第二、支那ノ傳道		一〇二丁
第三、日本ノ傳道		一二四丁
第九章	各宗派一覽	一二八丁
第十章	喇嘛教一斑	一三七丁

洋教

第壹章	洋教ノ起源	一三九丁
第貳章	猶太教ノ教義及來歴	一四四丁
第三章	基督教ノ教義及來歴	一五三丁
第一、羅馬教		一五九丁
第二、希臘教		一六三丁
第三、新教		一六八丁
第四、蘇格蘭國教		一七二丁
第五、英蘭及愛耳蘭國教		一七四丁
第六、惟一自由耶穌教		一七八丁
第四章	回々教ノ教義及來歴	一九一丁
第五章	摩爾門教	一九七丁

第四編

印度教

第壹章 緒論……………二〇一丁

第二章 古教ウエタ教……………二〇二丁

第三章 中世教婆羅門教……………二〇三丁

第四章 近世教アラナ教……………二〇七丁

第五編 諸國神教

第壹章 波斯教拜火教……………二二一丁

第二章 斯干的那維教……………二二五丁

第三章 埃及神教……………二二九丁

第四章 羅馬神教……………二三四丁

第五章 希臘神教……………二六六丁

第六編

(上) 支那教

第壹章 儒教……………二二九丁

儒教ノ性質……………二二九丁

第二章 道教……………二三六丁

儒道兩教ノ比較……………二三九丁

(下) 日本教

第壹章 神道……………二四三丁

第一、神道ノ本義……………二四三丁

第二、神義ノ沿革……………二四六丁

第三、神道ト國學トノ關係……………二五二丁

第四、神道教派及各神社……………二五五丁

第七編 宗教餘論

第壹章 宗教と學術との關係……………二六三丁

第二章 宗教と法律との關係……………二六六丁

第三章 宗教ノ前途ヲ論ス……………二七〇丁

第八編

宗教大祖傳……………

第一 摩西傳……………二七九丁

第二 釋迦牟尼傳……………二八二丁

第三 耶穌基督傳……………二八五丁

第四 馬哈默德傳……………二八九丁

第五 孔子傳……………二九四丁

第六 摩丁路德傳……………二九八丁

第七 瑣羅亞德爾傳……………三〇四丁

第八 老子傳……………三〇五丁

第九 傳教大師傳……………三〇七丁

第十 弘法大師傳……………三二二丁

第十一 日蓮上人傳……………三二六丁

第十二 見真大師傳……………三三三丁

第九篇

通俗哲學大意

第一章 總說……………三二七丁

第二章 希臘哲學史……………三三〇丁

第三章 近世哲學史……………三三二丁

第四章 テールヌス氏ノ說……………三三七丁

第五章 ソクラチース氏ノ說……………三三九丁

五教祖生真像

釋迦

孔子



耶穌

摩西

黑哈爾德

萬國宗教大意目錄畢

萬國宗教大意

幻堂居士 内山正如著

第壹篇 總論

第壹章 宗教ノ定義

夫レ國家ヲ泰出ノ安ニ措キ社會ノ進歩ヲ永遠ニ期セントセハ必ス先ツ開化ノ基礎トナリ文明ノ精神トナレベキ者ヲ確定セサルベカラズ而シテ其能ク精神基礎トナリ社會進歩ニ實力ヲ與之ル者ヲ果シテ何トカ爲ス謂ク他ナシ宇宙間ニ瀰滿スル所ノ真正宗教即チ其精神基礎ナリ世々若シ宗教ヲ棄テ道德ヲ外ニセハ如何ニ國家ノ文運化育ヲ網羅セント欲スルモ到底得ベカラサル也

抑モ宗教ハ如何ナルモノ歟世人動モスレハ宗教チ一言ノ下ニ排斥シ卑下シテ之ヲ聽クコトヲ欲セス所謂喰ハス嫌ヒナル傾習ヲ以テ一般ノ宗教ヲ顧ミサルナリ是レ佛敎ナリ耶蘇敎ナリ又タ神道ナリ其信向スヘキ要部ニ着目セズシテ單ニ外形ニ横ハルトコロノ弊處ノミヲ認

メケル一種偏僻ナル見解ヨリ生スルモノニテ甚シキニ至ツテハ其弊處ヲ以テ直ニ宗教ノ實相實體ナリト思惟スルモノアルニ職由セリ恰モ大陽赫トシテ中天ニ輝ケドモ暫ク雲霧ニ蔽鎖セラレ爲メニ光明ノ發セサルヲ見テ既ニ夕暮ニ沈ノリト誤認スルニ等シク是皆宗教ノ何物タルヲ知ラサル妄議ノ致ス所ナリ夫レ宗教ハ社會ノ一大至寶ニシテ天地ノ有ン限リハ未來萬葉必ラス存在スベキモノナリ今茲ニ宗教ノ定義ヲ述ヘンニ蓋シ宗教ナルモノハ之ヲ一言ニ論究スレハ實ニ安心立命ノ位置ニ達セシムルノ術ナリ凡ソ人ニシテ苟モ安心立命スルコトヲ得サル時ハ一日モ社會ニ生活スルヲ能ハザルヘシ若シ生活スルモノアリトスレハ是レ背德悖義素ヨリ論スルニ足ラス故ニ人ノ人タル所以ノモノハ造次頓沛ノ間モ安心立命ノ道ニ基キ以テ放逸邪恣ヲ制セサルベカラス是レ萬教ヲ總括シテ漏スナキノ定義ナリ然リ而シテ泰西學者カ古來唱導スル所ノ宗教ノ說ハ其義一ナラスドクトルスタイン氏ハ曰ク宗教ノ宗教タル精神ハ凡ソ善ナルモノ美ナルモノニ對シテ發揮スル熱情ナリト次ニカント氏ハ曰ク凡テ我等ノ義務ヲ神命トシテ認識スルモノヲ謂フト此意ハ吾人ノ將ニ實踐躬行スヘキ義務ノ外ニ亦タ宗教ナルモノナシト換言スレハ道德即チ宗教ナリトイフニアリ次ニス

ライマー氏ハ宗教ノ神髓タルモノハ智識ニアラス行爲ニアラス即チ感情ノ一點ニアリトシテ曰ク宗教ハ吾人ガ宇宙ノ絶待ナル基因ニ全ク依頼スルノ感情ナリト此意ハ吾人ノ心中ニ宇宙ノ絶待者即チ全智全能者ヲ想定シテ之ニ依托シテ以テ安心立命ノ位置ニ達スルナリトイフニ外ナラス次ニドクトルマルチノ一氏ハ曰ク宗教ハ常ニ生ケル神即チ宇宙間ヲ支配シ人類ト道德トノ關係ヲ有スル神的心意ヲ信スル信仰ヲ意味スルモノナリト此意ハ宇宙間ニ於テ人類ノ道德ヲ支配シツ、アル一種不可思議ノ精神アリテ存立セルヲ信スルノ觀念ヲ以テ宗教ノ本義トスルカ如シ次ニワオイエルバ氏ハ前記諸氏ノ如キ説明シ難キ一種不可思議ノ感想チイフニ非スシテ吾人ガ意思ト能力欲望カ併合スル事ノ相協ハサルニ起因セル感情ヲ以テ宗教ノ本義トセリ其意蓋シ吾人ノ能力ハ悉ク吾人ノ意志ヲ満足セシメス時トシテハ能力意志相協ハサル際アリ此際ニ方リテ能ク其不權衡ヲ整調シ満足スヘキ媒助ヲ與フルモノ即チ宗教ナリト云フニアリ又カント氏ノ如キハ實驗理學ヲ主唱シテ宇宙ノ萬物ハ實驗以外ニ於テ信ヲ置クニ足ルモノナシ天帝ト云ヒ來世ト云ヒ又タ靈魂ト云フカ如キ實驗以外ニ實體ヲ定ムルハ人智ノ範圍ニアラス人ハ知ルベキ限りニ於テ知り得ベク知ルベカラサ

ル者ニ就テ之ヲ定ムルハ所謂架空ノ説タルニ過ストセリ其意蓋シ不可知的ノ宗教ヲ以テ可
 知的ニ下シ論ゼシナリ次ニ近世ニ至リスペンサー氏ハ全ク之ニ反對シ世界ヲ以テ可知的不
 可知的ノ二種トナシ可知的世界ハ専ラ科學ノ關スル處ニシテ事々物々實驗ニ徴シテ之ヲ知
 リ得ベク而シテ不可知的ノ世界ハ全ク人智ノ達シ能ハサル世界科學ノ以テ攻究スベカラサ
 ル境界ニシテ即チ宗教ノ依テ以テ存立スル處ナリト其意全クカント氏ノ實驗說宗教論ニ反
 對シ宗教ヲ以テ不可知的トシ科學的攻究ノ達シ得サル地位ニ置ケリ其他宗教ハ神人二者ノ
 關係ヲ示スモノナリトモ論セリ斯ノ如ク古今泰西ノ學者ハ宗教ノ本義ヲ下ス一區々ナリ之
 ヲ要スルニ諸氏ノ論點ハ概テ根據ヲ自家ノ宗教ニ建テ豫メ絶待ノ眞理ヲ假定シ之ニ依テ他
 說ヲ排斥スルニ外ナラス故ニ其論ノ歸スル所口偏頗ニ陥入り易ク又タ虛誕ノ謂ヲ免カレヌ
 乍併 近來學術ノ研究日ニ精密ヲ加ヘ心理學ノ如キハ非常ノ進歩ニシテ博ク生物界ニ涉リ
 比較考察ヲ以テ研究スルニ至リ大ニ心理學上ノ光輝ヲ發揚セリ又タ人類學社會學等ノ進歩
 著シキヨリ宗教之ガ影響ヲ受クル少ナカラサルヲ以テ比較研究ノ方法ニ依リ社會ノ進化ヲ
 考察シ各種ノ宗教ヲ對照シテ毫モ一己ノ偏見に拘泥セズ虛氣平意以テ宇宙ノ天則ニ基キ公

明ニ研究スルノ方法ヲ取レリ要スルニ完全適當ノ定論ヲ得ニハ須ラク自然的發達ノ順序ニ
 據リ結果ヨリ原因ヲ推シ歷史的論理的ノ二法ヲ以テ之カ推知ヲ爲サ、ルベカラス然レモ宗
 教大綱ノ定義タルニ至テハ人ナシテ安心立命ノ位地ニ達セシムル要道ニ歸着セサルベカラ
 ス
 然リ而シテ宗教ナル字語ノ淵源スル所ハ羅典ノ原語ヨリ出シナリ彼ノ有名ナルシセロ之ヲ
 始唱セシテ諸書ニ見ユシセロハ宗教即チ「レリシヨン」ト云フ語ヲ「レレングエン」ト云フ
 語ヨリ轉用シ來リ而シテ野蠻宗教ノ信仰ニ反對セル特別ノ神ヲ信仰スル意義ニ用ヘタリ羅
 典ノ學者某氏ハ此「レリシヨン」ト云フ語ヲ「レリングエン」ナル語ヨリ轉用セリト云フ説モ
 アレモ畢竟宗教ト云フ語ノ意義ハ大同小異ナルベシ

第二章 宗教ノ起源

宗教ノ起源及ヒ變遷ハ古來種々ノ異說アリカント氏ハ拜物教ヲ以テ初代ノ宗教ト爲シ之ヨ
 リ漸次變遷シテ多神教ニ移リ進ニテ遂ニ宇宙ノ主宰者即チ獨一眞神ヲ立ツルニ至レリト云
 ヒ或ハ人類ノ神ヲ信シタルハ人性ノ理ヲ推シ萬物ノ理ヲ究ムルヨリ起生セシモノナリト云

ヘリ又天然ノ傾向ヲ以テ宗教ノ起源ヲ論スルモノアリ此説ニ依レハ神アルヲ信スルニ至ルハ人ノ絶テ知ラサルヲ推究シテ知ルニモアラス人ノ心性ニ何トナク神アルヲ信セサルヲ得サル傾キヲ抱クヨリ遂ニ進ンテ今日ニ至ルナリト或ハ神ノ存在ヲ知ルニ至ルハ神力ノ能スル處ニアラス全ク天啓ニ出ツルナリト云フカ如キ種々ノ説アリト雖モ之ヲ要スルニ其重ナル特性ニ依リテ二大種ニ分チ得ヘシ其一ハ多ク器械的ノ所論ニシテ宗教ヲ外ヨリ人ニ與ヘラレタルモノ、如ク論シ其起源ヲ以テ外部ノ原因ニ歸スルナリ其二ハ心理的ノ所論ニシテ宗教ヲ特ニ内部心理上ノ本源ヨリ引出シ首トシテ其宗教ノ總念ヲ生シ且ツ最モ靈妙ナル重キチ有スルハ如何ナル心靈上ノ力ナルカト云フニ止ルナリ然レモ是皆ナ何レモ現在ノ結果ヲ見テ直ニ考察ヲ下セシニ過キス即チ起ルベキノ原因ニ考ヘ其時ノ事情ニ當テ精密ニ考察ヲ下セシモノニアラス故ニ先ツ之ヲ攻究センニハ宗教最初ノ有様ヨリ宗教發生ノ次第ニ及ボシ如何ナル自然的發生ノ順序ヲ得タルカヲ研究セサルベカラス輒近ダーヴィン氏スベンサー氏等カ唱尋スル所ノ社會進化論動物進化論ハ全ク此意ニ外ナラサルナリ今便宜ノ爲メ且ク宗教原始時代ノ觀念ヨリ述ベシ凡ソ宇内萬國ノ形勢千差萬別ニシテ其

信スル所各々一ナラズ或ハ日月山川禽獸草木ヲ拜スルアリ或ハ一神ヲ奉シ或ハ多神ヲ奉スルアリ而シテ此等種多ノ信仰物ハ逐一次章ニ於テ辨スル所アリ今此ノ千態萬狀ナル各國宗教中彼此相符合スル所ノモノヲ求メ出シ宗教ノ起源ハ如何ナル觀念ヨリ生セシ者ナルヤヲ定ムヘシ

物必ス本末アリテ存ス恰モ草木ノ萌芽落葉アリ河水ノ源派アルカ如シ單純ナル宗教ノ語ハ普ク全世界一般ノ宗教ヲ指スモノニシテ一二宗教ノ偏名ニアラス然ルニ世ノ愚狂者ハ宗教ニ各種アルヲ知ラス邪正眞僞ヲ指定セス一概ニ宗教ヲ以テ國家ニ益ナク利ナク無用物ナルモノト擯斥シ其一二弊害ノアル所ヲ摘發シテ宗教ノ真相ナリ全面ナリト誤認ス豈ニ浩歎ノ至リナラズヤ

夫レ人タルモノニハ二様ノ要件ナクンハアラス則チ識ルコト愛スルヲ是ナリカント氏曰ク「宗教ハ如何ナル状態ニアリテモ必ス二個自然ノ勢力ノ一致ヲ催サ、ルモノナシ一ハ客觀的ニシテ畢竟智力ニ屬スルモノナシ一ハ主觀的ニシテ畢竟純正道德ニ屬スルモノナシ」フ斯ノ如クニシテ宗教ハ道理ニ干渉スルト共ニ又情感ニ關係スルモノナリ一ヲ措キテ獨リ眞

正ノ信仰ヲ設定スルヲ得ス」ト故ニ宗教ハ素ト觀念ノ發表セシモノナリ人生レテ天地間ニ住シ仰テ日月星辰ヲ視俯シテ山川草木ヲ察スレモ其何時ヨリ現ハレ其如何ヨリ成ルカヲ知ル能ハス然レモ思想ノ發達ト共ニ一個ノ觀念ヲ起シ此觀察ハ人間歸向ノ容體トナルヘシ若シ道理ト情感トハ相一致セザルモノナラシメハ宗教ハ哲學若クハ「ミスチシスム」(秘教)ニ分離セザルヲ得ズ宗教ハ全ク理想的ノモノモノナラハ已ニ宗教ト云テ得ズ寧ロ哲學ト云フベキナリ反レ之只ク情感ニノミ根底スルモノナラハ之ヲ情感ト云フノ外ナキナリ凡ソ人ハ情感理想ノ發達スルニ從ヒ宇宙ノ大理ヲ研究セントスルモノナル故ニ其結果ハ遂ニ二個ノ形迹ヲ現ハシタリ即チ一神教ト多神教トニシテ「セミチツク」八種ハ大極ノ原因ハ只是レ一個ナリトノ觀念ヲ起シ「エレヤン」八種ハ宇宙ニ現ハルヘキ第三流ノ原因ナモ神トナシ又「チユラニアン」八種ハ原因ヲ恐ル、ノミニテ其果シテ何レヨリ來リ何レニ去ルモノナルヤチ問ハズシテ止ミタリ是ノ如ク專ラ情感ヲ以テ觀念ヲ作りシ時ノ宗教モ人間種族ガ稍ヤ哲學的ノ觀念ヲ生スルニ至リテ始メテ太極ノ原因死生ノ原因未來ノ有無ヲ説ク宗教ヲ見ルニ至ルヘシ

然レモ宗教ナル名稱ハ一二ヲ指スノ偏名ニアラズシテ世界全般ノ宗教ヲ指スモノナル故其一般ニ通有スル所ノ觀念ヲ以テ宗教ノ起源ト定メサルベカラス果シテ然ラハ如何ナル觀念ヲ以テ一般ニ通有スルモノトナス乎予輩ハ茲ニ二大性質ノ觀念ヲ以テ一般ニ貫通スルモノアルヲ信ス謂ク一ハ幽界存在ヲ信スルノ觀念一ハ神人關係ヲ信スルノ觀念是レナリ此ノ二大性質コソ實ニ宗教全般ノ通有觀念ニシテ所謂宗教ノ本源ナリト謂フヲ得ベシ請フ此レヨリ其所以ヲ述ベ尋テ宗教ノ發達ニ及ブヘシ抑モ宗教ノ名稱アル教ハ必スヤ幽界有立ヲ信仰スルノ性質觀念ヨリ生セザルハトシ幽界ノ名タルヤ博シ地獄ト云ヒ極樂ト云ヒ或ハ天堂或ハ冥界ト云フ此皆ナ幽界ノ別稱ナリ故ニ宗教ニシテ此ノ性質ナキモノハ快シテアラサルナリ如何トナレハ我身ノ靈魂ノ存スル一ヲ信セザル者ニハ冥界即チ地獄極樂ノ存スルト云フ信仰モ生セズ此信仰生セザルモノハ隨テ神佛ノ存在スルト云フ一モ先祖ノ尊靈ヲ祭ルト云フカ如キ考ヘモ生セズ況ンヤ呪咀祈禱犧牲供物等ノ如キ行爲ニ至テハ毫モ萌生セザレハナリ此ノ如ク幽界ノ存在ヲ信仰スル性質觀念ナキモノハ到底宗教タルノ資格ナキモノニテ假令ハ磁石ニ吸引力ナク水ニ浸潤力ナキ如ク

最早其價効ナキモノナレハ宗教ト名付ベカラス故ニ宗教ノ宗教タル所以ノモノハ實ニ此ノ信仰力ヲ含有スルト否ヤトニアルベシ好シ其儀式即チ教式ニ於テハ欠ル所アルモ夫ハ一教一派ノ別方ヨリ論スルマデナレハ強ガチ此特性上ニ於テ喋々ヲ要セス唯々此ノ幽界存在ノ觀念ニコソ實ニ宗教ノ起源タル名稱ヲ與フルニ妨ケナカルベシト信ズルナリ

而シテ此性質觀念タルヤ何レノ國、何レノ時代ニ於テモ一般ニ之ヲ有セサルハナシ換言スレハ宗教最初ノ人民ハ世界一般ニ我々ノ靈魂ハ常ニ存在シテ死シテ冥界ニ入ルモノナリト信セリミリガン氏ノ説ニ依レハ「タスマニア」人種ハ自己ヲ守護スル靈魂ノ存スルヲ信シ且ツ其靈魂ヲ稱シテ「ウアルラウ」即チ幽靈怪物ノ如キモノナリト云ヘリ又タキーング氏ハ曰ク「チツペウ」人種ハ靈魂ノ時々旅行スルヲ信シ且ツ昏睡氣絶等ノ時ハ靈魂旅行シテ其通行ヲ抗拒セラレテ暫ク身体ニ歸リ其人初メテ活氣ヲ生スルモノナリト信セリト如此ノ靈魂ト其靈魂ノ歸着スル所ノ幽界トノ存在ヲ信仰スルハ諸國同一ニテ我國ノ如キモ又タ古代之ニ類スルモノアリ开ハ予カ喋々ヲ要セズシテ讀者諸君ノ了知セラル、所ナリ然リ而シテ此等人民ノ觀念ハ獨リ野蠻未開ノ時代ノミナラズシテ博ク今日開明ノ世ニモ行

ハレアルヲ見ルベシ然レドモ其信仰スル所往古野蠻人ノ如クナラス最モ神妙ナル靈體ナリト信ズルナリ假令ハ彼ノ強國富米ノ人民社會ニ於テハ基督教ノアルアリテ靈魂不滅ヲ信シテ天國天堂ヲ死後ノ着所トセリ又タ我が大日本帝國及ヒ支那印度ノ如キモ歐米ト對峙スベキノ國ニシテ其ノ佛教ノ布及スル所ノ人民ハ皆テ靈魂ノ存在ヲ知り未來ノ苦樂アルヲ信スルノ觀念深シ故ニ國ノ文野ヲ論セス世界一般ニ通有シツ、アルモノハ實ニ此靈魂存在ヲ信スル性質觀念ナリトイフベシ

次ニ第二ノ特性ナリトセシ神人ノ關係ヲ信スル性質觀念ヲ演ズベシ凡ソ全世界一切ノ宗教多シト雖トモ畢竟スル所ハ乃チ神人二者ノ關係ヲ説サルモノハナキナリ、佛教ニ於テハ神ト稱スルノ名目ヲ用ヘズト雖トモ神人ニ代フルニ佛、衆生ノ二界ヲ立テ或ハ眞如無明ト云ヒ或ハ菩提煩惱ト云ヒ或ハ有爲無爲ト云ヒ或ハ生死涅槃ト云フモノ即チ神人二者ノ關係タルニ相違ナシ、而シテ基督教回々猶太教ノ如キハ素ヨリ神人ノ名稱アルヲ以テ或ハ「神ト人トノ結合」或ハ「神ノ信仰」或ハ「眞ノ神ノ存在」或ハ「人ノ神ニ於ケル愛」或ハ「神ト人トノ約束」等種々其關係ヲ説ケリ又タ彼ノ亞弗利加ノ蠻民中ニ行ハル、如キ木石動物ヲ拜崇

シ鬼神ヲ敬畏スル宗教ニ於テモ既ニ之ヲ拜崇敬畏シテ離苦得樂禍滅福生ヲ祈ルモノナレハ是亦神カ人ヲ保護スル關係ヲ信仰スルモノニ非ズヤ、去レハ世界萬教ヲ推並ベテ一般ニ神人二者ノ關係ヲ説ク同一ニ唯ダ其宗教ノ異ナルニ由テ神人二者ノ關係ヲ明スノ字語名稱ニ差アルマデナリ、既ニ斯ノ如シ故ニ此ノ第二ノ特性タルモノ亦實ニ宗教一般ノ本性ニシテ苟クモ第一ノ特性即チ幽界存在ヲ信仰スル性質アルモノハ隨テ此性質ナクンハアルベカラス、畢竟佛尊ヲ信シ一神ヲ愛シ鬼神ヲ怖レ祖先ヲ參ル等ノ如キモ皆ナ是レ二者ノ關係アルヲ信スレハナリ、人ノ神ニ關係アレハコソ或ハ愛シ或ハ信スル事モ生スルナリ若シ此關係ナケレハ到底何レノ邊ニ於テカ信愛敬畏ノ念ヲ生スベキカ、之ヲ要スルニ此關係ハ第一ノ性質觀念ト共ニ宗教起源ノ一大要素トイフベシ故ニ若シ此關係ヲシテ宗教ニ失ナハシメハ遂ニ宗教ノ要素ヲ缺キ人體膈アリテ手足ナキニ均シク何ヲ以テ之カ運用ヲ爲シ得ベキヤ、是レ予カ宗教世界通有ノ第二性質ナリト謂フ所以ナリ

第三章 宗教ノ發達

宇内萬國ヲ推並ヘテ風俗文野異ナレド各民一般ニ種々ノ宗教信仰ヲ以テ充滿セリ或ハ其儀

式ヲ以テ主トスルアリ或ハ其組織ヲ以テ異ナルアリ或ハ教理ヲ以テ異ナルアリ而シテ今日茲ニ一派ノ信徒偶像ヲ尊信スルアルモ明日他教ノ宣教師ニヨリテ破壊セラル、コトアリ又タ其愛兒ヲ火中ニ投シテ神ニ供スルノ父アレハ彼ニ其子ヲ養育シテ神意ニ適ヘルモノトセル母アリ一人美ノ神ヲ奉スルモノアレハ一人醜ノ神ニ敬事スルモノアリ甲國民ノ神ハ乙國民ノ惡魔ナリ而シテ皆是レ宗教信仰性質ノ一念ニ出デタル結果ニ外ナラサルナリ折モ自然ガ最モ簡單ナル方便ヲ以テ最モ複雑ナル結果ヲ生スルコトハ吾人ガ萬物ニ就テ之ヲ實驗スル所ナルガ此大法ハ果シテ宗教信仰上ニモ亦行ハル、ヲ見ル宗教信仰ハ許多ノ群族ニ分化スレドモ畢竟通有ノ根原ニ歸スルヲ得ルナリ宗教ハ人類ノ社會ニ現ハル、萬事萬物ノ如ク成長モシ成熟モシ又タ零落モスルモノナリ一旦信仰カ有生體トナルヤ忽チ其妙力ヲ智識及ヒ情感ノ上ニ逞フシ興廢生滅展々極リナシ例セハ一花ノ爛熳タルヲ見ルモ又凍冽タル疑惑ノ冷氣ニ觸レテ漸々枯凋スルニ至ルカ如シ然レトモ其枯凋ノ前已ニ菁々タル新芽ヲ其周圍ニ播種スルヲ見ルナリ

宗教ハ一區ノ境域ニ於テ直チニ完然ニ達スヘキモノニ非ス其成熟ノ期ニ至ルマテハ幾多ノ

歲月ト幾多ノ改革變遷ヲ受ケサルベカラズ凡ソ世界ニハ其如何ナル時代タルヲ問ハス宗教ノ觀念ハ存セサルコトナシ此事既ニ前章ニ於テ辨述セシカ如シ予輩ハ祖先教、偶像教、凡物教、動物教、植物教、自然物教ヲ以テ皆ナ同一ナル宗教觀念ヨリ生セシモノトスルハ甚ダ信シ難キニ似タレトモ比較的宗教學者ノ謂フ所ニ準スレハ畢竟同一ナルモノト爲サ、ルベカラズ原始時代ノ無形體ノ信仰ハ進ンテ一定ノ形體ヲ具ヘテ自然ノ禮拜トナリ又タ多神教偶像教ヲ經過シテ唯一神教或ハ萬有神教トナルナリ是レ其始メ一個微々タル信仰ヨリ追々頭角ヲ露ハシ來リ更ニ他ノ宗教興リ一ハ衰ヘ一ハ榮ヘ遂ニ終極ノ境界ニ達スルマテ進々歩々シテ止マサルナリ予輩ハ此信仰ナル未成胎兒カ斯クモ偉大ナル此年トナリタルヲ驚カザルヲ得ズ然レトモ此青年ハ果シテ完全ナルヤト問ハ、予等ハ尙ホ不具ナリト答ヘサルヲ得ザルナリ甲ハ寂滅ノ教理ニ依リテ森羅萬象ヲ無常視シ獨得ノ幽義ヲ主張スルニモ係ハラズ乙ハ有神有物ノ教説ヲ立テ、犧牲ノ儀式ヲ盛行スルモノアリ彼ニ情感的宗教ノ顯象ヲ完全ナラシメント勉ムルアレハ此ニ智力的宗教ノ顯象ヲ專ニセントスルモノアルアリ夫レ小兒ノ身體ニ於ケル諸機關ノ構造ハ其肉體ノ安全ヲ計レハナリ而シテ小兒ノ其諸機關カ一定ノ發達ニ進ムマテハ未ダ以テ充分ナル四肢ヲ具ヘサルナリ宗教ノ發達モ又何ソ是ニ異ナランヤ宗教ノ顯象ハ各々無形ノ機關則チ宗教上ノ傾向ヲ發表スルモノナリ凡テ人類ノ宗教上ノ傾向未ダ發達セス且ツ相合同セサルトキハ必ス不完全ナルコトヲ免レズ予ハ彼ノ「ハールチス」人種ノ徹夜ノ酒宴ノ如キ「モッコ」人種ノ生血儀式ノ如キ一見戰慄スベキ儀式ヲ許セル宗教ノ存スルアリ是等ハ皆ナ未ダ發達セサル未成胎兒ノ分ニシテ殆ント臘肭獸ヲ見ルカ如キモノトイフベシ

抑モ宗教ハ眞理ヲ以テ其ノ根底トスベシトハ古今宗教學者ノ恒ニ是認スル所ナリ而シテ宗教ハ安心立命ノ地ヲ授クベキ者トシテ非常ニ大切ナルコトハ明々白々ナリ故ニ何人モ宗教カ命スル所ノ義務ヲ遵奉シ信伏セサルモノナキナリ然レトモ宗教ハ何故ニ遵奉セラル、ヤト云ハ、唯其完全無缺ノ一大眞理アリテ存スルガ故ナリ若シ夫レ宗教ニシテ信スルニ足ラサルモノナラハ遂ニ其禁スル所命スル所ハ効力ヲ失シテ永續シ能ハサルヤ必セリ此時ニ當リテ理想ノ世界ハ忽チ激動シテ新説ヲ起シ從來ノ宗教ヲ破斥スルナラン而シテ此ノ新説ニシテ假令理想界ノ満足ヲ充タスニ足ラサルモ以テ一時ノ激動ヲ鎮ムルニ足ルモノナラシメハ

理想界ハ忽チ靜穩ニ歸シテ一時之ヲ不易ノ眞理トナスニ至ラン此時ニ至リ他ノ理想ハ又再起スルヲ得スシテ激動ノ際ニ出タル新説固ク根基ヲ保チ美花ヲ開キ良果ヲ結ヒテ遂ニ自然ニ地上ニ落下スベシ是ニ由テ或ハ古キ理想ハ全ク消盡シタリトイフモノアレトモ決シテ然ルニ非ス前キニ地上ニ落下シタルモノハ更ニ新芽ヲ萌出シテ新樹トナリ長シテ勢力ノ再新ヲ謀ルモノナリスノ如クニシテ新説ノ上ニ新説ヲ加ヘ遂ニ全ク前日ノ舊想ヲ去リテ完全ノ域ニ近ツクナリ

以上ノ所述に依レハ世ハ開明ニ趣クニ從ヒ舊説ハ漸々新説ニ變シテ遂ニ不易ノ眞理ニ醇化スルモノニテ野蠻時代ノ信仰ハ智力ノ開發スル人民ト伴フコトヲ得サルナリバヒロニヤノ偶像教ハ其都府ノ社會進歩ト共ニヤンブシヤドノ破壊スル所トナリホルシヤガ將ニ其原始ノ野蠻ヲ脱去セントスルヤツロアストルハ「イラコアン」教ヲ改革セリ釋迦ハ開明ノ印度人ノ心意ニ應センガ爲メ朽敗セル「フアラマ」教ヲ打破シテ釋教ヲ興立シ馬哈獸德ハ彼ノ多神教ニ代テ一神教ヲ擴布シポータンハアツシリ帝國ガ將ニ進歩ノ兆候ヲ發セントスルニ當リメキシコニ於ケル宗教ノ底基ヲ設定セリ發達ハ凡テ有生物ノ大法ナルガ如ク宗教信仰ニ於テ

モ之ヲ見ルナリ始メ其宗教ハ劣等ノ組織ナルモ漸々完全高等ノ方ニ進歩シテ舊時ノ觀相ヲ改ムルナリ

宗教ノ觀念ハ人類ノ進歩ヲ左右スヘキ外界ノ事情ニ依リ或ハ進行シ或ハ停止セラル、モノニシテ地理上ノ位置社會ノ慣習及ヒ政治ノ隆替ハ宗教上ノ情感及ヒ觀念ニ著シキ形迹ヲ印象スルハイフ迄モナキコトナリスカンヂナピア人種ガ奉スル神ノ勁勇ナルハ以テ壯方人種ノ強堅ヲ表シ希臘ノ優美ナル神學ハ以テ南方人情風俗ノ溫順優美ナルヲ表セリ又アツシリヤ人種ノ兇暴ナル禮拜ハ以テ殺伐扞闘ニ依リテ其主權ヲ握リタルコトヲ表セリ其他沙漠ハ亞刺比亞人種ヲシテ唯一神教トナシ平原ハメソポタミヤ人種ヲ拜星教ト爲シ而シテ神靈ナル「ナイル」川ハ雷ニ埃及ノ谷ニ洪水ヲ爲セシノミナラス埃及ノ人民ニ「セオヂミー」即チ埃及古代ノ宗教ヲ流シケリ

人種及ヒ一個人ニ就キテノ如ク宗教上ノ觀念ニ就テモ所謂生存競爭優勝劣敗ノ理法アリテ存スルヲ見ルナリカレワテナルモノハ耶蘇ノ降生ヲ聞クヤ其奉スル所ノ教法ヲ止メテ積雪ノ北方ニ隱匿セリ斯ノ如ク不完全ナル信仰ハ稍々完全ナル宗教ノ行ハレントスルニ先ナテ

其影ヲ滅スコト猶螢火ノ炬火ニ於ケル又炬火ノ太陽ニ於ケルカ如キモノト謂フベシ之レ宗教ニモ優勝劣敗ノ理法ノ存スル所以ナリ然ルニ若シ人民ノ智力道德進ミ之ヲ受クルニ適セシナラハ人民ハ稍々高尚ナル改宗者ノ前ニ屈スベシト雖トモ若シ其宗教ニシテ餘リ高尚ニ過キテ人民ノ智力道德ニ適セサル時ハ其宗教ハ人民ノ智力道德ガ宗教ト並行線ニ接セサル間ハ到底行ハレサルヘシ是レ宗教ノ厄運ニシテ爲メニ發達ヲ妨ケラル、コト少ナカラス

第四章 宗教ノ教理

宗教ハ理想ト情感トノ總合ヨリ成ルコト前章ニ述ルカ如シ而シテ又宗教ハ哲學的觀念ヲ代表スルモノニシテ常ニ或ル假定ノ上ニ立ツモノナリ蓋シ古代ノ僧侶ハ又哲學者ナリシニ相違ナキモ常ニ其智力上ノ上位ヲ保持スルニ足ラザリシ故ニ其教理ヲシテ眞正ノ意義ヲ失ヒ只タ不可知的ノモノタラシメタリ斯ノ如クナルトキハ理想ハ教理ヲ脱シテ教理ハ其骨髓タル原則ヲ失ヒ虛禮假式ノ屑タルニ過キス之ヲ要スルニ哲學ノミチヲ以テ宗教トイフベカラス所謂宗教ノ宗教タル所以ハ即チ不變不動ノ原則ノ上ニ立チ教理ヲ禮拜ノ間ニ現ハシ宗規ノ上ニ實行スルモノナリ

夫レ教理ニ附隨スヘキモノハ禮拜及ヒ宗規ナリ此等ノモノハ宗教ノ要素トモ謂フベシ如何ナル宗教ニテモ世ニ存立センガ爲メニハ或道理ヲ有セザルベカラス換言スレハ宗教ナルモノハ人類カ自ラ究メ得ザル事物ノ結果ハ何ニ原因スルカ其人類ノ心意ノ傾嚮ハ何レニアルカ又死後ノ成行如何ヲ示シテ以テ人類ヲ圍繞スル難題ニ解釋ヲ下サザルベカラス而シテ其教理ヲ愚夫愚婦ニモ明亮ニ了解セシメサルベカラス然レトモ又有識者ヲシテ卑近信スルニ足ラスト思ハシムルガ如キニテモ不可ナリ

禮拜ハ神佛ニ對スル敬禮ナリ是レ則チ神佛ト人トノ關係ヲ連接セシムルモノナリトス抑モ禮式ハ神佛ノ理想ト一致セサルベカラス若シ神佛ハ美ノ理想ニシテ其禮拜ハ醜ヲ極ムルモノナランニハ則チ神佛ノ理想ヲ拜禮ノ模表ヨリ下ニ下スモノナリ若シ斯ノ如キ敬禮ヲ以テ神佛ニ對スレバ敬禮ハ却テ仇トナルベシ例ヘハメキシコ人ノ信仰スル諸神ノ中ニツキ或種類ノ神ハ理想上神聖慈愛ナリト稱傳セリ而シテメキシコ人ハ人類ノ盡シ得ベキ敬禮ノ最モ至レルモノトシテ人ノ生命ヲ犧牲ニ供シ居レリ此等ハ則チ神ノ理想ヲ禮拜ノ下ニ來タスモノタルヲ免カレス

宗規ハ遵奉スベキ道德上ノ規定ナイフ蓋シ人ノ一方ニハ神佛ニ對シ一方ニハ同胞ニ對スル
 相關ノ地位ニアルモノナレハ若シ茲ニ宗教ハ其社會上及ヒ政治上ノ關係ニ交渉スルコト
 アラハ社會及政治体ノ人トシテ其身ノ行意ヲ指揮スベシ若又茲ニ專ラ其身ヲ宗教ニ一任
 スルモノニ對シテハ專ラ全ク神人ノ關係ヲ規定スルニ過キス
 以上ノ三者ハ宗教ノ具有スベキ要素ニシテ此内何レカ誤謬アルトキハ忽チ宗教ノ腐敗ヲ來
 スベシ而シテ其缺典ナキ他ノ宗教ハ之ニ代リテ世人ヲ綜合スベシ例ヘハ或宗教ニシテ智力
 ノ需要ニ應ズル能ハザルカ又ハ心意ノ執着或ハ道德上ノ情感ノ需要ニ應ズル能ハザルトキ
 ハ是レ自ラ宗教ノ門闕ヲ閉ツルモノニ異ナラス而シテ改革ハ直チニ之ニ續クナリ或ハ新ニ
 起リタル宗教ハ前旨ニ比シテ善良ナラサルニモセヨ改革ノ事實ハ明カニ前者ノ不完全ヲ發
 表スルモノナリ
 儲テ宗教ニハ如何ナル教理ノ種類アルカ此又辨明セサルベカラス故ニ此レヨリ概畧其ノ次
 第ヲ述ベントス
 凡ソ宗教總体ニ冠シテ之レカ教理ノ差異ヲ辨別センニハ古來學者ノ說ニ依レハ實ニ三大教

理ニ外ナラザルナリ、三大教理トハ何ゾヤ一ニハ多神教ナリ二ニハ一神教ナリ三ニハ凡神
 教ナリ、此三大教理タル博ク各宗教ニ涉リテ漏ス所ナク苟クモ宗教ナル名稱ナレハ大小皆
 ナ此三種ノ内何レニカ攝屬セザルハナキナリ、然リト雖トモ多神教的ノ宗教ハ多神教ノ性
 質ヲ以テ神人關係ノ說ヲ述ベ、一神教的ノ宗教ハ一神教ノ性質ヲ以テ神人關係ノ說ヲ立テ
 乃至凡神教的ノ宗教ハ凡神教ノ性質ヲ以テ神人關係ノ說ヲ成スモノニシテ其所立ノ出所ハ
 各々異アリト雖トモ畢竟スル所ハ皆十神人關係ノ信仰ヲ說シヤ毫モ異點アラサルナリ、然
 リ而シテ此三大教理ヲ逐次是ヨリ辨解シテ其性質ヲ詳カナラシムベシ
 抑モ多神教トハ何ゾヤ、謂ク讀テ字ノ如ク種々雜多ノ神ヲ敬崇拜禮スルモノニシテ例セハ
 吾國ノ八百萬神ノ如キ又タ埃及ノ拜物教ノ如キ希臘ノ「ミソロジー」ノ如キモノニテ其他古
 代ノ宗教ト稱スルモノハ大概皆多神教ノ性質ヲ胚胎セサルハナキナリ、次ニ一神教トハ
 何ゾヤ、謂ク其教理ノ歸スル所ハ專ラ獨一眞神ニアリト爲シ、其神ハ全智全能無始無終ニ
 シテ宇宙萬物ヲ創造シ宇宙萬物ヲ愛護スル所ノモノナリトス耶蘇教及ヒ回々教ノ如キ宗教
 ハ此内ニ攝屬シ得ベキナリ、而シテ此教理ヲ以テ前ノ多神教ニ比スレハ其思想頗ル高尚ニ

シテ最モ真理ニ近ツキタル教理ト謂フベキナリ、次ニ凡神教トハ何ゾヤ、謂フ神體ヲ以テ宇宙萬物ノ外ニ見ズ神體ト萬物ト一致シテ毫モ離隔セズ萬有ノ本體ヲ以テ直ニ神ヲ立ツルモノナリ、東洋ニ布傳スル所ノ佛教及ヒ西洋哲學諸家カ説述スル所ノモノハ皆是レ凡神教ノ範圍ニアリト謂フベシ、然リ而シテ此教理ト前ノ一神教ト其性質稍ヤ似タル所アリ、即チ神ノ性質タルモノハ無始無終無量無邊至妙絶美ノモノナリト論スル所ハ兩教共ニ異ナル所ナシ、然レ共其神體ヲ論スル時ニ至テ一神教ハ宇宙萬物ヲ創造シ愛護スルモノナレハ其性質宇宙萬物ノ外ニ神體ヲ立ツ、故ニ萬物ノ本體即チ神體ナリトハ謂フヲ得ザルナリ、然ルニ凡神教ハ之ニ反シ神ト萬物ト相一致シテ毫モ離隔セズ萬物ノ上ニ於テ神體ヲ立ツルヲ以テ大ニ其目的ヲ異ニスルナリ、故ニ兩教ヲ以テ又タ同日ニ論スベカラサル所以ヲ知ルベシ、而シテ此ノ三大教理ハ宗教進化上自然ニ現出スルモノニシテ、太古人民智識未開ノ時代ニアリテハ多神教最モ熾ンニシテ日月星辰山河草木等一切所有ノ現象ヲ拜崇セシナリ、然レ共社會人智ノ自然ニ發達スルヤ朦朧タル野蠻ノ教理モ之ニ伴フテ進化シ多神教ノ勢力漸ク其跡ヲ絶ツニ至ル其跡ヲ絶ツルニ代ツテ即チ一神教ノ現生スルハ蓋シ自然ノ理勢ト謂

ハザルヲ得ス之ヲ換言スレハ表面ニハ多神教絶ヘテ一神教興ルニアラス實ニ多神教進化シテ一神教ヲ形造ルニ至リシモノニテ自然教ノ最モ發達進歩シタルモノナリ、故ニ其立ツル所ヤ能ク社會人士ノ智力感情ニ應ジ、人心ニ満足ヲ與フル決シテ多神教ノ比ニアラサルナリ、然リ而シテ宗教進化上前來ノ次第ヲ以テ論及セハ一神教モ又遂ニハ凡神教ニ進化セサルバカラサルニ至ルベシ、輒近西洋哲學者ノ屢々唱導スル所ヲ以テ之ヲ觀察スレハ一神教ハ既ニ神ト萬物トノ間ニ離隔ヲ爲シ、純然トシテ別物ノ形容ヲ顯ハセリ、是レ社會進化上大ニ反對スル理論ニシテ遂ニ其轍ヲ多神教ニ履マザルヲ得ズト、果シテ然ラハ一神論者ノ唱導スル所ノ宇宙萬物ノ運動變化ハ神ノ攝理ニ歸ストイフモ又タ宇宙萬物ハ皆チ神ノ創造ニ繋リタルモノトイフモ今日理學哲學ノ進歩ニ於テ勢ヒ退散セザルヲ得ズ是レ自然的進化上ニテ茲ニ論及スルナリ斯ノ如ク三大教理アリテ諸種ノ宗教ヲ貫徹セリ而シテ又タ近世泰西ノ學者ハ尙ホ宗教ヲ區別シテ自然教顯示教ノ二種トセリ此二種タルモノヲ擴張スレハ萬教ノ教理性質ヲ分チ得ベシ自然教トハ所謂天然自然ニシテ神佛聖賢其他尋常人間ニ超絶シタル能力ヲ有スルモノ、教示ヲ待タズシテ直チニ人間固有ノ天性ニ於テ發達シ又タ適當ナ

ル境遇ニ接シテ發達スル一種ノ感情ナルモノナリ假令ハ爛熳タル美花ノ咲亂レタルヲ見テ
 美術的ノ感想自然ニ生シ又タ鰥寡孤獨等ノ不幸者ニ接シテハ自ラ道德仁愛ノ感想生スルガ
 如キモノ是レ自然教ナリ次ニ顯示教トハ之ニ反シテ即チ聖賢神佛其他人間カ想像シテ尋常
 人間ノ能力ニ超絶シタルモノガ深邃幽義ノ所チ顯示シ永遠無窮ノ命運ヲ示スモノ是ナリ此
 ノ自然顯示ノ二教ハ即チ諸種宗教ノ體ニシテ前述セシ二種ノモノハ宗教ノ性ナリト知ルベ
 シ次ニ此ノ自然顯示ノ諸種宗教ニハ各々其立ツル所ノ教理ナルモノアリ此ノ教理ニヨリテ
 或ハ甲國人民ニ利アリテ乙國人民ニ利ナシトシ丙國々情ニ適シテ丁國ニ適セストナシ或ハ
 彼ニ褒シ此ニ貶シ我ニ奉信シテ他ニ離反シ其ノ運動形勢一ナラザルヲ見ルナリ若シ教理ニ
 於テ一切ノ宗教異別ナキモノトセハ既ニ同一特性ノ貫通スルモノアルヲ以テ萬國萬教豈ニ
 信仰ニ不同アラシヤ不同ノアルハ蓋シ各教々理ノ一ナラサルモノアルヲ以テナリ
 之ヲ要スルニ泰西學者ノ論スル處ハ宗教ヲ大別シテ自然顯示ノ二種トシ未ダ教理ノ如何チ
 細別セズ故ニ今之ヲ演繹スレハ多神、一神、凡神ノ三教理トナリ得ヘシ

第五章 宗教ノ勢力

宗教ニハ獨リ動力ノミナラス靜停力モ亦存スルコトアリ靜停力トハ即チ發達ヲ妨ケントス
 ル勢力ニシテ其運動ハ時トシテ便益アルコトアリ或ハ時トシテ損害ヲ生スルコトアリ凡ソ
 世界ノ宗教多少此二勢力ヲ備ヘザルハナシ一ハ自由ニシテ一ハ保守ナリ宗教信仰ニ於ケル
 急速ノ進化ヲ遮碍スル勢力ハ宗教上ノ慣習ノ構造ト宗教政體ノ組織ニ就キ之ヲ見ルベシ慣
 習ガ發達ヲ妨クルニ二種アリ一ハ一個人ノ結合ニシテ一ハ一個人格ノ破壊ナリ今左ニ之ヲ
 畧述セン

俚諺ニ曰ク慣習ハ第二ノ天性ナリト然レモ眞理ハ遠サケラル、ニ從ヒ慣習ハ自ラ天性トナ
 ルモノナリ實ニ慣習ハ有機的ノ動物ニ於ケルカ如ク無機的ノ實物ニ於テモ存在セザルコト
 ナシ故ニ實質ニ接スレハ接スル程慣習ノ力勢ニ從フコト多ク慣習ノ力勢ニ從ヘハ從フ程變
 動スルコト稀レナルモノナリ例ヘハ岩石ハ不動的ノ實質ナリトイフベシ何トナレハ其一旦
 靜停ノ地ニ置カル、ヤ長ク運動スルコトヲ得サルモ爲メニ存在ノ眞ヲ變セザルモノナレハ
 ナリ又或ル動物ヲシテ其天性ニアラサル行爲ニ慣レシメ其慣習ハ一タヒ固着シタル後ハ其
 行爲ヲ爲スコト恰カモ天性ニ出タルモノ、如キ而已ナラズ更ニ其慣習ヲ子孫ニ遺傳スルチ

見ル是レ吾人カ觀察スル所ナリ只劣等動物ニ於ケル而已ナランヤ人類ニ於テモ亦然リトス
 一タヒ慣習トナリテハ決シテ全ク脱却セラル、コナク信仰、思考、及ヒ禮拜ノ法カ慣習トナ
 リテハ天性ノ一部分トナルナリ例ヘハ人ハ太陽ガ地球ノ周圍ニ廻轉セザルヲ知レトモ五管
 ハ太陽ノ出沒ニ慣ル、カ故ニ恰カモ太陽ハ廻轉スルモノ、如ク常ニ思考シ或ハ談話スルナ
 リ是レト等シク慣習ハ一タヒ信仰ノ上ニ固定シタル上ハ假令其信仰ハ消滅シテ久シキニ至
 ルト雖トモ慣習ハ永ク存在スルナリ蓋シ人ハ日常其慣ル、モノニ執着スルハ其常ニシテ道
 理ト情感トハ反對ノ列ニ導カル、チ以テ往々道理情感ハ慣習ニ屈スルコトアリ其故ハ慣習
 ノ法律トナレルモノ多キヲ見テ之ヲ知ルベシ慣習ノ力勢又大ナリトイフベシ
 文明ノ傾向及ヒ社會開達ノ傾向ハ一個人ノ獨立ヲ損スルコトアリ世運尙ホ草昧ノ時ニアリ
 テハ人各々自己ノ爲ニ思考シテ自己カ適當ナリトスルモノヲ信スレドモ思想及言論自由ノ
 喋々セラル、時ハ恰カモ是レ思想ノ獨立及言論ノ自由カ活動スルコト最モ微弱ナル時代ナ
 リ何トナレハ多數ノ者ニ普及セル思想信仰及行爲ノ慣習ハ是レ都テノモノ、法律ニシテ之
 ナ破ルモノハ社會ニヨリテ罰セラルベケレハナリ人民ハ群衆ト共ニ信シ群衆ト共ニ信セス

其立ツヤ衆ト共ニシ其坐スルヤ又衆ト共ニス瑞士ノ一族舉テ「カドリック」ナレハ其次ノ族
 モ又舉テ「プロテスタント」ナルカ如ク萬衆其思考ヲ共ニスルヲ見ルナリ「ベルチ」及「ルセ
 ルチ」ノ種類ハ共ニ日耳曼人種ナリ然レトモ甲ニ於テ「プロテスタント」ハ一般ノ信仰ナル
 ト共ニ乙ニ於テハ「カドリック」ハ一般ノ宗教タリ「パウダ」及「チャブレ」人ハ共ニ佛蘭西
 人種ナリ然レトモ甲ハ「カルビン」派ヲ執ルト共ニ乙ハ羅馬法王派ナリ是レ果シテ何ノ故ナ
 ルカ蓋シ何ハ正ナルカチ自ラ問ハズシテ他ノモノハ何チ正ナリトスルカトイフハ一般人ノ
 傾向ナレハナリ而シテ此等ノ徒ハ隣人ノ取ラサル觀察チ自ラ取ルコトヲ避クルモノナリ是
 等ノ徒ニ於テ多數者ノ説ハ信仰チモ倫理チモ宗教上ノ儀式チモ説定スルモノナリ公衆ノ評
 議役ハ各人ノ行爲及情感ヲ規定スルモノニテ多數者ノ同意チ以テ其標準ト倣シ少數者ハ只
 是ニ默從スベシトイフニ外ナラサルナリ故ニ人民ハ他ノ好マサル行爲チナスコトヲ嫌フニ
 至リテ信仰思想行爲等ノ慣習ハ茲ニ固定セラル、ナリ
 予ハ是レヨリ發達チ遮碍スル所ノ宗教政體ノ勢力チ畧陳スベシ宗教政體トハ神ハ即チ直接
 若クハ此俗世ヲ統御スルモノナリトイハ是レ政體ハ神ニ屬シ神ハ即チ王ナリトイフナリ

而シテ神ハ直接ニ俗世ヲ統御セルトキ神人ノ中間ニアルモノハ即チ僧侶、王、若クハ天啓ノ聖典是ナリ故ニ予ハ宗教政體ノ順序ニ左ノ四級アルヲ見ルナリ

- (一) 神代
- (二) 僧侶代
- (三) 半君半僧代
- (四) 聖典代

エチオピアニテ始メ神ハ唯一ノ王ナリトセラレ僧侶ハ是ニ次キタリ而シテ其王トセラレ、モノハ神ノ肖像ニシテ人民ハ盛大ナル祭典式ニ於テ之ヲ君主ナリト公布スルナリ始メ俗世ノ諸王ハ僧侶ノ權威ノ下ニ指揮セラレタリト雖トモ遂ニ僧侶政體ノ羈厄ヲ脱シテ獨立スルニ至レリ埃及ハ三等ノ神ニヨリテ順次ニ統御セラレタリ其第一級ハ神代ヲ代表シ第二級第三級ハ聖僧即チ半神ニシテ僧侶時代是ナリ最後ニ至リ主權ハ僧侶ノ種族ヨリシテ勇士ノ種族ニ移レリ然レトモ未タ宗教政體ハ全ク止マラザリシナリ其他東洋ニテモ古代ハ宗教政體ノ諸國少ナカラス希伯利ニ於テハ宗教政體ハ四級ヲ經タリ最高等ノ神エホハハ其種ノ主權

者ニシテ直接ニハ親ヲ統御シ間接ニハ豫言者「リバイト」(官職)裁判官王及ヒ法律ニヨリテ統御セリ後モセス現ハレテ僧侶政體ノ形體トナリシカソール出テ、半王半僧政體ヲ立ルニ至リテ倒レタリソールノ後ニダビット、ソロモンノ輩起リシモ依然半王半僧ノ政體ニシテ常ニ直接間接ニ神ト交通ヲナセリ其後シユース大國衰ヘテ半王半僧ノ政體亦衰ヘシカ之ニ尋テ起リシハ則チ聖典政體ニシテ主權、法律ノ淵源及ヒ道理ノ是非ハ之ヲ神聖ナル經典ニ求ムルコトトナレリ斯ノ如キ時代ニアリテハ何事ニテモ神ノ啓示ナリ宣言ナリトイフニ托シテ社會ノ發達ハ固ヨリ宗教自ラモ絶ヘテ疑フモノナク人心只ク神聖トイヘル羈軛ノ内ニアル一定ノ場所ニ停滯セザルヲ得ザリシ然レトモ之ヲ以テ直チニ宗教ニ於ケル靜停力ハ甚タ有害ナルモノナリト斷論スルハ寧ロ大早計ニ失シタルモノト謂サルヲ得ス否ナ靜停力ハ却テ宗教ノ觀念ヲ合體スルモノタルヲ信スルナリ若シ宗教ニシテ靜停力ナクンハ字内ハ百千萬ノ宗教ヲ以テ填塞セラル、ナルベシ然ルニ宗教ニ是勢力アルヲ以テ宗教ガ一定ニ組成セラル、ハ種族ト種族トヲ合同シテ團結セシムル連環ヲ作ルモノナリ而シテ國家ノ文明又是ニ伴フテ進歩スルニ至ル何トナレハ宗教ハ科學技術等ノ生母ナレハナリ故ニ國家文明ノ

發達如何ハ教學ノ研究ニ妨塞スルト否ヤトニアリト云フヲ得ベシ概シテ之ヲ言ヘハ靜停力ハ人類ノ安寧ヲ保チ平等ヲ全フスルニ於テ其必要アルコト敢テ動力ニ劣ラサルガ如シ實ニ此動力ト靜停力トハ自他撞著スルモノナレトモ人類社會ニハ共ニ缺クベカラサルモノナリ宗教ノ二大勢力ハ又此外ニナキヲ知ルベシ

第六章 宗教ノ種類

萬國宗教ノ名アリ其種類ノ少ナカラサル知ルヘシ然レモ古來泰西ノ學者ハ之ヲ區別シテ十大宗或ハ八大宗又ハ宗徒ノ多數ヲ以テ三大宗(佛教、基督教、婆羅門教)トモセリ近世ノ哲學者ガエームス、フリーマン、シラー、ク氏ハ其著ハセル十大宗教編ニ於テ次ノ如キ圖ヲ以テ世界十大宗教ヲ別チ併セテ其ノ性質ヲ畧示セリ

此圖ノ説明ハ如左

- 第一 婆羅門教ハ精神ヲ以テ絶待ノ本質トシ諸般ノ現象ニ一致ヲ與フルモノト信セリ
- 第二 古代埃及ノ宗旨ハ之ニ反シテ神聖ハ一致ニ非スシテ多種ニアリ精神ニ非スシテ身體ニアリ本質ニ非スシテ形狀ニアリトナスモノナリ

第三 スカンデナヴィヤ

教ハ神聖ハ勢力トナリ天地間ニ現ハレ生活ヲ以テ鬪争トナシ獨立他ニ依頼セサルヲ以テ道德トセリ

第四 希臘古教ハ之ニ反

スルモノニテ此教ハ神聖ヲ天地萬物ニ見ズシテ之ヲ人間ニ見ルモノニテ其要ヲ美トナシ其道德ハ自然ノ人類發達ニアリトセ

第五 彼斯教ハ造物主ト

ソロアスター

教及埃及
多形身
種狀體



造物トハ存在スル自由意志ヲ崇敬スルモノニテ其道德ハ曲ト直トノ自由競争ニアリトシ而シテ終ニハ悪者敗レテ善者ノ勝ヲ得ルコトヲ希望スルナリ

第六 此教ニ反對スルモノハ回々教ナリ此教ハ最上意志タル一神ヲ崇敬シ其規律ヲ以テ運命ト爲シ之ニ服従スルヲ務ムルモノナリ

第七 佛教ハ人間ノ靈魂ヲ尊崇スレ共宇宙間ノ規律ヲ知ルヲ其主眼トス其道德ハ佛ニヨリテ顯示サレタル自然ノ法ニ順シテ進歩スルニアリトセリ

第八 支那教(儒教)過去ヲ尊敬スルモノニテ其道德ハ聖賢ノ教ニ順フテ社會ノ法律禮義ヲ守ルニアリトセリ

第九 猶太教ノ要ハ萬物ノ創造主ナル唯一最上ノ精靈ヲ崇敬スルニアリ其道德ハ天地ノ規律ニ從順シテ神ト人トヲ愛スルニアリ

第十 基督教ハ常ニ耶穌ヲ以テ其創教者教訓者及ビ先導者トナシ常ニ天ニ在ス父ナル一神ヲ崇敬シ愛ノ法則ニ從フテ義務トシ靈魂ノ不滅ヲ確信スルモノナリ (已上)
如クテラーク氏ハ宗教ヲ區別セリ而シテ予ハ此等ノ解説ニ準シ細別シテ左ノ十三大宗ト

- (一) 佛 教
- (二) 印 度 教
- (三) 猶 太 教
- (四) 基 督 教
- (五) 儒 教
- (六) 道 教
- (七) 回 々 教
- (八) 埃 及 教
- (九) 波 斯 教
- (十) 斯 干 的 那 維 教
- (十一) 羅 馬 古 教
- (十二) 希 臘 古 教
- (十三) 日 本 神 教

爲シ得タリ之レ古今萬國々内ニ勢力ヲ有セルモノナリ

尙ホ之ニ附屬セラル、小教少ナカラスト雖モ以テ此十三教ト比肩スルニ足ラス故ニ之ヲ畧省ス而シテ此等宗教ニハ多神教アリ一神教アリ尙ホ此外古代ニ溯リテ世界人民ノ本尊トシテ敬拜セシモノヲ調ブルニ其種類實ニ夥多ナリトス

例ヘハ祖先教ヲ拜スルアリ偶像教ヲ拜スルアリ凡物教アリ動物教アリ植物教アリ自然物教アリテ森羅萬象一モ敬拜セサルモノナシ此ノ如ク衆多ノ宗教アリテ何レカ起本ニシテ何レカ變體ナルヤ知ルベカラス今且ラク一二ノ解釋ヲ施シテ其種類ヲ示スベシ尤モ此ノ事ハ前章宗教ノ性質ニ於テ辨スベキヲ下筆ノ次テ本章ニ出ス場合トナレリ

起 首 ——— 祖先教

宗教

變體

偶像教—凡物教—動物教
植物教—自然物教—其他諸教

祖先教

先ツ祖先教トハ即チ祖先ノ幽魂ヲ畏崇禮拜スル習慣ノ宗教ナリ而シテ之ニ自ラ異同アリテ未タ發達セサルモノト既ニ發達セルモノトアリ即チ近頃死去セシ父母親戚ヲ禮拜スルカ如キハ祖先教第一歩ノ状態ト謂フベシ次ニ死者ヲ畏敬スルコト數十世ノ長キニ續キ誰レ某ヨリ何代前ノ何トイフ先祖ナルコト不明瞭ニナルハ同教第二歩ノ状態ナリ次ニ風習ノ稍ヤ開明ニ赴ケル民種ノ祖先教ノ如キハ畜ニ近親ノ祖先ヲ拜スルノミナラス數世前ノ威力アリシ者ヲモ神トセリ此等ハ非常ノ進化ヲ爲セル第三步以上ノ祖先教ト謂フベシ故ニ祖先教ナルモノハ其身體及ヒ心情ニ至ツテハ凡常人ト異ナルコトナク只タ數世前ノ祖先トシテ威徳ニ於テノミ異アリトス而シテ此祖先教ヨリ發生スルモノハ即チ偶像教ノ變體本尊ナリ

偶像教

偶像教トハ土木金石及ヒ繪畫等ノ模表ヲ本尊トシテ禮拜スル宗教ヲ指ス而シテ模表ハ有形

ナルモノアリ想像上ニ屬スルモノアリ此數ハ素ト祖先ノ遺體又ハ遺體ノ一部分ニ供養シテ之ヲ禮拜スル習慣ヨリ原因セルモノナリ其次第如何ト謂フニ數條ノ事實アリ今其一二ヲ述ブレハ往昔墨西哥人ノ如キハ貴人死スレハ其遺體ヲ燒キ灰ヲ集メテ之ニ人血ヲ混練シ其人ノ偶像ヲ製シ禮拜ノ本尊ニ備ヘタリ又古代ノ埃及人ノ如キハ死者ノ「木乃尹」ヲ直接ニ禮拜セシテ其人ノ容貌及ヒ衣服ノ製ヲ摸擬シタル箱ノ中ニ入レテ之ヲ禮スルノ風習アリ是等ハ最モ偶像教ニ近キ者ト謂フベシ物理ノ今日ノ如ク明ラカナラザリシ時ニ於テハ生肉保存ノ術モナキ故ニ死者ノ全體ヲ保存センコト最モ難シ是ニ於テ其腐敗セサル所ヲ取り他物ヲ以テ之ヲ補ヒ供養スルコト、セリ是レ正體ヨリ偶像ノ變體ニ至ルノ次第ナリ而シテ純然タル偶像ニ對シテ葬禮ヲ行フ例ヲ舉クレハ墨西哥人ハ常ニ火葬ヲ行ヒ若シ戰死ノ時遺體紛失スルモノハ其偶像ヲ造リテ葬禮ヲ行ヒ之ヲ燒テ其灰ヲ埋メシト又亞尼支尼耶人ハ死者アレハ即日遺體ヲ埋メ第三日目ニ至ツテ偶像ヲ造リ葬禮ヲ執行ストイフ而シテ斯ル習慣ハ畜ニ下等人種ノ間ノミナラス開明人中ニ於テモ行フト見ユモンストレ氏ノ説ニ依レハ英國ヘンリー第五世ハ偶像ヲ造リテ葬禮ヲ行ヒタリト今現ニ同國ウエストミンスター院内ニハ數代

國王ノ葬禮ニ用ヰシ偶像ヲ保存セリ因之視之偶像教ノ起原ハ國ノ文野ヲ論セス一般ニ葬禮ニ用ヰシ偶像コソ後世拜スル所ノ神像即チ本尊トナリシモノタルコト明白アリ之レ妄信上ニ於テ自然ノ勢ヒト謂フベシ又タ理學上ノ智識即チ下等人種ハ正體ト摸表ノ區別ヲ見分クルコト能ハサル事モ偶像尊拜ノ原因ナリ此等ノ原因相結ンテ偶像教ヲ形造ルニ至レリ故ニ其源ト祖先ノ亡魂ヲ尊崇スルニ出デタルコトヲ知ルベシ而シテ偶像教ハ三種ヨリ成ル即チ物體禮拜、記號禮拜、及ヒ「アイデオレトリ」ナリ一々之ヲ示サント欲スレトモ紙數限リアル故之ヲ略ス

凡物教

次ニ凡物教ノ由テ起ル所ヲ述ヘンニ抑モ凡物禮拜ハ瓦石泥塊等ノ凡常ナル物體ヲ神トシテ禮拜スル習慣ナイフ而シテ其原因スル所ハ偶像ヨリ發生スベシ元來原人カ偶像ヲ禮拜スルハ其形狀ノ遺體ニ類似スルヲ以テナリ去レドモ上古ニ在ツテハ彫刻術等未タ開ケサル故ニ只タ粗野ナル棒ヲ墓上ニ建テ又ハ死者ノ形狀ニ類似セル石ヲ頸ニ掛ケテ生前ノ親戚ヲ見ルガ如クセリ是レ即チ野蠻ノ人種ガ木ノ枝狀ガ人手ノ如ク垂ル、ヲ見テ亡魂ノ之ニ宿ルトナ

シ石魂ノ人而ニ似タルアレハ又タ亡魂ノ之ニ棲メルモノト妄信シ禮拜畏敬セリ之レ凡物教ノ原因トイフベキナリ

石魂ヲ禮拜スルコトハ上古野蠻人ニ於テハ木葉魚骨ノ化シテ石ト成ルヲ見テ人モ亦タ斯ノ如キ物ニ變化スル事アリト信シ石ハ皆人ノ化成セルモノトシ之ヲ禮拜セリ又石ヲ見ルコト「木乃尹」ヲ見ルガ如クスルノ證アリアリヤガ氏曰ク白露人ガ村々ノ鎮守トシテ禮拜スル本尊ハ「木乃尹」ナルモノト石ナルモノトアリト總テ此等ノ事實ヲ徵スルトキハ野蠻人ノ石類ヲ禮拜スルハ其石類ニ靈徳アルニ非ス只タ其死人ノ魂魄ト關係スル者ノ如ク思フ故ニ之ヲ禮拜スルマデナリ故ニ之モ又タ起因チ祖先教ニ取ルコト毫モ疑フベカラス

動物教

世界ニ於テ禽獸ヲ禮拜スル人種少ナカラス我カ蝦夷人種ノ如キハ現ニ熊ヲ以テ神トシ之ヲ祭祀スルノ風習アリ此等ノ人種ハ如何ノ性質ヨリ動物ヲ禮スル手未開ノ人種ハ今日理學上ノ解釋即チ人類ノ祖先ハ禽獸ニ異ナラスト信スル如キサル高尙ナル理論ヨリ動物ヲ禮拜セシニ非ズ故ニ其原因ハ他ニ於テ求メサルベカラス

先ツ其間接ナル原因タル二三ノ種類ヲ舉レハ第一人類ハ時ニ動物ノ化成スルコトアリトノ妄信ヨリ出ツ所謂齩化シテ蝶トナリ卵化シテ鳥トナル如ク人モ亦化シテ禽獸虫魚トナルコトアルベシトセリ第二人間ノ魂魄ハ時ニ動物ニ乘リ移ルコトアリトノ妄信ヨリ出ツ所謂癩癩狂氣等ノ誤解ヨリ人間ノ魂魄他人ノ身體ニ乘移リ且ツ「木乃尹」偶像木石ノ類ニモ乘移ル事アリト信セリ故ニ禽獸ノ體ヘモ無論乘移ルモノト信スアメリカノ民族ハ一種ノ毒蛇ノ中ニ惡人ノ亡魂アリト信シソモダラ人ハ死者ノ靈魂虎ニ乘移ルト信シ敢テ之ヲ殺サストイフ第三動物ニモ人間ノ如ク其身ノ陰影アルヲ見テ此レニ幽魂アルナラムト信スルヨリ出ツコレ又一ノ原因ナリ而シテ動物ヲ禮拜スルノ結果遂ニ動物ト祖先トヲ混同シ祖先ノ威徳ハ其魂魄ト共ニ動物ノ體ニ侵入セリトス故ニ其依テ來ル所ノ原因ニ溯レハ畢竟祖先ノ靈魂ヲ畏敬スルノ一ニアレハ動物教モ又々其起初ヲ祖先教ニ取ラサルベカラス

植物教

次ニ植物教トハ種々ノ草木類ヲ鬼神ノ如ク畏敬禮拜スル習慣ナリ而シテ世上此習慣ニ依リテ草木ヲ祭祀シ之ニ飲食ヲ供養スル人種少シトセス本邦ノ如キハ神佛ヲ敬禮スル傍ラ樹木

ニ主神アリト信シ號クルニ神樹靈木ノ名ヲ以テシ之ヲ伐レハ神罰アリトセリ然レ共草木ヲ鬼神トスルハ一般ノ習慣ニシテ鬼神ハ悉ク皆祖先ノ靈魂タルベキ道理ニ此又々祖先教ノ禮拜ニ起因スルモノナリ

自然物教

世上ニ日月山水ノ類ヲ敬拜スル人種多シ本邦人古來ヨリ日月星辰山川國土ヲ禮拜スルノ習慣アリ此等ヲ總合シテ自然物教トイフ而シテ此自然物教又々祖先教ニ起因スルトイフノ次第ヲ述ヘンニ世上ニ山ヲ以テ神トシ之ヲ祀ル者多シ其例ヲ舉クレハパンクロフト氏ノ説ニ曰クカリホルニヤノ人種ハナバヂヨスト曰フ神ハサンヂユアン河ニ近山ノ中心ヨリ出來セリト信セリ又曰クチヌク人ハイカナント稱スル造物主ヲ信仰ス而シテ其國ニアル同名ノ山ヲ指シテ同神ノ化シテ石ト成シ所ト信セリ此等ノ例世ニ少ナシトセス此外海湖ヲ禮拜シ日月星辰を禮拜シ種々ノ自然物ヲ禮拜スルノ原因ハ一ニ皆祖先ノ出地又ハ住所ヲ誤傳セルニ出ツ故ニ結局此等ノ諸教モ又々祖先教ニ原ツクノ外ナキナリ

已上諸種ノ宗教ハ所謂其ノ變體ナルモノニシテ其種類此外ニ出テサルベシ最モ往古蠻民社

會ニ於ケル尊拜物ハ種々奇異ノ風俗アレトモ之ヲ要スルニ上來陳述スル如ク宗教ノ起首ハ皆ナ祖先教ノ一種ニアルコト明瞭ナリ我國ノ如キモ上古ノ原人皆ナ其祖先ノ怪力アルニ驚キ當時未タ經驗ニ乏シキヲ以テ深ク事物ニ感スル故ニ些事ト雖トモ偉業トナシテ傳ヘ子孫ニ至リテ祖先ハ皆モ怪力ヲ有シテ即チ神ナリ祖先ノ靈ハ天地ニ照覽ストナシテ反正履仲ノ頃ニ至リテハ人ノ行爲ハ惣テ祖神ノ賞罰規正スルモノトセリ以テ宗教ノ起首タル實ニ祖先教ニアルコトヲ知ルベキナリ然レトモ祖先教ノ名ハ東西一ニシテ起首タルニ相違ナシト雖トモ我國ノ祖先教ハ一種特有ノ祖先教ニシテ外國ノ祖先教ト其性ヲ異ニセリ如何トナレハ外國ノ祖先教ハ開明ト野蠻トニ論ナク一般ニ通過セサルベカラサルモノニテ其組織ハ族制上ヨリ進化セズシテ只タ鬼神誌時代ノ妄想怪力ノ念ヨリシテ靈魂ノ念ニ進ミ靈魂ノ念ヨリ祖先ヲ畏敬スルノ念ヲ起生セシモノナリ然ルニ我國ノ祖先教ハ族制上ヨリ進化シ來レル一元ヲ加ヘタルモノナリ今且ク我國ト西洋諸國トノ國體異同ヨリ族制一般ヲ論スベシ抑モ西洋諸國ハ宗教ヲ以テ組織セル國ナリ我國ハ族制ヲ以テ組織セル國ナリ故ニ宇內萬國中獨リ我國ノ一姓純乎タル族制ヲ以テ國體ヲ組織セル歴史上ヨリ其組織ヲ見ルニ皇祖神

ノ始メテ我國ニ君臨シ玉ヒシヨリ土著ノ蠻人ハ或ハ淘汰ノ理ニ依テ自然ニ灰滅シ或ハ皇德ニ歸順シ海内皆ナ一姓ノ下ニ在リテ子孫繁殖遂ニ此大家族即チ日本全國人民ヲ生セリ故ニ海内皆ナ兄弟同胞ニシテ一宗家郎ノ正統ニ隸屬セリ蓋シ按スルニ一姓分テ諸大氏トナリ次ニ諸小氏トナリ次ニ一村トナリ家族トナリ家長一家ヲ統ヘ村長一村ヲ統ヘ小氏ノ長者ハ小氏ヲ統ヘ大氏ノ長者ハ大氏ヲ統ヘ正統ノ神孫列聖此ノ大小諸氏即チ全國臣民ヲ統率シ玉フ故ニ猶ホ樹木ノ如シ幹ヲ以テ皇室トナシ枝葉ヲ以テ臣民トス是レ吾國族制ノ大畧ナリ而シテ天神地祇ヲ尊フノ念ハ此等氏人ハ皆其氏ノ祖先ヲ尊敬シ之ヲ祭ルナリ藤原氏ノ春日社ニ於ケル大江氏ノ賀茂社ニ於ケル源氏ノ八幡宮ニ於ケル平家ノ嚴島社ニ祈ル其他村落ニ氏神ナルモノ、存在セルカ如キハ皆此類ナリ我國ノ祖先教タル一種ノ特性アルコト以テ知ルベシ併シナガラ均シク是レ祖先教ノ範圍ニ伍スルヲ以テ見レハ宇內萬國推シナベテ宗教ノ起首ハ祖先教ニアリト斷言シ得ベキナリ多神教ヨリ進ンテ唯一神教ニ到ルハ自然ナリ此レヨリ其大要ヲ述ベシ

唯一神教

唯一神教ハ現時人類ノ大部分ヲ領スルモノナリ基督敎、猶太敎、回々敎ハ共ニ是レ唯一神敎ナルモノナリ抑モ社會ノ漸ク文明ニ進ミ人智又漸ク開クニ隨ヒ人民ハ雷ニ情感ヲ以テ事物ニ應スルノミナラズ道理ヲ以テ之ヲ觀察スルニ至ルヲ以テ宇宙ノ萬物ハ凡テ禮拜ノ容體ニ非ザルナリ多神敎ニハ頗ル不完全ノ點アルヲ以テ是ヲ免ル、カ爲メ唯一神敎ノ方ニ傾クハ自然ノ理勢ナリ蓋シ多神敎者ノ信スルカ如ク水流ハ岡陵ヲ下ルカ故ニ神力ハ流水ニ包含セラルト云ハ、何故ニ噴水器ノ水ハ天上ニ迸流スルカ大流ニ適合スル原則ハ又小流ニ適合スルモノニシテ小流ニ適合スルモノモ又噴水器ニ適合セサルベカラサルナリ故ニ唯一部ノ水ヲ以テ神ト爲スカ如キ愚ヲ爲サンヨリ寧ロ液體ニ悉ク應用スヘク神ノ概念ニ變スルハ是レ自然ノ理勢ナリ又神ハ各種ノ樹木ニ寄生セルコトヲ信スルモノハ論理上自ラ神ハ又各種ノ草芥ニモ寄生セルコトヲ許サ、ルベカラズ然ルニ多神敎ハ演繹的論理ヲ以テセハ遂ニ謂フニ忍ヒサルガ如キ痴呆ノ論結ニ至ラサルヲ得ス斯ノ如ク愚ヲ爲サンヨリ寧ロ神ハ萬種ノ植物ヲ統御セルモノナリト謂フニ如カサルハ見ルナリスノ如ク液體、植物、動物、及ヒ風雨ヲ統御スル神アリトイフ信仰ヨリシテ天地萬物ヲ主宰スル唯一ノ神アリトイフ信仰ノ生スル

ハ自然ニ來ルベキ傾向トイフベシ

第七章 宗教ノ異名

敎法ノ門派數多ナレハ其稱呼固ヨリ同シカラス故ニ古來譯家各々其意ヲ以テ文字ヲ填寫シ其實同フシテ其名異ナルモノ枚舉ニ違アラズ又々名同フシテ其實異ナルモノアリ假令ハ西敎ノ如キ概シテ波羅的敎ヲ措スベキニ西敎鑿鑿及ヒ地球說畧ニ於テハ之ヲ以テ加特力敎ノ稱トナセリ又々婆羅門敎ハ通シテ印度舊敎ヲ謂フ然ルニ海國圖志ニハ之ヲ回々古敎ノ稱トセリ又々回敎ヲ以テ同書ニ既ニ道敎トセリ又々火敎ヲ學福齋雜著ニハ加特力敎ノ稱トナスノ類少シトセス初メテ此等ノ書ヲ見ル人ハ遽カニ之ヲ通曉シカタク爲メニ五里霧中ニ迷フノ感アラシム遺憾ノ次第ト謂フヘシ今マ讀者ノ爲メ各宗教ニ一樣ノ稱呼用字ヲ附シ以テ彼此識別ノ煩勞ナカラシム左ニ各書敎名譯字ノ異同ヲ臚テ其初ニ出スモノハ本篇定用ノ稱呼ト知り玉フベシ

儒 教

儒 教

孔 教

(史記晉書)

(晉書西敎鑿鑿)

孔子教 (朝鮮事情)
孔夫子教 (萬國傳信紀事)

班誥教 (明史)

道教

道 教 (宣室志海國圖志)

像 教 (唐書)

老子教 (增譯採覽異言)

八思教 (八荒譯史)

八思班誥教 (明史)

佛 教

佛 教 (後漢書)

釋 教 (北史)

梵 教 (八荒史)

象 教 (地理全志)

紅 教 (清武記)

黃 教 (清武記地理全志)

浮屠教 (史記註)

梵天教 (唐書)

尼乾教 (晉書)

付氏教 (雲林鹿漫抄)

釋迦教 (外國史畧)

刺麻教 (坤輿圖誌)

牟尼教 (瀛環志畧)

臘抹教 (地球說畧)

菩提教、哪嗎教 (西教鑿畧)

孛姑繻 (明史)

印度佛教、喇嘛佛教、大刺麻教、黑魯赫教、墨低蘭刺麻黃教 (海國圖志)

刺麻紅教、黃氏釋教 (地理全志) 紅衣刺麻教 (衛藏圖志萬國史記)

天竺佛教 (外國史畧)

婆羅門教

天竺教 (三國志)

興杜教 (海國圖志)

婆羅門教 (晉書印度史)

伯羅民教 (英國史)

印度舊教、墨那敏教 (海國圖志)

勅雷蠻教 (西教鑿畧)

古時佛教 (每月統紀傳)

婆羅門佛教 (外國史畧)

墨那敏佛教 (每月統紀傳)

火 教

火 教 (瀛環志畧)

沃 教 (西溪叢話)

景教	(唐書)	摩尼教	(宋史)
拜火教	(瀛環志畧)	太陽教	(地球說畧)
馬日教	(萬國史畧)	波斯古教	(萬國年鑒)
星宿太陽教	(外國史畧)		
回々教	(明史)	回教	(明史)
由教	(海國圖志)	天方教	(四洲志)
由斯教	(海國圖志)	亞拉回教	(外國史畧)
莫臥兒教	(增譯採覽異言)	馬哈默教	(坤輿圖誌)
伊斯蘭教	(萬國史記)	由斯回教	(海國圖志)
科馬爾回教	(地理備考)	志斯派回教	(萬國年鑒)
比阿厘回教、巴柳士良教、色底特士教、馬哈墨回教			
彌利底派回教	(萬國新史)		

公カトリック教

公教	(瀛環志畧)	洋教	(各國一覽表)
舊教	(萬國年鑒)	西教	(地球說畧)
聖教	(澳門紀畧)	禩教	(學福齋雜著)
正教	(英國史)	天教	(增譯採覽異言)
天主教	(明史)	別洋教	(地球說畧)
羅馬教	(坤輿圖誌)	羅甸教	(羅馬史)
臘丁教	(四裔編年表)	拉丁教	(萬國年鑒)
大秦教	(地理備考)	大西教	(增譯採覽異言)
者蘇教	(四裔編年表)	加特力教	(海國圖志)
耶蘇舊教	(外國史畧)	天主教	(地理備考)
格尼里教	(米利堅志)	耶修的教、亞利安教	(萬國史畧)
街布金教	(西教鑒畧)	天主教	(外國史畧)

天主耶穌教	(地理全志)	西方天主教、他米尼滅教、門地滅脫教、也疏
依脫教、瑣西尼恩教	(西教鑿畧)	加特力天主教
		(每月統紀傳)
羅馬天主教新教	(外國史略)	羅馬天主教
		(地理備考)
羅馬加特力教	(海國圖志)	法蘭釋斯滅教、皮尼迭克典教
		(西教鑿畧)
新教	プロテスタント 新教	
	(萬國年鑑)	修教
		(瀛環志略)
西教	(各國一覽表)	老教
		(外國史畧)
耶穌教	(地理全志)	西洋教
		(地球說畧)
英國教	(洋學便覽)	亞毗教
		(易知錄)
波羅特教、魯低蘭教	(海國圖志)	彪力單教
		(萬國史畧)
耶穌老教、耶穌本教	(外國史略)	耶穌新教
		(萬國年鑑)
耶穌正教	(大東寶鑑)	比率巴教
		(洋學便覽)
波羅的士教	(萬國年鑑)	利由得蘭教
		(魯國新史)

路得羅修教	(地理備考)	改正派新教	(萬國史畧)
加爾威諾修教	(地理備考)	婆羅特士頓教	(海國圖志)
希臘教	ギリキ 希臘教	東教	(西教鑿畧)
	(瀛環志畧)	大峨教	(萬國年鑑)
額力教	(海國圖志)	天主教、俄羅斯教	(萬國年鑑)
	(地理備考)		
額力西教	(地理備考)		
東方天主教	(西教鑿畧)		
		西洋教	(地球說畧)
基督教	キリスト 基督教	已上ノ名稱ハ公教、新教、希臘教ヲ兼稱ス	
	(海國圖志)		
克力士頓教	(海國圖志)		
猶太教	ユダヤ 猶太教	古教	(萬國一覽)
	(萬國傳信紀事)	加德亞教	(坤輿圖誌)
若鄧教	(增譯採覽異言)		

入德亞古教 (地理備考)

像 教 (洋教便覽)

仙的利教 (增譯探覽異言)

埃及教 (羅馬史)

諸國神教

額力神教 (萬國史紀)

此他尙ホ數多ノ諸小教名ナキニアラスト雖トモ何レモ皆ナ大同小異ニシテ一々具録スルノ必要ナキヲ以テ茲ニ省畧ス

安南神教 (坤輿圖誌)

羅馬神教 (西史年表)

協乙鄧教 (坤輿圖誌)

奚的納教 (魯西亞本紀)

羅馬神教 (西史年表)

安南神教 (坤輿圖誌)

額力神教 (萬國史紀)

仙的利教 (增譯探覽異言)

像 教 (洋教便覽)

入德亞古教 (地理備考)

第貳編 佛 教

第壹章 緒 論

余ハ今第二編ニ移リ佛敎ノ大意ヲ論スルノ場合ニ臨ミタリ而シテ之ヲ説述スルニ當リ豫シメ訴ヘ置クベキコトヲ要スルハ之ヲ簡明ニ述ルコトノ至難ナルコトナリ是レ誰シモ謂フナカラ特ニ此ノ僅々ナル小冊子ニ於テ高遠至大ノ佛理ヲ提唱スル境遇ニ於テハ最モ艱難ヲ感スルト共ニ隔靴搔癢ノ歎ナキヲ得ス願フニ東洋ノ學風ハ定義ヲ下シ分釋ヲ施シ順序ヲ逐ヒ條目ヲ立テ範圍明カニ本質朗カニ目的定マリテ整然推理的ニ説クコト泰西ノ如クナラス單ニ或ル道理ヲ茫漠中ニ立論スルノミ時ニ捕雲捉風ノ感ナキ能ハス蓋シ是レ東西ノ人心氣風ノ異同自カラ此ニ至ラシメタルコトナルベシ

佛敎ニハ因明テフ一種ノ論法ニ依ルヲ以テ他ノ東洋諸學ニ比スレハ秩序整然トシテ非推理的ノ弊少キニ似タレトモ其過去ノ經歷ハ尙ホ東洋特個ノ趣味ヲ蟬脫スル能ハサルアリ彼ノ何々論ト云ヒ何々章ト云ヒ若クハ記若クハ疏汗牛充棟ノ末鈔末釋盛ンニ佛敎ヲ講讀セル者アリト雖モ一トシテ科學風ニ解釋セシノ典ナク一トシテ歷史的研究法ヲ採用セル籍ナク或

ハ謂ハシ佛敎ノ斯ノ如クナルハ却テ深味ノ存スル所以ニシテ即チ佛敎ノ佛敎タル妙趣ナリト然レ共余ノ眼孔ヨリ之ヲ見レハ止ムヲ得ス不満足ノ三字ヲ以テ古來ノ佛敎家ニ呈セサルヲ得ス折角充實ノ原料品ヲ有シ乍ラ之ヲ明晰ニ巧妙ニ組立テ、遂ニ後人ニ傳フル能ハサルハ無限ノ遺憾ト謂フノ外ナシ故ニ今諸君ニ對シテ佛敎ノ一般ヲ述ルニ當リテハ第一ニ不足ヲ感スルハ適當ナル佛敎論、適當ナル佛敎史ノ缺乏ナリトス是れ或ハ余ノ佛敎ノ一斑ヲ知ルニハ彼ノ礪然法師ノ八宗綱要又ハ三國佛法傳通記ノ類ハ大ニ用ユベキ所アルガ如シ即チ綱要ハ自宗高舉ノ偏僻ナク極メテ公平ニ各宗ノ大綱ヲ提ケタリ又タ傳通記ノ如キハ能ク編平體ニ春秋流ニ佛敎史ヲ叙述シ一往ハ其有様ハ知ルニ足レリ然レトモ此等ニ依テ全佛敎ノ真相即チ各宗相互ノ關係及ヒ佛敎全般ノ發達運動ヲ徵スル能ハサルナリ猶ホ一指ヲ以テ全鼎ノ眞味ヲ評スルニ異ナラザルベシ故ニ余ハ先輩高僧ニ頓着セテ泰西學風ニ佛敎ヲ講説シ以テ佛敎ノ生面上ニ一紀元ヲ開クトセンカ余ノ薄學ナル到底今日ニ於テ出來得ベクモアラズ然ラハ先輩ノ言ト自己ノ見トヲ混淆シ以テ解釋敷衍スベキカ恣ニ臆見ヲ聘スルノ恐アルノミナラス又古人ヲ地下ニ誣ルノ罪アリ此モ不可ナリ彼モ不可ナリ右モ非ナリ左モ非ナリ

嗚呼余ハ果シテ如何セハ可ナルヤ若カス余ハ名譽アル令司者タランヨリハ寧ロ忠實ナル傳令使タラン陳套者流ト言ハシ言ヘ余カ方向ハ必ス此ニ擇ハザルヲ得ス故ニ余ハ史論ハ暫ク之ヲ措キ唯佛敎論ニ於テ古來諸高僧ノ施シタル敎相判釋法ノ一ヲ取り其名目ヲ傳令スルヲ以テ満足セサルヲ得ス之レ讀者諸君ノ諒察ヲ請フ所以ナリ

第一章 佛敎ノ大體

本師釋迦佛ハ何故ニ出世セラレシカ其無量ノ法聚門ハ畢竟何レノ點ニ歸着スルカ是レ第一ニ起ル問題ニシテ佛信者ノ先ツ明ラムルヲ要スルコトナリ蓋シ世界ニ存在スル諸ノ宗敎ハ如何ナル必要アリテ存在スルカト云ハ、其敎ノ文野其理ノ淺深ニ論ナク皆世ヲ救ヒ人ヲ安ンセシムルニアラサルハナシ此救世旨義安心旨義ハ凡テノ宗敎旨義ハ都テノ宗敎ノ通有スル所ナリ吾佛敎亦宗敎ノ範圍ニ有ル者ナルカ故ニ其外相ハ其他ノ宗敎ト同一旨義ナリ然レトモ充分ナル復雜ナル哲理ニ根據シ吾人生死ノ由來苦樂ノ原因、迷悟ノ分域及ヒ萬有ノ實相ヲ解釋シ吾人ヲシテ一切ノ迷ヲ去ラシメ究竟樂無上覺ヲ得セシムル者ハ特ニ佛敎ノ獨占スル所ニシテ其他ノ宗敎ニ於テ見サル所トス是レ精到ノ解ヲ爲スニ及ハス業既ニ世ノ識者

ノ承認スル所タリ是ニ由テ之ヲ觀レハ釋迦佛ノ本懷ハ無量乘ノ實歸轉迷開悟ノ一句ニ攝盡セリト謂フヲ得ベシ是ヲ以テ付法藏第十二ノ祖阿那菩底嘗テ佛教ノ總因緣ヲ説テ曰ク『衆生ヲシテ一切ノ苦ヲ離レ究竟樂ヲ得セシメンガ爲ナリ』ト此大旨義ハ能ク八萬ノ聖教ニ通徹シ小ヤ大ヤ偏ヤ圓ヤ權ヤ實ヤ半ヤ滿ヤ此等諸聖教ハ此ノ一大原素ニ依テ推演セラレタルモノナリ

抑モ一箇ノ原素ニ依リ一佛ノ金口ヨリ顯レシ佛教ニシテ何故ニ大小偏圓等ノ差別アルヲ見ルヤ甚タ不審ニ思ハルレ共是レ實ニ斯ノ如クナラサルベカラサル理由アルナリ例ヘハ吾人カ國家政治ノ理ニ於テ信スル如ク一箇ノ政體ハ知識境遇ヲ異ニスル種々ノ國民ニ適用シ得ス好シ又タ適用シ得ルトスルモ之ニ因テ政治ノ目的ヲ達スル能ハス即チ專制政治必シモ不良ノ政體ニ非ス或國民ニハ甚タ必要アリ多數政體ハ必シモ極美ノ政體タラス或條件ノ備ハラサル國民ニハ功能ナシト謂フカ如キ觀アリ其理又タ佛尊ノ衆生ヲ利濟セラル上ニモアリ却テ愚鈍小機ノ者ニ向フテ直ニ微妙ノ極理ヲ説示スルモ此等ノ人物ハ墮ノ如ク又啞ノ如ク牛ニ對シテ琴ヲ調フルト一般毫モ利アラヌ依ツテ先ツ此輩ノ爲ニハ漸教ノ方向ヲ取り其機

ニ該當スル人空ノ理ヲ示シ徐々高尙ノ大道ニ誘引セザルベカラス又直往頓悟ノ人アリ此輩ノ爲ニハ漸次悟入ノ方向ヲ取ラヌ直チニ極說妙理ヲ與ヘテ可ナリ利根ナル此輩ハ喜ンテ之ヲ受クベシ之ヲ要スルニ夫ノ社會進步ノ度ニ應シテ政體ヲ異ニスルノ必要アルガ如ク所被ノ機根ノ千差ナルニ準シテ能被ノ教法ヲ萬別スルノ必要アルナリ是故ニ之ヲ受クル機根ニ準シテ小大權實ノ差異アリト雖モ而モ轉迷開悟離苦得樂ノ大原素ハ皆一同ナルコト恰モ一水ノ器ニ隨テ色ヲ異ニスルガ如ク去レハ吾人各々其機ニ應シ有縁ノ道ニ依リ如法ニ修習スレハ宗旨ノ異ナルニ拘ハラヌ同シク相當ノ悟見妙樂ヲ得ルヤ必セリ佛教ノ善巧圓滿ナル所以實ニ此ニ存在セリ宜ナルカナ古往今來諸高僧ノ化導ヲ異ニセシコト斯ノ如キ宗教ニシテ初メテ文明ニ隨テ左右シ光輝ヲ發揚スルニ至ル其ノ善巧智惠想フベシ

余ハ佛教ニ一大旨アルコト而シテ之ヲ達スルニハ應病與藥對機說法ナルコトヲ前段ニ略述セリ次ニ此復雜ナル佛教ヲ研窮スルニ當リテハ如何ナル方法ヲ以テスベキカト云フ問題ニ答フルヲ以テ至當ノ順序ナリトス之ニ付テ余ハ前々段ニ於テ一言セシ教相判釋ノ何タルヤヲ説明スベシ凡ソ這般萬差ノ聖教ヲ研窮スルニ當リテハ何カ其便法ヲ見出サ、ルベカラス

若シ否ラスシテ吾人直ニ浩漭復雜ナル聖教ニ向ヒ眞理ノ所在ヲ發見スルコト、センカ茫々
 漠々彌ヨ入りテ彌ヨ迷ヒ唯屢遭遇スル者ハ文句ノ撞着意義ノ抵觸ノミ況ンヤ又々五千四十
 八卷(但し開元錄に據リ)ノ大冊ハ之ヲ通閱スル容易ノ業ニ非サルヤ是ニ於テ古來ノ高僧
 ハ教相判釋法ヲ發明シ吾人後進ノ爲ニスル所アリシ抑モ教相判釋ハ大乘ノ八宗旨ヲ開説ス
 ルニ當リ必ス先ツ行フ所ノ通則ナリ所謂立教開宗トテ教相判釋以テ經文ヲ定メ其所主所尊
 ノ理ニ因リテ一宗ヲ開設スルコトナリ而シテ其意味ヲ釋スレハ是レ如來一代ノ聖教ヲ分判
 スルノ謂ニシテ之ニ依テ經論ノ深意ヲ發揮シ撞着抵觸ヲ和會シ而シテ方便眞實ノ所在ヲ確
 ムルコトナリ其之ヲ行フニハ或ハ經文ニ依ルアリ或ハ論藏ニ依ルアリ又或ハ道理ニ基クモノ
 アリ又其分類ノ數ノ如キ或ハ一教或ハ二教或ハ四教或ハ五教等種々ノ仕方アリ今其有名ナ
 ル者二三ヲ舉レハ論師戒賢ハ説法ノ年月ト説法ノ義類トニ約シテ有空中ノ三時教ヲ立テ以
 テ一代教ヲ判釋セリ又天台大師ハ所證ノ理ニ約シテ四教ヲ設ケ説法ノ時ニ約シテ五時ヲ立
 テ以テ一代法ヲ攝盡セリ又香象大師ハ義ニ約シテ五教ニ分テ理ニ約シテ十宗ヲ劃シ以テ萬
 差ノ聖教ヲ收メタリ又本朝ノ弘法大師ノ如キハ橫門ニ約シテ顯密二教ニ分チ豎門ニ約シテ

十住心ヲ類シ顯密淺深ノ由ヲ明カニセリ此中ニ於テ何レノ教判ニ則リテ佛教ノ何者タルヲ
 演フベキヤ余ハ且ク香象大師ノ判釋ニ依ルコト、ナサン蓋シ尋常ノ見ヲ以テスレハ此師ノ
 判釋ハ法相ノ三時教又ハ天台宗ノ五時ノ如ク佛經ヲ以テ佛教ヲ判スル者ト異リ妙シク聖教
 ニ明文ヲ缺キ只タ人師ノ憶見ニ過キザルヤノ疑ナキニシモ非ス然レ共審カニ其理由ヲ推窮
 スレハ疑念忽チ烟散霧消スルナランカ
 夫レ佛教ノ大体ニ基ケハ減シテ四教ヲ増シテ六教トナラス必ス五教ノ組成ナラサルベ
 カラサル理由アリ凡ソ釋迦一代ノ教門ハ之ヲ大別シテ小乘教及ヒ大乘教ノ二大部門トナル
 大乘教亦二分シテ一乘教及三乘教トナル三乘教ニ二種ノ別アリ曰ク頓教曰ク漸教、漸教ニ
 亦二別アリ始終ノ二教是ナリ一代ノ教門ハ大小偏圓權實半滿淺深差別區々ナレ共要スルニ
 此五類ヲ出テサルベシ佛教ノ理ハ本來法爾トシテ五教ナルニ非ズンハ到底理ヲ盡シ眞ヲ究
 メ難カルベシ實ニ大小頓漸等ノ區別ハ一代教ヲ分釋彙類スルニ適當ナル標準ト謂ハズンハ
 アルベカラス今便覽ノ爲メニ左ニ圖解ヲ出スベシ

小乘(小)



斯ノ如ク佛教ヲ小始終頓圓ノ五教ニ分類スルコト明々白々一毫ノ指隙スベキナシ何ソ目シテ臆説ナリ私見ナリト云フヲ得ンヤ願フニ師ノ前代ニハ譯經ノ三藏立宗ノ高僧頻リニ輩出シ盛ニ法門ヲ論談セリ師ハ乃チ其後ニ出テ、是等先進諸輩ノ下シタル教判ノ轍ヲ鑿ミ密ニ利弊得喪ヲ察スルノ便益ヲ享有シ一代ノ說教ハ斯ノ如クスルヲ以テ眞理ヲ得タル者トナシ而後ニ斯五教ノ判釋アリシ者ナルヤ必セリ是レ即チ古來公平穩當ノ教判トシ云ヘハ先ツ指テ此師ニ屈スル所以アリ余ノ是方法ニ依ラントスルコト豈ニ夫レ不條理ナランヤ余ハ是ヨリ次章ニ進ミ佛教ノ何者タルヲ記述スベシ然レ共前段ニ陳セシ如ク此小冊子ハ到底完全ナル悉皆ノ説明ハ出來ベクモアラヌ故ニ唯タ五教ノ名目ハ此レノナリト辨スルニ停マルコトナラン余ハ期ス若モ此小冊子ガ諸君ヲシテ佛教ノ概念ヲ起サシムルノ増上縁トナリ他日佛理ヲ研究スルノ階梯トモナラハ余ガ小願モ亦茲ニ滿ツ

第三章 佛教ノ組織

香象大師曰ク『聖教萬差ナレ共要ハ唯五アリ一ニハ小乗教ニハ大乘始教三ニハ終教四ニハ頓教五ニハ圓教ナリ』ト此小始終頓圓即チ五教ナリ又師ノ語ニ據レハ『法ニ就テ教ヲ分ツ教類ニ五アリ』ト此意氣ハ此五教ハ聖教所詮ノ法義ニ就テ能詮ノ聖教ヲ分類ス例ハ小乗教トハ所詮ノ義即チ修行果凡ソ自調自度ノ小行ニシテ大乘所顯ノ義ニ異ナル故ニ此名アルナリ若シ能詮ノ聖教ニ就テ云ハ、四阿含經發智論等ヲ以テ名クナラム夫レ五教ハ總シテハ一代八萬ノ聖教ヲ判釋シ別シテハ七處九會ノ華嚴經ヲ美飾スル者ナリ小ハ大ニ對シ始ハ終ニ對シ始終ハ二ノ漸ナルニ對シテ頓教ノ名アリ小始終頓ノ編ナルニ對シテ圓教ト名ケタリ人空ノ理ニ依テ小乗教ヲ立テ人法二空ノ理ニ依テ始教ヲ立テ不空眞如ノ理ニ依テ終教ヲ立テ絶言眞如ノ理ニ依テ頓教ヲ立テ及ヒ圓通自在無碍法界ノ理ニ依テ圓教ヲ立テタリ固ト此五教ノ起源ハ華嚴第三祖杜順律師ノ五教止觀ニ出タリ然レ共禪師ハ觀門ノ一邊ニ就テ説明セシノミ之ヲ教相門ニ應用セシハ香象大師ノ力ナリ又此五教ノ次第ハ義ヲ標準トシテ從淺至深ノ次第ヲ明セシ者ニシテ釋尊說法ノ年月ノ次第ニ非サルコトニ注意セサル可カラヌ余ハ

既ニ五教ノ概要ヲ辨シ終リタレハ以下ニ於テ一々其名目ニ就キ注解スル所アルヘシ

第四章 五教ノ概要

第一 小乗教

所詮ノ義ノ深淺不同ニ依テ能詮ノ聖教ノ次第差別ヲ明ス中ニ於テ最初ニ居スルハ即チ此小乗教ナリ小乗教ノ具名ハ愚法小乗教ナリ即チ斷惑證理都テ小行小果ニシテ法空ノ理ニ愚ナル故ニ此名アリ是レ大乘ヨリ貶斥シテ名ケタルモノナリ然レ共小乘自身ニ在ツテハ決シテ斯ク思ハス此レ誠ニ眞實ナリ妙法ナリト思ヘリ此教ハ小機ノ爲ニ説キシ人空法有ノ教ナリ四諦法(苦集)ハ聲聞ノ爲ニアリ十二因緣(無名行識名色六入)ハ緣覺ノ爲ニアリ又菩薩ノ爲ニハ三祇ノ修行ヲ説カレタリ而シテ人空法有ノ理トハ何ソヤ謂ク三世實有法體恒有即チ有爲ノ諸法ハ三世ニ恒ニ存在シ三世亦實ニ有リ然レ共此中ニハ主宰ノ專權アル我ナル物體ナリ我ハ是レ五蘊(色聲香)假和合ノモノナリ五蘊ノ中ニハ我ノ實體アルコトナシト謂フノ義ナリ是レハ之レ權方ノ施設ノ教法ナリ即チ機根淺劣ノ人ハ直チニ大乘ノ深説ヲ聞クニ耐ヘザレハ釋尊先ツ此理ヲ示シ以テ安心セシメ漸ク大道ニ誘引セントセラレタルナリ此教實ニ

佛教中最モ卑近ナル説ナリト雖モ又小乗ハ佛教ノ基礎ニシテ花實ヲ生スルノ原種タルコトヲ忘ルベカラス

第二 大乘始教

階一階ヲ進メハ其趣キ自カラ異ナル所アルベシ大乘始教トハ大乘終教ニ對スルノ語ナリ始ハ初チリ此數ハ大乘ノ初門即チ小乗ノ關ヲ超テ大乘ノ郷ニ初メテ入りタルモノ、爲ニ説カレシ教ナリ是レ眞實終極ノ教ニアラザルヲ以テ始ノ名ヲ付スルナリ抑モ大乘始教ニ二アリノ曰空始教曰ノ相始教是レナリ前者ハ小乗ノ法有テ破斥シテ一切皆空ト説ク所ノ教ニシテ所謂般若、三論等ノ所説是レナリ若シ其宗ヲ指サハ龍樹、提婆、青目、清辨、智光等所立ノ三論宗是ナリ後者ハ彌勒、無着、世親、護法、戒賢等所立ノ法相宗ニ當レリ法相宗ハ小乗ノ業感緣起ニ反對シテ賴耶緣起ヲ談シ小乗ノ五位七十五法ヲ開ヒテ五位百法ヲ説キ小乗ノ自調自度ニ反對シテ二利(自利)ノ行ヲ修メ小乗ノ小果ニ反對シテ二轉(善提)ノ妙果ヲ證スルノ教ナリ若シ經論ヲ指サハ解深密經瑜伽論等此義ヲ説述セリ

第三 大乘終教

前教ノ大乘初門ナルニ對シテ是ハ大乘終盡至極ノ教ナリ故ニ終教ノ名アリ所謂眞體即眞如ノ體ハ空ナラス萬德ヲ具ヘタリト説テ空始教所説ノ一切皆空ニ一段ヲ進メ眞如隨緣シテ萬法ト顯ルト談シテ相始教所談ノ賴耶緣起ニ一重ヲ高メ又一切皆成佛ト斷言シテ相始教ノ五性各別決定性ノ二乘及ヒ無性有情ノ人ハ永不成佛ナリト謂フヲ駁斥ス是レ即チ大乘ノ深義此中ニ盡キ法門ノ建立既ニ此教ニ極マレリ而シテ楞伽經、起信論等ニ於テ正ニ此旨義ヲ説述セリ

第四 大乘頓教

頓トハ頓即頓初ノ旨義ニシテ前後ノ次第ニ擇ヒシ教理行果ノ四法漸頓比較シテ四種ノ不同アリテ特ニ此教ヲ頓ト名クルコトナルカ要スルニ此教ハ一念不生則名爲佛ト談ス是レ眞如ノ法體ハ固ト言説ノ相ヲ離レタリ故ニ忘念斷シテ生セサレハ眞如必ス顯現ス是ヲ名ケテ佛ナリト謂ヘリ去レハ本教ハ教相ヲ設クルコト漸教ノ如クナラス位階ヲ立ルコト漸教ノ如クナラス一切法ハ本來眞如ナリ諸法ノ當相即眞如ナリ行住坐臥皆ナ隨順眞如ノ行爲ナリ一念不生即名爲佛ナリ故チ以テ教相ナク位階ナク豁然大悟ノ一念ニ佛果ヲ成ス恰モ是レ鏡中ノ

影像ノ頓ニ現シテ徐々ニアラザルカ如シト説ケリ是レ頓即頓初タル所以ナリ古來達摩大師ノ所傳ヲ以テ此教ニ配當スル者アリ即チ以心傳心不立文字ノ理能ク此絶言眞如ノ眞髓ヲ説ク蓋此教ニ似ル故ナリ

第五 大乘圓教

圓トハ圓融圓滿ノ旨義ナリ前四教ハ凡テ偏教ニシテ此教獨リ圓融ヲ談シ相即ヲ説ク故ニ此名アリ前ノ頓教ノ如キハ一念成佛ヲ談シ頗ル高尚ナルニ似タレトモ未ダ事々無礙ノ理主伴無盡ノ妙ヲ知ラス尙ホ是レ淺膚ナルヲ免カレズ此教ハ一多相即自在無礙ノ理ヲ説キ事々無礙ニハ萬有ノ體相ヲ窮メ主伴無盡ニハ果相ノ輪圓ヲ顯ス寔ニ一代説法ノ最長タリ諸教諸宗ノ玄底ナリ十玄緣起ノ説六相ノ理實ニ深意アリ小冊子ノ能ク盡ス所ニアラス釋迦ハ成道第二七日ニ於テ此理ヲ説キ普賢ノ大機ニ被ラシメラレタリ其趣キハ日出テ、先ツ高山ヲ照スカ如シト云フ

今略シテ圓教ノ相ト及ヒ此教ノ諸教ノ玄底タル所以ト述ル爲メニ圓教ノ旨義ヲ攝盡セリト稱スル四法界ノ理ヲ注解スベシ

一、事法界 事トハ宇宙ノ諸法ナリ界トハ分界差別ノ義ナリ乃チ一切萬法個々別々ニ分界差別セラレタル事法界ト謂フ山ハ山川ハ川松ハ松竹ハ竹ト萬物差別シテ顯象スルコトヲ謂フ

二、理法界 理トハ眞如ヲ謂フ界ハ性ノ義ヨリ乃チ眞如ノ理體ハ堅ニ三世ヲ貫キ横ニ十方ニ亘リ平等々々ニシテ差別アルコトナシ佛ニ在テモ眞如ナリ凡夫ニ在テモ眞如ナリ眞如ハ即チ眞如ナリ法界平等ニシテ此一眞如ノ理ノ非サルハナシ是ヲ理法界ト名ヅク

三、理事無礙法界 理ハ前ノ如ク眞如ニシテ事又前ノ如ク萬法ナリ事ハ理ヨリ顯レタル者ナルカ故ニ理即事ニシテ理ト事トハ無礙ナリ固ト眞如ニ二分アリ曰ク隨緣曰ク不變而シテ其隨緣眞如ヲ謂ヘハ眞如即チ萬法ナリ理即チ事ナリ其不變眞如ヲ謂ヘハ萬法即チ眞如ナリ事即チ理ナリ平坦水ト波瀾トハ異ナルカ如クナレトモ素ト水質ヲ離レテ平坦水ナク又波瀾モナシ水即波、波即水ナルカ如シ此時ノ界ハ性ト分トノ二義ニ通ス理ニ望ムレハ性ノ義ナリ事ニ望ムレハ分ノ義トナルヘシ

四、事々無礙法界 眞如ノ理體ヤ能ク萬法ヲ含藏シテ遺ス所ナシ此理體ヨリ發顯シタル

ル萬法ナレハ此萬法亦彼理體ノ如ク一切ヲ含有シテ餘スコトナシ一塵一毛孔ノ中ニモ十方界ヲ攝盡シ事ト事ト互ニ融即シテ重々無礙自在ナルヲ指シテ事々無礙ト謂フ更ニ之ヲ謂ヘハ事ハ理ヨリ起シテ理ト事トハ無礙ナルカ故ニ此事ト彼事トハ亦無礙ナリト云フノ旨義ナリ之レヲ要スルニ事ト理トチ個々各別ニ心得ルコトカ第一第二ノ法界ナリ第三ハ此事ト此理トノ無礙ヲ認メ第四ハ理事無礙ナル故ニ此事ト此事トハ無礙ナリト心得フルナリ是レ又彼ノ五教ノ如ク淺ヨリ深ニ微ヨリ著ニ至ルノ次第ナリ是チ五教ニ配スレハ圓教ノ極說ナル所以自カラ顯ハルヘシ先ツ第一ノ小乘教ハ唯ク差別ノ事相ノミチ明シ未タ眞如ノ理アルモ談セサルカ故ニ即チ是レ事法界ナリ次ニ始教ヲ見ルニ中ニ於テ空始教ハ諸法皆空ト說キ唯ダ平等ノ空理ヲ明スノミナルカ故ニ是レ理法界ニ當ル相始教ハ之ニ反シテ一分眞如ノ理ヲ談スレトモ尙ホ是ニ眞如チ六無爲トシテ法相ノ中ニ算入シ五位百法ヲ說テ諸法ノ性相ヲ研究スルカ故ニ事法界ニ屬ス第三ノ終教ハ眞如隨緣シテ萬差ノ諸法ト成ル旨ヲ談スルカ故ニ理事無礙法界ニ配スベシ而シテ頓教ハ絕言眞如ノ理ヲ立ルカ故ニ理法界ニ屬ス最終ノ圓教ハ第四ノ事々無礙法界ノ理ヲ談スル圓滿圓融ノ教ナリ四法界ノ中ニ於テ前ノ三法界ハ第四ノ

法界ヨリ出タル者ニシテ前ノ三法界ノ理ハ皆此第四ノ法界ニ攝盡セリ又五教ノ中ノ前四教
 ナ配當スレハ事、理、理事無礙ノ三法界ニ過キズ而シテ此四法界ノ理ハ華嚴ニ於テ説クトコ
 ロノ法門ナリ故ニ小、始、終、頓ノ四教ハ皆此華嚴大經ノ三法界ヲ流出シタルモノナリ若
 シ末ヲ攝シ本ニ歸スレハ凡テ悉ク皆ナ一箇ノ華嚴大海ニ流入スベキナリ
 義ヲ以テ五教ヲ分釋スルノ概シテ斯ノ如シ而シテ香象大師ハ又更ラニ理ヲ以テ宗ヲ立テ十
 箇ノ種類ヲ開キタリ曰ク我法俱有宗曰ク法有我無宗曰ク法無去來宗曰ク現通假實宗曰ク宗
 俗妄眞實宗曰ク諸法但名宗曰ク一切皆空宗曰ク眞德不空宗曰ク相想俱絕宗曰ク圓明具德ナ
 リ初メノ六宗ハ第一ノ小乘教ヲ開キモノニシテ後ノ四宗ハ次第ノ如ク始終頓圓ノ四教ナ
 リ五教ノ上更ニ十宗ヲ開クニ二意アリ一ニハ五教ハ大乘ノ淺深優劣(始修頓ノ三教)ヲ顯ス
 モ未タ小乘部内ノ淺深優劣ヲ顯ハサル故ニ第一ノ小乘教ニ六宗ヲ開キ其淺深ヲ顯ハス二
 ニハ五教ノ建立ハ未タ五教各々其尊ブ所崇ムル所ノ道理ヲ顯ハル故ニ更ニ十宗ヲ立テ、
 此理ヲ顯ス此等二箇ノ配立ヲ待チ初メテ一切ノ說教ヲ分釋シ盡セルモノト謂フベシ余ハ且
 ラク此等ノ解釋ヲ見合シ唯小乘ノ淺深差別ニ付キ少シク述ル所アラン此レ前ニ述ヘサリシ

者ナレハナリ

小乘ニハ二十部ノ異計アリテ互ニ是非鬭諍セリ二十部各々差異アレトモ之ヲ攝束スレハ前
 ニ所謂初ノ六字ニ外ナラス更ニ又之ヲ攝束スレハ蓋シ以下ノ三宗ニ過ギサルベシ即チ一ハ
 人法俱ニ實在ナリト計スルモノニハ人ハ空ナリ法ハ實在ナリト計スル者ニハ人我法執俱ニ
 空ナリト計スル者はレナリ彼ノ六宗ノ中ノ第一宗ハ即チ此第一種ニシテ是レ小乘中極メテ
 卑近ノ宗旨ナリ第二種ハ所謂法有我無宗ニシテ第三第四第五第六ノ四宗ハ此中ノ第三種ニ
 屬スベシ小乘ニハ此等ノ差アリテ淺深次第アレトモ大乘ノ眼ヨリ之ヲ瞻レハ凡テ人空ノ理
 ニ彷徨スル者ト謂ハル、ナリ何トナレハ第二種ハ固トヨリ人空ノ理ナルコト論ナシ第一種
 ノ如キ人空ノ理ニ抵觸スルカ如クナレトモ實際ハ此宗トテモ人我實ニ有リトハ謂ハサルナ
 リ又第三種ノ如キ人法俱空ト謂フト雖トモ大乘ヨリ之ヲ見レハ彼等ノ所謂法宗トハ拆法空
 ノコトニシテ尙ホ體法空ヲ帶ベリ又是レ人空ノ理ニ離礙スルヤ必セリ故ニ凡テ小乘教ヲ目
 シテ人空ノ理ヲ説クニ在リト斷言スベキナリ去レハ大乘ニハ此理ヲ詳説スル小乘部ノ隨一
 タル一切有部宗ヲ以テ其當分ヲ得タルモノト爲シ遇スルニ小乘ノ代表者ヲ以テセリ

第五章 佛教ノ本旨

以上述ル所ニ於テ佛教ノ本旨及ヒ佛教ノ分類ニ關シ粗畧ナカテ説述シ畢レリ固ト此書タル最初既ニ言ヒ置キシカ如ク唯其名目ノ陳列ニ止マレリ彼ノ頼耶縁起ノ説又ハ如來藏縁起ノ理又或ハ十玄縁起等此等法門ノ説明ハ小冊子ノ得テ能クスベクモアラヌ宜シク專門ノ典籍ニ就テ其需要ヲ充サルベシ蓋シ惟ルニ教判ノ粹ハ此五教ニ吸收セラレタル者ト謂フヘシ何トナレハ此師以前ニハ許多ノ高僧名徳輩出シテ種々ノ教判ヲ設ケ一宗一派ヲ開闢セシコト多カリシモ其以後ニ在テハ宗派ノ新生ハ且ク措キ教判ニ於テハ本朝ニ於テ唯一ヲ見ルノミ而シテ此新教判ハ配立ノ工合五教ト抵觸スル所アルヲ見ズ加之ナラヌ新教判ハ大ニ其影響ヲ被ムル所アルカ如シ即チ本朝眞言宗ノ開祖弘法大師案立ノ十住心是レナリ師ハ佛教ヲ二大別シ生身所説ノ一代教ヲ目シテ顯界ノ教、鈍機ノ説トシ法身ノ説教ヲ以テ秘奧深密ノ教、自受法樂ノ説トシ圓教即チ華嚴一乘ヲ以テ顯教ノ極果トナシ而シテ密教ニ對スレハ是レ起因ナリトセリ蓋シ十住心ハ顯密二教ヲ開キタルモノニ外ナラス

教判ノ一段既ニ畢リタルハ次ニ此教判門ト觀門トニ異リアルコト及ヒ其關係ヲ述ヘ此章ヲ

結フコト、スヘシ凡ソ何宗何教タルヲ問ハス皆チ教觀ノ二門アリ佛教ニ此等二個ノ門アル恰カモ科學上理論ト應用トノ二アルガ如シ理論ト應用トノ二ノ必要缺クヘカテサルガ如ク佛敎ニ於テモ教觀ノ二門備ハリテ初メテ完美圓滿タルヲ得ルナリ教判門トハ何ソヤ是レ以前既ニ概述セシ所謂教相判釋ニ外ナラス教相判釋ヤ理論攻窮的ナリ智力的ナリ以テ心神ヲ養ヒ以テ耳目ヲ啓クニ在リ觀行門トハ何ソヤ實踐修行的ナリ道德的ナリ以テ從淺至深シ以テ自卑登高スルニ在リ前者チ智目ト名ケ後者チ行足ト號ス是レ教相ヲ研窮スルハ目ヲ以テ視ルカ如ク觀行ヲ修習スルハ足ヲ以テ歩ムニ似タレハナリ是レノ關係ハ甚ダ密着親密ナリ人ニ目足併存スルノ要アルガ如ク智徳ハ必ラス雙修併進セシメサルベカラス然ルニ今更ニ問題ヲ換ヘテ孰レカ最モ切要ナリヤト謂フニ之ヲ知ルヨリ之ヲ行フコト最モ切要ナリト謂フベシ設令目能ク之ヲ視ルモ足以テ歩マサレハ目的ニ到着スル能ハサルベシ教相ヲ知リ論議ニ巧ミナリトテ如法ニ修習セザレハ何ノ益カアラン之ヲ知ルハ之ヲ行ハンカ爲メナリ之ヲ論スルハ之ヲ踏シカ爲メナリ故ニ理論研究的ヨリハ實踐修習的ガ切要ナリトス理論研究的ハ修行センカ爲メ方便ナリ階梯ナリ徒ニ方便階梯ニ停リ實踐セズ修行セサルモノハ釋尊ノ罪

人ト謂フヘシ讀者須ラク觀行門ノ切要ナル本旨ヲ知ラルヘシ
 此觀行門ハ又彼ノ教判門ノ場合ノ如ク教派ノ異ナルニ隨ツテ其方法一様ナラス所謂小乘教
 ニ四締縁起觀アリ相始終ニハ五重唯識ノ觀アリ空始教ニハ八不中道ノ觀アリ圓教ニハ法界
 縁起觀アル等是レナリ此等ノ理甚タ高尚深遠ニシテ一席ノ談話ニ盡スベカラズ今日且ラ其
 名ヲ掲ケ斯ノ如キ者アリト謂フニ止メ更ニ實踐修行ニ關スル佛教通滿ノ理ヲ拈出シ而シ佛
 教信者ハ如何ニセハ佛教信者タルニ耻サルヲ得ルカト謂フテ次章ニ述ブヘシ

第六章 信佛家ノ本色

若夫レ當代ノ日本ハ社會上ヨリ摸倣ノ時期ナリト謂テ得ハ宗教上ヨリハ僞信ノ時期ナリト
 謂フヲ得ヘシ試ニ虛氣平心以テ今時ノ教法界ヲ諦視セヨ彼ノ人的神明ヲ渴仰シ神意的道義
 ナ珍重スル者流ハ果シテ純白ナル信心ヨリ出シ者ナルカ少シク事理ニ通セシ人ハ其否ラサ
 ルヲ多キニ居ルヲ了スヘシ實ニ彼輩ハ從來ノ行懸リ上引クニ引カレサルモアルヘシ黨畧
 上ニ信用回復ノ段階トスルモアルヘシ彼等ハ外人ノ愛顧ヲ博セント望ムナリ洋學研究ノ機
 關ニ供スルナリ好奇ノ人氣ヲ利用シ功名手柄ヲ得ントスルナリ會堂ニ昇降シテ佳人ノ奇遇

ヲ演セントスルナリ噫這樣ナル惡魔字不潔語ヲ以テ宗教信者ノ團體ヲ組織セリ僞信ニ非ズ
 シテ何ソヤ轉シテ佛教信者ヲ窺フニ此教ハ大體カ西洋表紙ナラサル爲メニ西洋表紙ニシテ
 初テ存在スル彼ノ異種奇様ノ原素ハナケレト元來此教ノ信者ハ概シテ其信仰ノ腐敗ニ屬ス
 ルヲ知ル特ニ甚シキ者ハ圓頂方袍輩カ之ヲ營利的ニ使用シ居ルヲ是ナリ是ト云ヘ彼ト云ヘ
 偕モ僞信者ノ夥シキヲカテ噫實ニ僞信者ノ世ノ中ナリ數萬ノ信者中泥中ノ蓮タルベキ人果
 シテ幾干ソヤ社會ノ生命道義ノ木鐸タル宗教信者其人ニシテ斯ノ如キ状態アリ議論流通道
 義ノ盛況ナルニモ拘ラス實際上道義ノ擧ラサル所以宜ナリト謂ヘシ國權ノ不伸資本ノ欠乏
 是又愛中ノ憂事ナリト雖ト是等ハ其内ニ算入セラルヘキ者タルヤ疑ヒナシ否此事其最大原
 因ニ其憂ノ大部分ヲ領スル者ナルヤモ未タ知ルヘカラズ世ノ燕趙悲歌ノ士切齒扼腕ノ人
 庶幾ハ活手活術ヲ少シシ此舞臺ニ於テセヨ蓋シ是レ獨リ當役者ニ一任スヘキ者ニ非ス
 嗚呼此時期ヤ封建的忠君旨義ノ時代ヨリ文明的資本旨義ノ時代ニ移リ變ル正順路トシテ必
 ス經過セサルヘカラサルヲ彼ノ暗黒時代ノ如クナルベキカ余ハ思テ茲ニ到ル毎ニ未タ嘗テ
 維新テフ洪水ハ其美性良風ニ迄迄ホセシヤト疑ハザルヲ得ス今茲ニ前章ノ約ヲ踐ニ通佛法

ノ則ニ依リ佛敎信者ハ果シテ如何ナル者ナルカヲ述ヘント欲ス
凡ソ佛敎信者ニシテ佛敎信者タルノ價直ヲ保持セントスレハ先ツ其本來ノ目的ト及ヒ此目
的ハ如何ニセハ達セラル、カニ注意スルヲ要ス眞正ノ佛敎信者ハ其目的ニ向テ誓願ヲ立テ
銳意之ヲ果滿スルヲニ從事セリ總シテ何事ニモ目的ト方案トハアル者ナリ基督信者ハ神ノ
前ニハ萬人同等ナリト説キ人ノ外ニ神ヲ求メ此人間世界ニ神ノ榮光ヲ顯彰セント思ヘ專心
ニイエスノ媒介ニ因リテ神人ノ交際ヲ全フセントスルヲ其必生ノ目的トナセリ又佛敎信者
ノ佛法遙ニ非ス心中ニシテ即チ近シ眞如外ニ非ス身ヲ捨テ、何クンカ求メント説キ人ノ外
ニ神ヲ求メス此人間世界ニ人ノ榮光ヲ顯彰セント思ヒ一向ニ其迷倒ヲ轉シテ覺智ヲ開
カントスルヲ其必生ノ目的ナリ甲信者ハ此目的ヲ達スル爲ニ神意是レ道德ナリト信シ言行
俱ニ神意ニ反ラランヲ勤メタリ乙信者ハ此目的ヲ達スル爲ニ順理是レ道義ナリト信シ
身口意借ニ理ニ相應セント勵ム是レ兩敎ノ目的及ヒ手段ナリ兩者設令ヒ教理ノ淺深基礎ノ
精粗アリト雖モ借ニ俱ニ人間及ヒ世界ヲシテ全美ナラシメントスルノ大精神ニ到リテハ同
一ナリト謂フヘシ故ニ佛敎家諸氏ハ此意味ニ因リテ當今ノ一問題タル敎風改革ニ協力和合作

スルモ可ナリ若シ又提唱者ニノ卑劣ノ心情ヨリ出テタルヲ發見セハ寸恕ナク彼等ヲ彈劾ス
ルモ可ナリ或ハ獨立以テ爲ス處アラントスルモ可ナルベシ

佛敎ノ一大目的ハ斯ノ如シ故ニ聖敎ニ曰ク『心佛及衆生是三無差別』ト佛敎ノ一大手段ハ斯
ノ如シ故ニ聖敎ニ曰ク『理ニ順シテ心ヲ起ス善ト云ヘ乖背スルヲ惡ト名ク』ト諸君之ヲ熟
思セヨ

抑モ三界唯心トハ佛家ノ大則ナリ此レ果シテ何等ノ義ソ心ハ善惡ノ根源ナリ心ハ苦樂昇沈
ノ起因ナリ心ハ迷悟染淨ノ井泉ナリ三世ノ因果十界ノ依報正報ハ畢竟スルニ唯此一念心ノ
轉處ナルノミ善ヤ惡ヤ苦ヤ樂ヤ迷ヤ悟ヤ自ラ善惡苦樂迷悟ヲ稱スル者ニ非ス唯此心之ヲ稱
スルナリ一心迷ヘハ地獄顯ハレ苦痛起リ一心悟レハ妙覺生シ極樂來ル一心離レテハ凡夫
モナク又聖者モナシ神モナク佛モナシ恰モ金製ノ猫兒其四肢五體等ノ諸部差異アリト雖モ
共ニ一箇ノ金體ヲ離レサルカ如シ是レ一心宗ノ名アル所以ナリ故ニ若シ人アリテ大志ヲ抱
キ妄念迷情ヲ排スレハ眞覺妙智此ニ現シ宇宙ト性徳ヲ等シクスルヲ得ヘシ於是カ佛祖ハ
一切衆生悉有佛性ト説クト同時ニ理ニ順シテ心ヲ起セヨト説カレタリ理ニ順スルトハ是レ

本性ニ相應スルヲナリ本性ノ通り少シモ細工ナキヲナリ即チ身口意ヲ本性ニ相應セシムル
 一ナリ今一二ノ實例ヲ世間ニ求メ吾人ニ本性ヲ有スルヤ否ヤヲ察スルニ何人モ一箇ノ自利
 心ノミニノ影裡モ本心若クハ利他心ト稱スル者ヲ有セスト云フハナカルヘシ米人ノルゼン
 トハ其教育論ニ陳述シテ曰ク『凡ソ人此世ニ生シテ自己一人無事ニ生活スルヲ得ルヲ以テ
 足レリトスル者アランヤ必ス世界ノ爲ニ幾分ノ裨益ヲナサント欲スルハ萬人同一ノ志ナル
 一シ』ト又世ニ所謂經濟的活動ナル者ハ其原因自利心及利他心ニアルヲハ少シク經濟書ヲ
 讀ミシ人ハ皆知ル所ナリ若シ人自利心維レ逐ヘ毫モ本心ノ制限ヲ受ケサリシナラハ蓋シ今
 日ノ社會ハ見ルヲ得サリシナラン人ノ孤立獨存ノ不利ナルヲ知リ協同結合ノ必要ト其利
 益ヲ感シ家族ヲ造リ町村ヲ造リ進テ國家ヲ造ルニ至リシ者ハ利己心ト本心ノ調和ノ結果ナ
 ラスンハアラス人ノ社會ヲ立分業方力ノ利益ヲ感シ自己ノ需要ヲ最モ多ク満足セシムル爲
 ニハ先ツ他人ノ需要ヲ最モ多ク満足セシメサルヘカラスト謂フノ原則一般ノ人心ヲ支配ス
 ルニ至リシハ利己心ト本心ノ調和ノ結果ナラスンハアラス人ニ本心モ備フルヲハ甚ク觀易
 キノ理ニ非スヤ既ニ人ハ怵惕惻隱辭讓是非羞惡ノ念ヲ發スル者ナリ即チ本心ヲ有セル者ナ

リ是故ニ佛祖ハ汝等其身口意ヲ本性ニ相應セシメヨ理ニ順ノ心ヲ起セヨト教誡シ給ヘシナ
 リ是レ佛教ノ隨機說法應病與藥ナル所以ニシテ徒ニ奇ヲ求メ論ヲ構ヘ道德ノ標準ニ彼レ此
 ト穿鑿セサルヲナリ是故ニ吾人佛教信者ハ此教誡ニ服從シ本來固必セル自利心及利他心ヲ
 以テ二利ノ修行ヲ圓滿シ佛道ヲ成スルノ藝ヲ立サルヘカラス佛陀豈ニ他アランヤ自利他
 圓滿ノ人はナリ自覺他覺覺行窮滿ノ者はナリ大智惠大慈悲完全ノ體是ナリ離苦得樂斷惑證
 理即チ自利ナリ自覺ナリ拔苦與樂下化衆生是レ利他ナリ覺他ナリ之ヲ開ケハ六度トナリ十
 度トナリ萬行トナル之ヲ合スレハ唯是ノ二利ノ修行ナリ佛タルト否トハ本性ヲ働カスト否
 トニ在リ取テ他ノナス仕業ニ非ス凡夫タルト否トハ本性ヲ働カシメサルト否トニ在リ別ニ
 外ヨリ附加スル者ニ非ス
 佛偈子頌ニ縣ケタル人形箱鬼ヲ出ソト佛出ソト
 人、佛教ノ眞理ヲ認メテ空々ナリ寂々ナリ豁虛ナリ無物ナリト唱ヘ隨テ此目的ト手段トナ
 誹謗スル者ナキニ非ス今佛教上斷惑證理ニ三重アルヲ示シ以テ佛教信者ノ信仰力ヲ益々
 鞏固ナラシムヘシ三重ノ證理トハ即チ左ノ如シ

一、如幻即空ノ理

二、眞如無相ノ理

三、本有常住ノ理

三重ノ理ハ幽邃玄妙ナリ區々タル妄相分別モテ思議スヘカラス然レモ固ト之ヲ證スルハ各々冷懦自知ノ境界ニ屬シ之ヲ談スルハ指月ノ指ニ過サレハ且ク古來ノ定義ニ依リ略シテ語ル處アルヘシ先ツ如幻即空ノ理トハ一切諸法ハ因縁生ナリ實體アルコトナシ有ニ似テ其實有ニ非ス此レ幻影ノ如シ此レ夢相ノ如シ諸法ハ覺了シ畢レハ即チ空寂ナリト悟ル是レ恰モ珠ヲ荒磨キニシテ漸ク光澤ヲ兆呈セシメシカ如シ即チ第一重ノ理ナリ古歌ニ云ク「思ひ解けは過ぎにし方も行末も一結びある夢の世の中」是レ能ク此理ヲ云ヘ顯シテ妙ナリ次ニ眞如常住ノ理トハ己ニ諸法ハ無自性ナリ如幻ナリト悟レハ厭フヘキ生死モナク又欣フヘキノ極樂モナシ迷悟ノ隔歴ナク凡聖ノ差別ナク一心法界無相空寂ナリ此チ眞如無相ノ悟リト名ク夫ノ荒磨キノ珠ヲ悉皆磨キ盡シ内外透明唯光輝ノ燦然タルヲ見ルカ如シ古歌ニ又云ク「十分不到りて見れば何にもあし佛と云ふて疵を付たり」然ルニ此眞如無相ノ處ヲ諦視スレハ諸佛衆生淨土穢土十界諸法森羅萬像宛然如然トシテ之レ有ルコト悟ル恰モ燦然タル光輝ナ

更ニ諦視スレハ其赫耀タル内ニ自然ノ文有ルコト知ル此レ第二重本有常住ノ理ナリ所謂澄靜ノ水ニハ影萬像ヲ落シ一心ノ佛ハ諸法ヲ監知スルナリ古歌ニ云ク「なか／＼に人里近くありにけり餘り深山の奥を尋ねて」ト詠シ得テ面白シ此等ノ三則ハ伊字ノ三目鼎ノ三足ノ如ク其一ニ偏スヘカラス如幻即空ニシテ即チ眞如無相ナリ眞如無相ニシテ即チ本有常住ナリ鏡ノ明ニ由テ面像ヲ現シ面像ニ由テ鏡ノ明ヲ知ルカ如ク即空ニ由テ光明ヲ顯ハシ光明ナルニ由テ文理ヲ現シ文理ヲ現スルニ由テ光明ナルヲ知ルカ如シ此則チ生滅門、眞如門、不二門ノ義ナリ又是レ阿字ノ有、空、不生ノ三義ナリ能ク觀念スヘキコトナリ余ハ以上ニ於テ手段ノ精到ナルコト及ヒ目的ノ至理アルコトヲ説ケリ之ヲ要スルニ佛教信者タル人ハ其本來ノ目的ヲ達セントテ經律論ヲ多ク讀ムニモ及ハス神通神力ヲ顯ハスニモ及ハス大光明ヲ放ツニモ及ハス無礙辨才ナルニモ及ハス高尙ヲラントスルニモ及ハス只佛ノ思惟セラレシ如ク思惟シ佛ノ行ハレシ如ク行ヘハ足レリ佛ハ三界唯心ナリト思惟セリ故ニ吾又三界唯心ト思惟スヘシ佛ハ二利ノ行チ圓滿セリ故ニ吾又二利ノ行チ圓滿スヘシ更ニ之ヲ言ヘハ佛モ智慧ノ二徳ヲ備ヘリ故ニ吾モ智慧ノ二徳ヲ備ヘリ佛ハ其徳ヲ發表セリ故ニ吾モ

此德ヲ發表スヘシト念々作々ニ怠ルナクンハ佛教信者ハ大ニ其目的ヲ達スルヲ得ン此人
 間世界ヲシテ黄金界ヲラシムヲ得ン聖教ニ曰ク若シ勤テ精進スレハ則チ事トシテ難キ者
 ナシ是故ニ汝等當ニ勤テ精進スヘシ譬ハ小水ノ常ニ流ルレハ則チ能ク石ヲ穿ツカ如シト佛
 教信者タル者九思セズンハアル可カラズ

第七章 信教ノ理由

今ヤ吾邦國ハ等族社會ノ國家ヨリ公民社會ノ國家ニ進ミ專制政治ノ時代ヨリ立憲政治ノ時
 代ニ歩ミ吾人臣民ハ政治ノ自由ヲ得ルト共ニ宗教ノ自由ヲ得ントセリ否今日享有スル宗教
 ノ自由ハ一層擔保セラル、ノ域ニ到達セントセリ此際信教論ヲ擔キ出シ讀者ノ注意ヲ請フ
 頗ル無用ノ次第ニ思ハレ讀者ハ讀者ノ享有スル完全ノ權利ニ因リ孰レノ教ヲ信奉スルモ其
 自由權内ニ屬シ敢テ他ノ口誘ヲ受クルノ譚ナク考ヘラル、ヲナラン然レドモ余ノ此論ヲ起
 スハ大ニ理由アリ請フ余ヲシテ其理由ヲ陳述セシメヨ
 凡テ何等ノ事モ輕燥ニ取扱フハ大ニ不可ナル者ナリ余ハ殊ニ宗教ニ於テ最モ然ルベキヲ見
 ル蓋シ宗教ナル者ハ國民ノ生活ニ最強ノ基礎ヲ與ヘ最高ノ目的ヲ有セシムル者ナリ之カ勢

力ハ偉大ナリ之カ取捨ハ其國其社會ニ大關係ヲ有セリ豈ニ輕シク信シ輕シク捨ツベケンヤ
 例ヘハ茲ニ一人ノ傳道師アリ頻ニ説教シテ曰ク吾宗教ハ文明國ノ宗教ナリ諸君ハ文明國ノ
 生産物ナリ立憲政ヲ希ヒ平等主義ノ法律ヲ望ミ汽車ノ利ヲ採リ電信ノ便ヲ用ヒ手藝的製造
 ノ迂ヲ知リ器械的製造ノ美ヲ羨メリ然ルニ奇怪ナルコトハ諸君カ此等文明物ノ貴重スベキ
 ナ知リ既ニ其境遇ニ接シ乍ラ此等文明物ノ生産者ヲ發生セシ本礎乃チ宗教ヲ信セサルハ何
 故ソヤ諸君宜シク舊來ノ宗教ハ之ヲ噴火地震洪水ト俱ニ忌棄シ吾文明ノ宗教ヲ信スヘシ佛
 法耶、滅法耶、無法耶、有法耶諸君左ニ非スヤト又曰ク吾宗教ハ至完至美ナルコトハ之ヲ宣
 布スル教師能ク之ヲ證明セリ吾教師ハ神學ノ外ニ法學醫學等ノ學位ヲ有セリ又本國ニ在ッ
 テ信用ヲ有セリ何ソ諸君ニシテ之ヲ信セサル又曰ク吾宗教ハ其新來ナルカ爲メニ未タ多數
 ノ信徒ヲ有セス然レ共既ニ吾信徒トナリシ人ハ上流人士ニ於テ最モ多シ信徒斯ノ如シ諸君
 之ヲ信スル何ノ恥辱カアラント嗚呼是レ何ナル言論ヅヤ余ハ今日及ヒ將來ニ於テ斯ノ如キ
 コトアリ又ハアルベシトハ思ハス好シアリ又ハアルベシトスルモ知識アル諸君ハ斯ル馬鹿
 々々シキ舌車ニ乗セラレテ迂歎々々ト信スル人ニ非サルコトハ余ノ萬々證知スル處ナリ然

レ共既往ノ形跡ニ徴シテ考一考スレハ天下愚民ノ多キ或ハ此ノ手段ニ乗セラル、者又ハ乗
 セラレツ、アル者ナシト限ルベカラス固ヨリ其宗教ノ行ル、國、其教ヲ弘ムル人及其教ヲ
 信スル者ノ如何ハ其宗教ノ價值如何ニ關係スルコトアリト雖モ然レトモ單ニ此等ノ理由ノ
 ミニ注意シ其他ノ如何ヲ顧ミサルコト、スレハ是レ宗教ヲ信スル者ニ非スシテ國ヲ信スル
 者ナリ教師ヲ信スルモノナリ信徒ヲ信スル信徒ナリト云ハサルヲ得ズ茲ニ於テカ本論ヲ提
 出シ一往諸君ノ注意ヲ請ハサルベカラサルノ必要ヲ感シタリ特ニ吾憲法ハ吾人ノ此ノ權利
 ニ關シ他ノ諸權利ニ趣キテ異ニシ法律ヨリハ行政處分ヲ以テ干涉セラル、コトノ多キヲ示
 スニ於テハ……最トモ行政處分ナリトテ無暗ニスル者ニ非ス既ニ憲法ハ安寧秩序ヲ妨ケ
 スト云フテ國家ニ必要ナル場合ヲ定メ又臣民タルノ義務ニ背カサル限リト云フテ國民タル
 ニ必要ナルノ場合ヲ定メ以テ干涉スヘキ場合ヲ確カメシニモセヨ……「機ヲ知ルハ其レ
 神カ」ノ格言ニ基キ信教注意ノ件々ヲ考ヘ一ハ以テ吾人ノ安心立命ヲ托スルニ足ルベキ者
 ナ定メ一ハ以テ政府ノ手數ヲ仰ガザルノ用意ヲナシ民利國福ヲ堅クスルハ甚ダ必要ノ事タ
 ルニ非サルナキヲ得ンヤ

信教ノ注意ハ種々ノ點ニアルベシ今最モ重モナリト認ムル者ヲ舉クレハ蓋シ左ノ三點ニ外
 ナラス

- 甲、國體ト宗教
- 乙、國風ト宗教
- 丙、學理ト宗教

凡ソ宗教ハ自存スル者ニアラス人アリ社會アリ國家アリ而シテ宗教ハ存在スルモノナリ故
 ニ何レノ國、何レノ人ヲ問ハス宗教ヲ信奉スルニ付テハ先ツ其國體及ヒ國風ノ兩點ニ於テ
 破懷的ノ傾向アルヤ否ヤヲ商量セサルベカラス又其宗教ノ本質性質野卑淺劣ニシテ學理ト
 甚シキ抵觸アルニ於テハ知識アル人ノ取ルベキモノニ非サルハ必然ノ事トス故チ以テ此ノ
 三點ヲ設クルナリ余ハ此三點ニ依リテ耶穌教ト佛教トヲ比較シ詳シク檢閲セント思ヘンカ
 ドモ且ラ之ヲ止メ只タ佛教ニ關シテ之ヲ檢閲シ佛教ハ果シテ吾人日本人ノ信奉スベキ宗
 教ナルヤ否ヤヲ決スベシ

吾國體ノ金瓶無瑕ナルコトハ何人モ之ヲ疑ハザル所ナリ故ニ吾カ憲法ハ其第一條ニ於テ獨

ノ「ホーヘンズルレン」英ノ「ブランズウィック」澳ノ「ハツプスバルグ」等ノ文字ニ代ルニ萬世一系ノ文字ヲ以テ敢テ世界ニ憚カル所ナシ夫レ吾國體ノ基礎ハ道德ニ取ルコト彼ノ支那ノ如クナラス協議ニ取ルコト彼ノ羅馬ノ如クナラス實ニ之ヲ連綿タル血統ニ取レルナリ吾國ハ衆庶一姓ノ國ナリ君民一體ノ國ナリ天皇ト臣民ハ恰モ一家ト親族トノ關係ノ如シ是レ實ニ萬國無比ナル所以ナリ吾人ハ這般ノ特別ナル關係ヲシテ天壤ト共ニ長久ナラシメサルベカラス蓋シ此關係ヲ維持スル者多カルベシト雖モ殊ニ宗教ノ効力ハ與リテ大ナリト謂フヘシ故ニ此點ニ關シテハ信教上最モ謹慎ニ謹慎ヲ加ヘ撰擇スル處ナカルベカラス實ニ是レ吾人ハ義務ナシ今佛敎ヲ見レハ古來皇室ニ緣故アリシコト古來皇室ヨリ特待ヲ受ケシコト甚タ多シ故ニ佛敎ハ朝夕ノ祈禱ニ於テ必ス先ツ金輪聖皇寶祚遠長ノ詞ヲ以テ初メサルハナシ而シテ佛敎ハ四忍ノ說アリテ其信徒タル者ハ國王ノ恩ハ必ス報セサルベカラスト敎ヘリ佛敎ハ能ク吾無比ノ國體ヲ維持スルニ餘リアル者ニ非スヤ是レ既ニ諸君ノ知ラル、コトナテムト信ス

凡ソ一國ニハ一國ノ氣風アリ此固有ノ國風ノ消長如何ハ大ニ其國ノ盛衰如何ニ關係セリ吾

人ハ上古史上、近世史上希臘ニ羅馬ニ波蘭ノ分有ニ埃及ノ殘狀ニ其他種々ノ事例ニ依テ彌日此事ヲ信スヘキヲ認メタリ然ラハ吾美風良習ハ務メテ之ヲ保存セサル可カラス輒近如何ナル風ノ吹キタルニヤ來タル外人ハ數多ナレトモ皆此旨ヲ注告セリ後ノナツプモオルコツトモ又昨年來朝シタル英人サー、エドイン、アルノルドモ皆ナ同一口調ニ唱ヘタリ是レ彼等ソレ自身ノ爲メニスル處アリテ謂ヘシニハ非ス實ニ動カスベカラサル眞理ノ存スレハナリ然リ而シテ吾佛敎ノ日本のニシテ國風保存ニ便アルノミナラス亦之ヲ益ス伸張セシムルノ力アリ蓋シ吾佛敎ノ日本のナルコトハ少シク歴史ニ通セシ人ハ一人モ首肯スルコトナルベシ吾佛敎ヤ吾國ニ在住スルヲ殆ント二千三百有餘年此間能ク多數人民ノ思想ヲ支配シ其旨趣ヲ薰染シ或ハ言語トナリテ顯ハレ或ハ習慣トナリテ顯ハレ或ハ文學トナリテ顯ハレタリ是レ佛門中ヨリ秀才高德ヲ湧出シ能ク時俗ト推移シ或ハ其敎ノ弊害ヲ矯正スルアリ或ハ新ニ日本の宗教ヲ開クアリ又這期ノ秀才高德ハ當時開明ノ先導者ニシテ支那ノ文明制度ヲ輸入シ學問ニ經世ニ道德ニ盡力セシコトアリシニ依ラスンハアラス蓋シ吾人歴史上ノ事實ニシテ信ヲ置クニ足ラシメハ吾人ハ斯ノ如ク皇室ニ緣故アリ斯ノ如ク國家ノ一大要素タリシ

吾日本生ノ佛教ヲシテ其弊ヲ匡濟シ其勢ヲ伸張セシメ一ハ以テ吾人ヲ安心立脚ノ地ニ托シ
 一ハ吾人ノ負擔セル國民ノ義務ヲ果スハ必要ニハアラサルカ
 若シ夫レ佛教カ學理ト牴觸シ淺薄卑劣ニシテ泰西人ノ嗤笑ヲ招クコト彼ノ舊幕時代ノチヨ
 ノ齟齬タル如クナランカ設令以上ノ兩點ニ於テ充分ノ効果アルニモセヨ日本國ノ榮譽上斷然
 之ヲ謝絶セサルベカラサルコトナラン然ルニ實際佛教ノ高遠精妙ナルヤ却テ日本ノ榮譽ヲ
 高ムルノ趣アリ泰西人ハ身基督教國ニ生レ心基督教々育テ受ケシ者ナルニモ拘ハラズ或ハ
 佛教ノポールヲ以テ自任セントスル人アリ或ハ佛教ハ東洋ノプロテスタントナリト讚スル
 アリ或ハ佛教ハ修身學ノ上乘ナル者ナリト謂フアリ或ハ佛教ハ吾等ノ理學ニ一致セリト叫
 ブアリ余ハ泰西人ノ言トシ云ヘハ出處モ糺サズ一モ二モナク有難カル者ニ非ス然レ共此等
 種々雜多ノ言ヲ以テ見レハ兎ニ角佛教カ彼等ノ好評ヲ博シ居ルコトハ充分ニ知り得ラルベ
 シト信セリ
 今佛教ノ合理的宗教ナルコトノ一端ヲ示サハ彼ニハ純全靈性ト謂フアリ我ニハ佛果圓滿ト
 謂フアリ彼ニハ思想普遍ノ作用ト呼ビ我ニハ佛果圓滿ト謂フアリ彼ニハ思想普遍ノ作用ト

謂フ我ニハ心佛及衆生是ニ無差別ト名ク彼ニハ進化溶化ト名ク我ニハ五蘊四劫トイフ彼ニ
 ハ物質不滅トイフ我ニハ六大無礙トイフ彼ニハ勢力保存ト名ク我ニハ業力相續トイフ此等
 ノ理彼ハ物ヲ本トシ我ハ心ヲ本トシ彼ハ精密ニ我ハ龐大ニ彼ハ論理ニ依リ我ハ因明ニ依ル
 等種多ノ差アリト雖モ之ヲ以テ佛教ノ學理ニ牴觸セザルヲハ明カニ知ラル、コトナリ若シ
 佛教家ニシテ裝飾的原料或ハ其他ノ原料品ヲ泰西ニ取り推理的ノ整齊的ニ組立テンカ
 佛教ハ全世界ニ於ケル宗教ノ最モ美ナル最モ全キ宗教トナルヤ必セリ
 世ニハ一種ノ宗教アリ是レ泰西ニ在ツテハ眞ニ要用ナル働ナセ共吾國ニ持來レハ効能ナ
 キノミナラス往々其破壞的要素ハ吾無比ノ國體吾美風良習ヲ摧破スルノ傾向アリ其現在ノ
 運動ヲ諦視スレハ或ハ權門ニ縋リ外人ニ縋リ又外國資本ニ縋リ外國思想ニ縋リ日本の運
 動ヲナス能ハサルアリ平等的ノ運動ヲ爲ス能ハサルアリ嗚呼吾最愛ナル諸君ハ其忠君愛國
 ノ心ニ於テ其教育アル心ニ於テ這般ノ宗教ハ必ス享ケラレサルコトナラン而シテ吾佛教ハ
 信奉スルニ足ルベキコト既ニ以上述ル處ノ如シ愛國心ニ富メル諸君ハ必ス喜ンテ之ヲ享
 ケラル、コトナラン

今ヤ物質的文明ノ反動ト宗教思想自然ノ發達トハ開明人ヲシテ吾合理的宗教ニ注意セシメ
 ントスルノ徵候ヲ呈セリ世界ノ氣運斯ノ如シ轉シテ其根本地球吾國ヲ窺ヘハ其多年ノ長
 睡ハ稍ヤ醒メ來リテ漸ク生氣アル運動ヲナシツ、アルノ好景アリ今ヨリ一層激奮シテ金口
 ニ所謂「我不愛身命但惜無上道」ノ精神ヲ以テナスアラシカ盡シ世界ヲシテ——少クトモ
 亞細亞洲中ハ其敎國タルヲ網羅スル難キニアラサルヘシ

第八章 佛教ノ傳道

元來佛教ニ於テ良史ナキコトハ豫メ前章ニ一言シタル所ナリ佛教ニハ古來名僧碩德乏シキ
 ニハアラス然レ共此等諸師ニハ歷史的研究ノ仕方ハ殆ント考ヘラレスシテ終リタリ願フ
 ニ佛教ノ大主眼ハ理論ニアラスシテ實行ニアリ且ツ當時ハ事實ヲ重ニスルヨリハ寧ロ空理
 ヲ貴ヒシカ如キ形蹟アルヲ免カレス歷史的研究法ノ諸師ニ受取レス隨テ良史ナキハ實ニ止
 ムヲ得サルナリ去レハ余、前ニハ佛教史ハ述ベスシテ終ルベシト思ヘシカ今亦愚考スルニ
 佛教論アリテ佛教史ナキハ胸アリテ手足ナキカ如キ心地ス且ツ完全ナル佛教史ノ材料トシ
 テハ拂底ヲ感スルモ傳道ノ一斑ヲ窺フニハ材料欠乏ナルニモ非サレハ且ツ古典今籍ノ指

示スル所ニ憑リ茲ニ筆否辨ヲ起シ佛教ノ傳道由來ヲ述フヘシ
 抑モ佛教ハ印度ニ起原シ東漸シテ支那日本ニ入り今ヤ西漸シテ歐米各國ニ傳ハリ其羽翼ヲ
 伸シツ、アルコトハ諸君ノ將ニ知ラル、所ナリ夫レ佛教ハ殆ント三千年ノ大歷史ヲ有ス其
 間盛衰興亡千變萬化一準ナラス若シ好材料ヲ得テ詳シク其變遷ヲ寫サハ必スヤ一大冊ヲナ
 スコトナルベシ今暫ク之ヲ敎源ト傳教ノ二大部門ニ區別シテ沿革ノ一端ヲ述ブヘシ

敎源史ノ一斑

敎主ノ生卒ハ議論紛紜實ニ三十餘ノ說アリテ是非容易ニ斷スヘカラスト雖モ支那日本ニ於
 テ古ヨリ傳ヘテ正說ナリトスル者ニ依レハ敎主釋尊ハ吾神武紀元前三百七十八年ニ降誕シ
 同シク二百九十九年ニ入滅セリ即チ今ヲ距ルコト二千九百二十八年前ニ降誕シ二千八百四
 十九年前ニ涅槃ニ入ル而シテ其世ニ在住スルコト七十有九年間法ヲ說クコト四十有九年機
 ニ隨ヒ病ニ應シテ大小偏圓權實半滿等種々ノ敎藥ヲ施コセリ
 一代四十有九年ノ說教ハ如何ナル順序ニテアリシヤ天台一家ハ是ニ就テ五時ノ分別ヲナセ
 リ今此分別ニ基キテ釋迦ハ如何ナル時ニ如何ナル場所ニ如何ナル人ニ對シテ如何ナル順序

ニ説法セシカチ大畧語ル處アルベシ

第一時 釋迦年齢三十ノ時周ノ穆王四年癸未十二月八日ニ當レル曉天明星ノ出ルヲ見テ大覺成道セリ以後一週日ハ寂靜審慮以テ自ラ法樂ヲ受ケ第二七日ニ至リテ出山大化ヲ始メラレヌ即チ第二七日ヨリ第三七日マテハ高等大機ノ者ニ對シテ華嚴一乘ノ妙教ヲ説カレ其場所ハ七處ニ涉リ會數ハ九會ニ及ブ天台ハ之ヲ名ケテ華嚴ノ時ト稱セリ

第二時 三七日ノ後十二年ノ間ハ十六大國ニ於テ下等劣機ノ人ノ爲ニ諸般ノ小乘教ヲ説ク天台ハ之ヲ鹿苑ノ時トイフ蓋シ小乘教ハ部數二百餘部アリ且ツ十六箇ノ國ニ涉リテ説クシ者ナレ共波羅奈國鹿野苑ニ於テ説法ノ首會ヲ開キ故ニ最初説法ノ場所ヲ取リテ直ニ時ノ名ヲ立テタルナリ

第三時 次ノ十六年ハ大小乘ノ兩教ヲ並べ説ヒテ大乘ノ勝レタル所以ヲ歎美シ小乘ノ劣レルヲ排斥シ小乘ノ人ヲシテ耻小慕大ノ念ヲ起サシメタルヲ第三時ノ説法トナス乃チ維摩、思益、楞伽、楞伽三昧、金光明及ヒ勝鬘等ノ經ヲ説レタリ天台ハ之ヲ方等ノ時ト名ク方トハ廣ノ義ナリ廣ク大小乘ヲ説ヒテ諸人ニ被ラシムトイフヨリ遂ニ此名アリ

第四時 次ノ十四年ハ小乘ノ人ヲシテ大乘ノ法門ヲ悟ラシムルカ爲ニ摩訶般若、光讚般若、金剛般若、小品般若等ノ諸般若經ヲ説カレタリ之ヲ第四時トナス天台ハ經題ニ由テ時ノ名ヲ立テ、般若ノ時トイフ

第五時 ハ法華涅槃二經ノ説法ヲ含ムナリ先ツ法華ヨリ述フレバ法華經ハ次ノ八年間ノ説ニシテ敗種ノ二乗ヲ會シテ法ノ本有ニ適ヘ佛果ニ入ラシメタリ即チ開權顯實トテ二乘ノ人ハ見思ノ惑ヲ斷シ灰身滅智シテ決定シテ自覺覺他覺行圓滿ノ德ヲ顯ハスコトハ到底成リ難シト徧信スル情執ヲ打破リテ是迄修證セシ所ノ小乘ノ行ヲ其儘ニシテ佛果ニ到ルノ途ヲ知ラシメタリ次ニ涅槃トハ法華ノ後チ佛尊將サニ化導ヲ收メ滅度ヲ取ラントシタル時即チ二月十五日一日一夜ノ説經アリ涅槃經是ナリ此等ヲ天台ニ於テ法華涅槃ノ時ト名ケタリ蓋シ涅槃經ノ一切衆生悉有佛性ノ大旨法華經ニ無一不成佛ト説クニ同スレハ二種ヲ合シテ一ノ時トナセシナリ

以上畧シテ一代ノ説法教化ノ次第ヲ述ベタリ蓋シ佛教多シト雖モ時ノ問題ヨリ分別スレハ此等五時ノ説教ニ外ナラサルナリ然レトモ佛教ノ狀態ヲ年月ノ上ヨリ調フルハ固ト頗ル難

事ニ屬ス依テ古來種々ノ異論アルコトナルガ余ノ以上ノ説述ハ其中唯々一個ノ説ヲ揚ケシニ過ギズ即チ天台ノ一義ニ依テ此説ヲ擧シナリ

傳道史ノ一斑

傳道史ハ文字ノ指示スルカ如ク根本佛教ノ流傳史ナリ佛教ノ流傳ヲ説明スルニ古來三國傳來トテ初ニ印度ヲ説キ次ニ支那ニ及ヒ終リニ日本ノ佛教傳來ヲ説キタリ是レ普通ノ順序ナリ蓋シ佛教傳道ノ状態即チ次第相乘ノ有様ハ此三國ホト明瞭ナル者アラシ故ニ余モ亦タ其轍ヲ履ミ先ツ印度ノ傳道ヨリ説キ初メ順次支那、日本ノ傳道ニ説キ及ボスベシ

第一、印度ノ傳道

印度ノ傳道ヲ述フルニ當リテ第一ニ説明シ置カサルベカラサルコトハ結集ト謂フコトト法統ト謂フコトトナリ先ツ結集トハ釋迦ノ遺法ヲ彙類、編制シテ之ヲ經律論ノ三藏ニ結ヒ集メタルコトナリ夫レ佛、在世ノ時ハ曾テ典籍ヲ用ヘラレス唯々所化ノ機ニ鑑ミ所被ノ根ニ應シテ橫演堅説シ弟子等ハ其能力其識量ニ順シテ聞クニ隨テ行テ修メ益ヲ領シタリ然ルニ法ヲシテ永ク世ニ住セシメ久シク末代ノ群生ヲ利益セントスレハ之ヲ典籍ニ保存セサ

ルヲ得ス茲ヲ以テ佛、涅槃ニ入リシ後ニ至リ佛ニ親近シ所在祖法ヲ識受シ且ツ天資多聞強記ナル彼ノ阿難陀ハ諸大羅漢ト會シ共ニ俱ニ遺法編纂ノ業ニ着手シ斯カル夥シキ教誡ヲ結集シ以テ末世ノ佛弟子ヲシテ佛説ノ一斑ヲ知ラシメリ而シテ其結ヒ集メタル小乘ノ三藏ハ王舍城ノ七葉巖ニ於テシ大迦葉等之ヲ主トリ大乘ノ三藏ハ鐵圍山ノ中間ニ於テシ阿逸多等之ヲ主ドレリトイフ

三藏 經律論之ヲ三藏トス經藏ハ定學ヲ詮シ律藏ハ戒學ヲ詮シ論藏ハ惠學ヲ詮ス定ハ以テ心ノ散亂ヲ治メ戒ハ以テ身ノ惡行ヲ制シ惠ハ以テ迷ヲ去リ悟ヲ開カシム經律論ハ是レ能詮ノ教、定戒惠ハ即チ所詮ノ義ナリ佛法博ク佛理深シト雖モ要スルニ此三藏三學ニ外ナラサルナリ

蓋シ印度ハ佛教根本ノ地釋迦説法ノ座處ナリ故ニ釋迦ヨリ相承セル一定ノ教系アリ之ヲ法統トイフ法統ヲ繼クモノ之ヲ法祖ト名ク法祖タリシ者總シテ二十四人アリ二十四人ハ釋迦涅槃ニ入ラレシ以來凡ソ一千二百餘年ノ間師々弟々相ヒ承ケテ大法ヲ護持傳來ス其順序ハ左ノ如シ

- 初祖 摩訶迦葉波 (佛弟子) 佛滅後 一年承統
- 第二祖 阿難 (全) 同 二〇年承統
- 第三祖 末田地 (前者ノ弟子) 同 四〇年承統
- 第四祖 商那和須 (全) 同 六〇年承統
- 第五祖 優波鞠多 (前者ノ弟子) 同 八〇年承統
- 第六祖 提迦多 (前者ノ弟子) 同
- 第七祖 彌遮迦 (前者ノ弟子) 同
- 第八祖 佛陀難提 同 三〇二年承統
- 第九祖 佛陀密多 (前者ノ弟子) 同 三八四年承統
- 第十祖 波濕縛 (脇尊者ノ子) 同
- 第十一祖 富那夜奢 同 五三一年承統
- 第十二祖 阿濕縛婁沙 (即チ馬鳴大士ナリ脇尊者ノ弟子) 同 六六八年承統
- 第十三祖 迦毘摩羅 同

- 第十四祖 那伽曷樹那 (前者ノ弟子是レ龍猛菩薩ナリ) 同 九三〇年承統
- 第十五祖 提婆 (前者ノ弟子) 同 一〇二〇年承統
- 第十六祖 羅睺羅多 同
- 第十七祖 難提 同
- 第十八祖 邪舍 (前者ノ弟子) 同
- 第十九祖 鳩摩羅邏多 (前者ノ弟子) 同
- 第二十祖 闍夜多 (前者ノ弟子) 同
- 第二十一祖 婆修槃駄 同 一一三二年承統
- 第二十二祖 摩拏羅 同
- 第二十三祖 鶴勒那 同
- 第二十四祖 師子 同 一一五六年承統

既ニ結集及ヒ付法相承ノ二件ヲ説明シ畢リタレハ次ニ本文ヨ入ラサルベカラス余ハ便宜ノ爲メ本文ヲ三期ニ分チ第一期ニハ小乗ノ盛衰ヲ示シ第二期ニハ大乘ノ復興ヲ示シ而シテ第

三期ニ於テハ末路ノ景況ヲ示サントス此等三期ニテ印度佛教ノ景況ハ一往知ルコトヲ得ベシト信ス

第一期 入涅槃ヨリ大乘ノ復興マデ

自初祖迦葉ノ傳持 凡五百餘年 至十一祖富那夜奢

佛ハ周ノ穆王五十一年壬申二月十五日ノ極申ニ當リテ涅槃ニ入ル於茲カ在世嘗テ親シク之旨ヲ承ケタル尊者大迦葉ハ釋尊ノ嫡流トシテ法藏ヲ繼承ス迦葉ノ傳持二十年間ハ尊者及ヒ阿難等ヲ始メ數百ノ大羅漢アリテ互ニ遺法ヲ宣揚シ佛教ノ昌ナルコト始ント佛世ニ異ナラス二祖阿難ノ傳統二十年ハ仍ホ遺弟ノ存在スルアリ且ツ阿闍世王外護ノ深厚ナルアリテ佛日ノ光輝ノ印度ニ照赫スルヲ得タリ然ルニ爾來大阿羅漢ノ示寂スル者漸ク多ク加之ナラス無道ナル婆羅門教徒ノ跋扈抵抗アルアリテ大法ノ弘通ニ於テ聊カ影響ヲ及ボシ佛教ノ衰兆漸ク茲ニ露ル、ニ至リシカ一百年ノ末運ニ迫ンテ耆多ノ名師内ニ起リ阿育ノ英王國ニ出テ、内外照應シ同心協力以テ彼ノ婆羅門教ノ猛威ヲ挫キ再ヒ法幢ヲ樹立シタリ尊者耆多ノ傳持内ニ於テ其高弟ノ五子各々自己ノ意見ヲ立テ種々ノ見解ヲ錯出セシカハ一

大律藏ハ遂ニ五部ニ分派シ一水衆流ノ觀ヲ呈セリ然レ共是レ三藏中一ノ律藏ノ分派ニシテ釋迦滅後ヨリ當時ニ至リ一百年ノ間ハ小乗教ハ未タ諍鬪ノ兆ナク所謂乳水一味ニテアリシナリ然ルニ二百年ノ初メニ至リテ摩訶提婆カ五事ノ妄說盛ニ行ハレタルニ依リ一味タリシ小乗數モ亦分派ヲ生シテ上座大乘ノ兩部トナル是ヨリ異論怪說競ヒ起リ三百年ノ初メニハ大乘部ハ分レテ九部トナリ三百年ヨリ四百年ノ滿ニ至リテハ上座部ハ分レテ十一部トナリ一箇ノ小乗教ハ是ニ於テ遂ニ二十種ノ異部ヲ生スルニ至レリ

斯ノ如ク第六祖乃至第八祖ノ傳持凡ソ三百年ノ間ニ二十部ノ部宗ヲ生シ諸部各々美ヲ競ヒ秀ヲ諍フヲ以テ一旦勢力ヲ失ヒ勢力ヲ挫カレシ婆羅門教ハ此罅隙ニ乘シテ復タ侵襲ヲ逞フスルノ余地ヲ得タリ 脇尊者立テ法統ヲ繼シ頃ハ外教ノ徒盛ニ蜂起スト雖モ尊者ノ熱心ナル護法心ト諸大名師ノ盡力トニ依ツテ仍ホ佛光ノ赫々タルヲ見ルヲ得タリ然ルニ第五百年ニ至リテハ小乗ノ法門漸ク衰頽ノ色ヲ呈シ婆羅門教徒其虛ニ乘シテ跋扈シ勢ヒ猖獗近ツクベカラス北印度ノ迦濕彌羅ヲ除クノ外ハ殆ント佛蹟ヲ絶ツニ至レリ 之ヲ要スルニ佛滅後四百年ノ間ハ小乗隆盛ノ時代ナリシナリ 提婆說摩ニ依テ識身足論ヲ造

漢ハ婆娑論ヲ作ル此等ノ諸大論章ハ皆ナ小乘教ヲ判釋セルモノニシテ共ニ此時代ニ成リシ者ナリ加フルニ佛在世ニ於テ成リシ集異門足論、法蘊足論、施設足論アリ此等ノ諸論學者ニ依テ翫習セラレ各々異論異見ヲ立ツルノ極途ニ二十部ノ分派ヲ爲スニ至ル小乘諸派ノ斯ノ如ク盛ナルヤ終ニ大乘教ヲ隱沒セシメ甚シキニ至リテハ大乘ヲ以テ外道ノ看ヲ爲スニ及ベリ斯ノ勢ヒ盛ナリシ小乘教モ五百年ノ時ニ至リ漸々衰頽ニ就キ婆羅門教ハ茲ニ勢威ヲ回復シ獨リ印度ニ横行セリ然ルニ此ノ厄難ハ却テ兩降リテ地固マルノ理ニテ遺弟ノ精神ヲ擎揮スルノ逆縁トナリ馬鳴龍樹ノ二大論士ヲ惹起シ大乘ヲ復興セシメ佛教ヲ中興スルノ由緒トハナレリ

第二期 大乘ノ復興ヨリ大乘ノ分裂マデ

自第十二祖ノ傳持 凡五百餘年 至第十六祖ノ傳持

滅後六百年代ニ於テ佛教ハ一大有力者ヲ生メリ乃チ第十二祖馬鳴大士其人ナリ大士ノ聖智特ニ佛教積衰ノ時ニ當リ達言濶歩大ニ外道諸派ノ邪見ヲ攘ヒ又小乘ノ陋見ヲ除キ大乘ノ妙

法ヲシテ再ヒ五印ニ宣揚シ衆生ヲシテ正路ニ向ハシメタリ遺教論、大莊嚴論、大乘起信論等ノ諸大論ノ製作ハ是ノ時ニ成レリ而シテ起信論ノ如キハ一大佛教ヲ通申シテ眞如法性ノ本義ヲ明カニシ簡明要ヲ得テ古今ニ冠絶ス時ノ人之ニ依テ五百年來未ダ曾テ有ラザリシ大利益ヲ享ケ大士ヲ敬崇シテ第一ノ佛ナリト謂フニ至レリ

大士ノ徒弟迦毗摩羅ハ六百六十二年ニ後任トナリ無我論一百偈ヲ造リテ外道ノ餘類ヲ撲攘シ南印度ニ於テ大ニ正法ヲ振起セリ尋テ龍猛菩薩アリ馬鳴創始ノ洪業ヲ大成ス大無畏論、中論、十二門論、智度論等ノ大著述ヲ起シ邪見妄說ヲ破シ正理妙道ヲ顯ハス又南天ノ鐵塔ヲ開キ一切如來祕奧ノ教理自覺聖智修證ノ法門ヲ傳ヘテ之ヲ弘ム是ニ於テカ魔群ノ外道輩ハ皆其ノ銳鋒ニ挫カレテ滿天滿地ノ佛法ハ悉ク傳ヘラレタリ當時大士ヲ千部ノ論師又タ八宗ノ太祖ト號セシ所以此ニ在リマ噫大士ハ是レ佛教中興ノ祖ト謂フベシ大士ノ門下ニ二人ノ英髦アリ一チ龍智トイヒ一チ提婆ト號ス二人ノ内一切如來祕奧ノ教ハ龍智ニ依テ紹カレ大乘皆空ノ教ハ提婆ニ依テ傳ヘラレタリ而シテ提婆ハ亦大士ノ後統ヲ襲キ第十五ノ法祖タリ第十五祖ハ百論二十品ヲ著ハシテ專ラ外道ノ邪說ヲ破リ傍ラ小乘ノ執着ヲ摧キ廣ク大乘

ノ深義ヲ陳ブ然ルニ此頃ニ至リテ外道ノ勢力亦タ舊ニ復シ第十五祖ノ如キハ遂ニ其殺ス所トナル九百三十年ニ羅睺羅多第十五祖ノ後任トナリ大ニ布教ニ熱心セシカ一方ニハ龍猛提婆ノ高弟滅度ヲ取ル者漸ク多ク一方ニハ外道ノ跋扈次第ニ強ク法運茲ニ窮シ五天亦黒闇ノ世トナレリ此時ニ當リ兄弟二人ノ聖者興リ第十六祖ト相ヒ扶ケテ外道ノ猛鷲ニ衝リシカハ佛教ハ危急存亡ノ内ニ救ハレ佛光復タ印度ヲ照シ再ヒ光明世界トナレリ其二人ノ兄弟トハ即チ一チ阿僧伽(無着)トイヒ一チ伐蘇畔度(世親)ト云フ無着ハ兄ニシテ世親ハ弟ナリ無着ハ慈氏(彌勒)ノ教授ヲ稟ケテ五部ノ大論ヲ弘メ又自ラ論述シテ阿毘達磨經ノ一品ヲ釋義ス瑜伽師地、分別瑜伽、大莊嚴、辨中邊及ヒ金剛般若論是ヲ五部ノ大論トナス其内瑜伽論ノ如キハ一切法門ノ奧義悉ク談シ一代ノ教文皆ナ判釋セザルナシ

世親ハ又タ世ニ稱シテ千部論師トスル者ニシテ其兄ニ尋テ瑜伽深密ノ了義ヲ闡揚セリ世親始メハ小乘ヲ弘メテ廣ク五百部ノ論ヲ製シ後ニ大乘ヲ學ビ亦五百部ノ論ヲ造ル中ニ於テ俱舍、唯識、十地ノ諸論尤モ著明ナリ殊ニ唯識ノ如キハ僅ニ三十頌ノ短文ニ過キサレトモ其意義ニ至リテハ深廣且ツ高遠ニシテ能ク大乘ノ真髓ヲ洞盡シテ遺ストコロナク護法、安惠、難陀、親勝等ノ十大論師ニ依テ各々十卷ツ、チ分擔シ百卷ノ解釋論ヲ附セラレタリ其解釋論タルヤ又ク金聲玉振萬丈ノ光焰ヲ吐クノ活動アリ

以上ノ所述ヲ約スレハ最初ノ三百年ハ大菩薩大論師陸續出興シ以テ大乘教ヲ復シ其隆盛ヲ致セシコト殆ント佛世ニ讓ラス然ルニ第四百年ノ前半ヨリ漸ク衰色ヲ呈シ外道蜂起スルニ迫ンテ忽チ微々タル者トナリシカ無着世親ノ妙智力ハ再ヒ佛教ノ勢運ヲ挽回シ舊ニ倍シテ隆熾セシメタリ噫第二期ハ是レ佛教ノ春ナリ是レ佛教ノ旭日時代ナリ真理ノ花ハ此時ニ開キ佛日ノ光ハ此時世界ヲ照ス佛教今日ノ旺盛アルハ實ニ此時ニ淵源ス若シ佛教ニ馬鳴、龍猛、無着、世親ヲ微セハ釋迦ノ大法佛教ノ眞價ハ永ク世界ニ埋没シテ傳ハラサリシナランカ其功想フベシ

第三期 大乘ノ分裂ヨリ法統斷絶マデ

自第十七祖 至第廿四祖 凡百四十餘年

世親、羅睺羅ノ頃ハ前者ハ慈氏無着ニ稟ケテ瑜伽深密ノ義ヲ説キ後者ハ龍猛提婆ニ繼ヒテ般若ノ妙相ヲ唱ヘタリト雖モ此兩者ハ毫モ諍議スル所ナク相提携扶持シテ能ク佛教ノ興隆

チ計リシカ尊者難提立テ羅羅維多後チ襲クニ迨ヒ茲ニ創メテ異見チ提出シ爭端チ開クニ至レリ所謂護法情辨有空ノ爭ヒナル者初マリダリ達磨波羅(護法ノ梵名)ハ瑜伽深密ノ流チ汲ミ諸法チ三性ニ分類シ遍計ハ空ナリ依圓ハ有ナリト立義シ心外ノ妄境ハ舉体都無ナレドモ識所變ノ依他ノ萬法ハ宛然實在セリト主張ス波毘吠伽(清辨ノ梵名)ハ中觀般若ノ流チ汲ミ眞俗ニ諦チ以テ眞理チ說明シ俗諦門ヨリスレハ所縁ノ境モ能縁ノ心モ俱ニ有ナリ若シ眞諦門ノ實義ヨリ見レハ所縁ノ境空ナルノミニアラヌ能縁ノ心モ亦タ空ナリ依他ノ萬法ハ畢竟空虛ナリト主張ス茲ニ於テカ一味和合ノ体厚ク曾テ諍論チ容レサリシ大乘モ遂ニハ分裂シテ有空ノ兩宗チ現スルニ至レリ

大乘分裂ノ後十八祖乃至二十三祖ノ間ハ格別ノ變動ナカリシ第二十四祖ノ時代ニ至リテハ漸ク内部ニ腐敗チ來シ末徒學識アリト雖ドモ或ハ德行チ缺ク者ナキニ非ス加之ナラス外道ノ徒ト法戰シテ屢々敗北シ彼等其全勝チ得サルチ以テ遂ニ詭策チ運ラシ其徒チ竊ニ僧形トナシ罪チ犯シテ之チ佛教徒ニ誣ヘタリ是ニ於テカ國王激怒シ寺院チ毀チ僧尼チ害シ經典チ燒ク且ツ自チ劍チ提ケテ法祖ノ所ニ至リ問フテ曰ク五蘊ハ空ナリヤ祖曰ク然リ王ノ曰

ク五蘊已ニ空ナラハ我ニ汝ノ頭チ與フ可シト白刃一閃法統茲ニ絶ユ

第二、支那ノ傳道

支那ノ佛教ハ後漢ノ時ニ渡リ姚秦及ヒ梁ノ世ニ擴リ唐宗時代ニ至テ隆盛チ極メ元明以來ハ漸ク衰ロヘ初メ清朝ニ至ツテ全ク壞敗セル譯教事業ハ後漢ノ世ニ摩騰、法蘭カ四十二章經チ譯セシニ初マリ以來彼此ノ交通彌ヨ熟成シ支謙、羅什、善無畏等ノ彼土ヨリ來ルアリ法顯、玄奘、義淨等ノ此土ヨリ往還スルアリテ譯經ノ事業増々進歩シ永平十年丁卯ヨリ至元二十二年乙酉ニ至ル一千二百二十年ノ間ニハ譯師ノ出ルニト凡ソ百九十四人譯經ノ成リタル者凡ソ千四百四十部、五千五百四十六卷ノ多キニ至リシト云フ是等ノ經律論ニ依リテ姚秦ヨリ唐代マテ漸々弘マリシ所ノ諸宗凡ソ十三宗アリ曰ク毘曇宗曰ク三論宗曰ク成實宗曰ク律宗曰ク涅槃宗曰ク地論宗曰ク淨土宗曰ク禪宗曰ク攝論宗曰ク天台宗曰ク法相宗曰ク華嚴宗曰ク眞言宗

凡ソ是等十三宗其傳來其經典其宗意其教觀等チ知ラントスルニハ各宗門ノ典籍ニ付テ一々探究セサル可カラス今ハ惟タ先覺ノ指南ニ便テ弘傳ノ一斑チ述ルニ止ムベシ

第一期 各宗ノ勃興

佛教ノ渡來ハ古來異説ナキニアラスト雖モ先輩概テ佛滅後一千〇十六年摩騰法蘭ノ二師四十二章經等ヲ齎シ來レルヲ以テ始メトナス即チ是レ第十七祖傳持ノ末年ニシテ後漢ノ明帝丁卯ノ年ナリ此年二師ハ四十二章經ヲ共譯ス是レ經典ノ翻譯セラレタルノ嚆矢ニシテ明治二十三年ヲ距ルコト凡ソ一千八百六十三年トス爾來佛教ハ漸ク支那人ニ依テ尊信セラレ支那社會ノ一要素トナリ文明ニ向テ一段ノ進ミヲ與ヘタリ迦葉摩騰、竺法蘭ノ二師ハ共ニ中印度ノ人ナリ前者ハ特ニ經律ノ二藏ニ通シ後者ハ最モ戒律ニ明カナリ

毘曇宗 蓋シ印度宗旨ノ初テ支那ニ傳ハリシハ此宗ナルベシ抑モ毘曇宗トハ即チ小乘薩婆多ノコトニシテ所謂小乘二十部ノ隨一ナリ滅後三百年ニシテ上座部ノ中ヨリ分派セリ其薩婆多部ト名クル所以ハ彼ノ滅後一百年ニ第五祖ノ時分レタル五部ノ中ニ薩婆多部ト稱スルモノアリシカ其宗其義此部ニ同似スル故ニ亦タ薩婆多部ト名ケシナリ而シテ此宗ノ據ルトコロハ迦多衍尼ノ造リタル阿毘曇八健度論ヲ首トシ大毘婆娑、法勝毘曇、法勝阿毘曇心、雜心等ノ諸論ナレハ今名ケテ毘曇宗ト云フナリ此宗ノ始メテ支那地ニ傳ハリシハ何頃ナル

カトイフニ東晉孝武帝太元十六年(我仁德天皇ノ七十九年)ニ北天竺ノ人瞿曇僧伽提婆始テ法勝毘曇論ヲ譯セシニアリ以來種々ノ譯師顯ハレテ此宗ノ典籍ヲ翻シ學者ノ之ヲ講究スルコト甚タ昌ンナリシカ玄奘三藏出ルニ追ンテ舊來ノ譯本ハ廢滅ニ歸シ新譯ノ諸論ニ依テ更ニ講究ヲ始メラレ明師競ヒ興リテ宗風彌ヨ隆ンナリ

鳩摩羅什婆 羅什ハ譯教ノ泰斗傳法ノ大師ナリ諸宗ノ經典多クハ師ノ翻譯ニ係ル即チ台宗ニハ法華經及ヒ智度論アリ律宗ニハ梵網經アリ淨土宗ニハ阿彌陀經アリ皆ナ師ノ譯トス加之師ニ依テ譯セラレシ金剛般若經、維摩詰經、般若心經等ハ亦諸宗ノ通シテ學習スル所ナリ而シテ師ハ又支那三論宗ノ開祖ナリ成實宗ノ如キモ亦師ニ依テ開カレタリ

按スルニ師ハ印度龜茲國ノ人少壯ノ時已ニ諸師ノ典籍ニ通セリ六十三歳ノ時ニ支那ニ到リ支那學ニ從事スルコト十九年八十一歳ニシテ翻譯ヲ始メ大小乘ノ經典ヲ譯スルコト五十餘部ニ及ブ師曾テ長安ニ至ルヤ秦主姚興ハ延テ西明閣及ヒ逍遙園ノ別館ニ安置シ待ツニ國師ノ禮ヲ以テセリトイフ

三論宗 此宗龍猛ノ中觀論十二門論及ヒ提婆ノ百論ニ據ル故ニ三論ノ名アルナリ又是ニ龍

猛ノ智論ヲ加ヘテ四論ト稱ス皆本宗所依ノ典籍ナリ中觀ハ正シクハ小乗ヲ破シ兼テ外道ヲ
 破シ以テ二諦ノ理ヲ顯ハス十二門ハ大乘ノ深義ヲ顯ハス本トシ傍ニ小乘外道ヲ破斥ス百
 論ハ外道排斥ヲ主トシ傍ラ他義ヲ破シ大乘ノ本義ヲ顯ハス而シテ智論ハ總シテハ如來一代
 大小ノ大品法門ヲ通申シ別シテハ般若ヲ解釋シタル集義論及ヒ釋經論ナリ四論俱ニ羅什ニ
 依テ姚秦弘始四年ヨリ十一年ニ至ルノ間ニ譯出セラレタリ爾來其高弟道生法師ヲ始トシ曇
 濟、道朗、僧詮、法朗、吉藏、乃至元康、玄瑩等ノ諸師數朝ニ出テテ此宗ヲ弘通シ殊ニ唐
 朝在リテ尤トモ熾ンナリ

成實宗 本宗ハ成實論ニ依テ修學スル故ニ此名アリ抑モ成實論ノ起源沿革ハ如何トイフニ
 滅後八百年ノ頃中印度ニ訶梨跋摩ト名クル一論師アリ其師薩婆多部ノ英匠鳩摩羅多ノ宗義
 未タ立致テ盡サ、ルヲ慨キ自カラ大小二乘ヲ兼學シ二部九部ヲ貫通シテ一論ヲ造ル是レ即
 チ成實論ナル者ナリ其支那ニ傳ハリシハ姚秦ノ弘始十三年(我反正天皇ノ六年)羅什三藏始
 メテ此論ヲ譯シ其門人僧叡、道生、僧肇、道融、曇影、惠觀等之ヲ敷演セシニ在リ而シテ
 宋代ニ至リテハ僧導ハ之カ疏ヲ作り道高又義疏ヲ作ル尋テ齊ノ僧鐘法師、惠次法師及ヒ梁

ノ三大法師等皆之ヲ講究シ陳代ノ寶瓊法師ノ如キハ此論ヲ講スルコト九十一遍立義ヲ作ル
 コト二十卷警紹法師モ亦講演スルコト五十餘回ニ及ベリト云フ然ルニ唐朝ニ至リテ奘新譯
 ノ後ハ諸師多ク法相大乘ヲ用ヒ遂ニ此論ヲ講究スル者漸ク少クナリタリ

律宗 姚秦ノ弘始十二年(我反正天皇ノ五年)曇無德部ノ律始メテ傳ハル即チ四分律是ナリ
 佛滅後千三百五十九年尋テ僧祇五分ノ二律漸次傳譯アリ而シテ四分律ハ元魏ノ延興元年
 (我雄略天皇ノ十五年)北臺ノ法聽律師ニ依テ初テ講義セラレ是レ四分律傳來後五十六年ナ
 リ是ヨリ此律ヲ弘ムル者漸ク増加シ或ハ口授ヲ以テシ或ハ文章ヲ以テス其章鈔ヲ著ハスモ
 ノ二十家ニ及ヒ茲ニ於テ律宗ノ面目畧ホ全備セリ梁、陳、隋、唐、宋諸朝ヲ經テ宗風愈ヨ
 昌ンナリシカ宋亡ビ元興ルニ迄ンテ遂ニ律法廢絶シテ行ハレズ設ヒ講通スル者アリト雖モ
 事如法ナラスト云ヘリ

涅槃宗 此宗ノ起原ハ北涼ノ元始年間、中印度ノ人曇摩讖ナル僧始メテ涅槃經ヲ譯傳セシ
 ニ在リ宋ノ惠靜、曇無成、僧莊、道汪、靜林、惠定、是斌、超集、法瑤、道登、曇度、道
 盛、是等ノ諸師各ノ宗ヲ開キ義ヲ立テ疏ヲ製シ章ヲ作りテ昌ンニ弘メ宣フ隋ノ惠遠ノ資替

微亦此宗ヲ興シ相州ノ法屬、西河ノ道綽、南山ノ道宣、京兆ノ法寶等皆此宗ヲ講究セリ
 地論宗ハ十地論ヲ修學スル所ノ宗旨ナリ十地論トハ何ソヤ乃チ華嚴經ノ中ヨリ十地ノ一
 品ヲ區分シテ十地經ト稱シ行ヘ來リシチ堅惠、金剛軍ノ二菩薩論ヲ造リテ之ヲ釋義シ後世
 親菩薩アリテ亦タ論ヲ造リテ此經ヲ釋シ題シテ十地論ト名ク即チ此宗根據ノ論ナリ後魏ノ
 宣武帝、永平元年(我繼體天皇ノ二年)ニ菩提流支、勒那摩提、佛陀扇多ノ三師等ニ勅シテ
 帝自ラ筆受シテ此論ノ譯述ヲ初ム永平四年ニ至テ譯成ル一部十二卷アリ光統律師ハ此宗ノ
 弘通ニ最モ力アリシ人ナリ而シテ其門人惠順、道慎ヲ始メトシ諸法師ノ宣教盛大ナリト雖
 モ此論元來華嚴大經ノ一部分タルニ過キサレバ唐朝ニ至リ華嚴宗ノ起ルニ迨ビテハ遂ニ此
 宗ヲ別傳單修スルモノナク頓テ華嚴宗ノ屬門トナリ了レリ
 淨土宗ハ晋ノ世廬山ノ法師惠遠白蓮社ヲ開テ念佛修行ヲ始シニ起因シ曇鸞、道綽、善道、
 懷感ノ四師ニ憑テ大成セラレタリ本宗ノ所依ノ經典ニ三部アリ謂ク大無量壽經謂ク觀無量
 壽經謂ク阿彌陀經是レヨリ第一經ハ前魏ノ世ニ康僧鎧ニ依テ譯セラレ第二經ハ宋ノ曇梁那
 舍ニ第二經ハ姚秦ノ羅什ニ依テ譯出セラレタリ又龍猛ノ十住毘婆沙論ノ易行品及ヒ世親ノ

淨土論共ニ本宗依據ノ論ナリ後魏ノ曇鸞ハ觀經及ヒ淨土論ヲ菩提流支ニ傳ヘ淨土論注ヲ製
 シテ淨土論ヲ釋シ以テ自力他力ノ旨義ヲ明カニシ唐ノ道綽ハ安樂集ヲ造リテ二門ノ判釋ヲ
 下シ尋テ前導大師顯ハレテ五部九卷ノ聖教ヲ述ベテ淨土ノ法門ヲ盛ンナラシメ又懷感法師
 アリテ群疑論等ヲ作り專テ他力往生ヲ勸導ス是ヨリ宗風彌ヨ盛運ニ向ヒリ
 禪宗ハ教外別傳ノ旨ニシテ即チ直指人心見性成佛ト談ス委シク云ヘハ八萬四千ノ教網
 チ脫シ大小顯密ノ外ニ出、如來ノ心要ヲ單傳シ直ニ人心ヲ指シテ立處ニ成佛スルノ眞面目
 チ現前セシムルノ宗旨ナリ抑モ本宗ノ傳來ヲ釋ルニ印度ノ傳法迦葉ヨリ達摩ニ至リ二十八
 祖アリ即チ大迦葉釋迦ノ正法眼藏ヲ稟ケテヨリ乃至展轉相承シテ菩提達摩ニ至リシナリ而
 シテ達摩ハ梁ノ世代支那ニ來至シ之ヲ惠可禪師ニ傳フ惠可ノ後ニ僧璨アリ僧璨ノ後ニ道信
 アリ信ノ後ニ弘忍アリ弘忍ノ時ニ至リ南北ノ兩宗ニ分ル惠能ノ所傳之チ南宗トイヒ神秀ノ
 所傳之チ北宗トイフ二師俱ニ弘忍ノ高弟ナリ南京ノ末葉又タ分レテ五家トナリ更ニ二宗チ
 出シ遂ニ七宗ノ分派ヲ見ルニ至レリ臨濟、遊仰、曹洞、法眼、揚岐、黃龍是レナリ其後代
 ニ於テ甚タ繁榮セシハ南宗ノ禪法ナリトス蓋シ南北相嘗ルノ弊甚シカリシト雖モ高祖碩德

俊髦英傑相踵テ輩出セシハ最モ此宗ニ多シトス

攝論宗 十地論ニ依テ地論宗アルカ如ク攝大乘論ニ依テ攝論宗アリ又十地論ノ十地品ニ

於ケルカ如ク攝大乘論ナル者ハ阿毘達磨經十萬頌ノ中ノ攝大乘ノ一品ヲ解釋シタルモノ

ナリ即チ無着菩薩ニ依テ解釋セラレ更ニ世親菩薩是ニ解釋ヲ附シテ無着ノ本論ヲ注セリ西

印度人波羅末陀(眞諦ト)梁氏ニ西來シ陳ノ天嘉四年ニ至テ無着ノ本論及世親ノ釋論ヲ譯ス其

門人各々此論ヲ講究シ師資相承シテ義ヲ立テ疏ヲ造リ遂ニ一宗ヲ爲スニ至ル爾來隋唐ノ諸

師此論ヲ研究スルコト甚々昌ンナリ然レトモ此論ハ素ト法相宗所依ノ一論ナルニ外ナラズ

故ニ法相宗興ルニ及ンテハ遂ニ法相宗ニ入りテ講究セラレ單行獨立ノ地位ヲ失ヘリ

天台宗 天台ノ觀法ハ惠文、南岳ノ二師既ニ之ヲ行ヘリ然レ共之ヲ一個ノ宗門トシテ弘

メタルハ天台智者大師ヲ以テ始トナサ、ルヘカラス是レ天台宗ノ名アル所以ナリ即チ所弘

ノ宗ヲ能弘ノ人ニ隨テ天台宗ト名ケ以テ智者ノ別德ヲ標示セリ抑モ本宗ノ起原ハ何レニ在

ルカト云フニ北齊惠文禪師大智度論ニ依リテ一心三觀ヲ立タルニ基ク而シテ智者大師ニ至

リ初テ一宗ノ體裁ヲ備ヘタリ即チ智者ハ五時八教ヲ立テ、詳ニ一代教ヲ判釋シ一家宗義ノ

所在ヲ確カメ之ヲ陳隋ノ二代ニ敷演シタリ爾來宗風漸ク盛大ナ呈シ章安大師ハ智者ノ説ヲ
結集シ所謂三大部ナル者ヲ編ミ妙樂大師ハ三大部ヲ解釋シテ記章ヲ作ル尋テ道遠、行滿、
智禮、仁岳等ノ龍象輩出シ宗義増ス光輝ヲ放ツル至ル

第二期 唐宋ノ佛教

概シテ言ハ、第一期ノ佛教ハ創業ノ佛教ニシテ第二期カ佛教ハ大成ノ佛教ナリ又第一期ヲ

以テ羅什ノ佛教ナリトスレハ第二期ハ玄奘ノ佛教ナリト言ハサルベカラス蓋シ東晉ヨリ南

北朝ニ至テハ一方ニハ多クノ高僧碩徳山川ヲ跋涉シテ來ルアリ一方ニハ時ノ人主亦皆之ヲ

崇メテ風俗ヲ陶鑄セントスルアリテ經典ノ譯傳盛ンニ行ハレ各宗頻リニ蔚興シタリ而シテ

唐宋ノ時代ニ迄ンテハ信仰ノ範圍ハ彌ヨ擴ガリ經論ノ翻譯ハ益ス精シク光彩燦爛高妙幽遠

其ノ旺盛ナリシコト前後其比ヲ見ス寔ニ第二期ハ是レ支那佛法ノ旭日時代ナル哉

第二期ニ於テ興リシ新教三ツアリ一チ法相トイヒ二チ華嚴トイヒ三チ眞言トイフ次第ノ如

ク玄奘、法藏、善無畏ニ依テ創メテラタリ玄奘ハ即チ大遍覺三藏ノコトニシテ實ニ羅什以

來ノ一人ナリ法藏ハ賢首菩薩ノ贈號アリシ人ニテ古今判教家ノ内ニ獨歩セリ而シテ善無畏

俊髦英傑相踵テ輩出セシハ最モ此宗ニ多シトス

攝論宗 十地論ニ依テ地論宗アルカ如ク攝大乘論ニ依テ攝論宗アリ又十地論ノ十地品ニ於ケルカ如ク攝大乘論ナル者ハ阿毘達磨經十萬頌ノ中ノ攝大乘ノ一品ヲ解釋シタルモノナリ即チ無着菩薩ニ依テ解釋セラレ更ニ世親菩薩是ニ解釋ヲ附シテ無着ノ本論ヲ注セリ西印度人波羅末陀(眞諦ト譯ス)梁氏ニ西來シ陳ノ天嘉四年ニ至テ無着ノ本論及世親ノ釋論ヲ譯ス其門人各々此論ヲ講究シ師資相承シテ義ヲ立テ疏ヲ造リ遂ニ一宗ヲ爲スニ至ル爾來隋唐ノ諸師此論ヲ研究スルコト甚ダ昌ンナリ然レトモ此論ハ素ト法相宗所依ノ一論ナルニ外ナラス故ニ法相宗興ルニ及ンテハ遂ニ法相宗ニ入りテ講究セラレ單行獨立ノ地位ヲ失ヘリ

天台宗 天台ノ觀法ハ惠文、南岳ノ二師既ニ之ヲ行ヘリ然レ共之ヲ一個ノ宗門トシテ弘メタルハ天台智者大師ヲ以テ始トナサ、ルヘカラス是レ天台宗ノ名アル所以ナリ即チ所弘ノ宗ヲ能弘ノ人ニ隨テ天台宗ト名ケ以テ智者ノ別德ヲ標示セリ抑モ本宗ノ起原ハ何レニ在ルカト云フニ北齊惠文禪師大智度論ニ依リテ一心三觀ヲ立タルニ基ク而シテ智者大師ニ至リ初テ一宗ノ體裁ヲ備ヘタリ即チ智者ハ五時八教ヲ立テ、詳ニ一代教ヲ判釋シ一家宗義ノ

所在ヲ確カメ之ヲ陳隋ノ二代ニ敷演シタリ爾來宗風漸ク盛大ナ呈シ章安大師ハ智者ノ説ヲ結集シ所謂三大部ナル者ヲ編ミ妙樂大師ハ三大部ヲ解釋シテ記章ヲ作ル尋テ道遠、行滿、智禮、仁岳等ノ龍象輩出シ宗義増ス光輝ヲ放ツル至ル

第二期 唐宋ノ佛教

概シテ言ハ、第一期ノ佛教ハ創業ノ佛教ニシテ第二期カ佛教ハ大成ノ佛教ナリ又第一期ヲ以テ羅什ノ佛教ナリトスレハ第二期ハ玄奘ノ佛教ナリト言ハサルベカラス蓋シ東晉ヨリ南北朝ニ至テハ一方ニハ多クノ高僧碩德山川ヲ跋涉シテ來ルアリ一方ニハ時ノ人主亦皆之ヲ崇メテ風俗ヲ陶鑄セントスルアリテ經典ノ譯傳盛ニ行ハレ各宗頻リニ蔚興シタリ而シテ唐宋ノ時代ニ迄ンテハ信仰ノ範圍ハ彌ヨ擴ガリ經論ノ翻譯ハ益ス精シク光彩燦爛高妙幽遠其ノ旺盛ナリシコト前後其比ヲ見ス寔ニ第二期ハ是レ支那佛法ノ旭日時代ナル哉
第二期ニ於テ興リシ新教三ツアリ一チ法相トイヒ二チ華嚴トイヒ三チ眞言トイフ次第ノ如ク玄奘、法藏、善無畏ニ依テ創メテラタリ玄奘ハ即チ大遍覺三藏ノコトニシテ實ニ羅什以來ノ一人ナリ法藏ハ賢首菩薩ノ贈號アリシ人ニテ古今判教家ノ内ニ獨歩セリ而シテ善無畏

ハ支那眞言宗ノ太祖ニシテ且ツ大毘盧遮那經ヲ解説シ秘奧深密ノ旨ヲ明カニス三師皆ナ支那佛教ニ於テ一段ノ光彩ヲ添ヘ萬世ノ教礎ヲ堅メタリ今ヤ筆頭ヲ轉シテ此等三宗ノ傳來ヲ親ハシ

法相宗 抑モ本宗ハ六經十一論ニ據リテ三界唯識ノ理ヲ説キ二轉(菩提)ノ妙果ヲ期スル者ニシテ唐ノ貞觀年中ニ玄奘三藏渡天(度)シテ尸羅跋陀羅ヨリ此宗ヲ傳ヘ支那ヘ還リテ之ヲ弘メリ蓋シ尸羅跋陀羅ハ遠ク慈氏、無着、世親ニ承ケ近ク護法、難陀ニ踵キ而シテ今玄奘ニ傳ヘタルナリ奘三藏出粹ノ高足ニ慈恩法師アリ三藏ヲ助ケテ此宗ヲ大成ス即チ唯識述記、唯識攝要、義林等ノ疏章ヲ著ハス此等ノ書ハ法相一家ノ寶典ニシテ詳ニ三時ノ教判ヲ説キ唯識深妙ノ理ヲ明セリ法師ノ復々淄洲大師アリ洲ノ後ニ樸揚大師アリ各々有益ナル著述ヲナシテ盛ニ此宗ヲ擴張ス而シテ此宗ヲ名ケテ法相トイフハ是レ解深密經ニ據リテ開立セシモノニテ一切萬法ノ體性相狀ヲ決判スルノ宗ナルカ故ナリ此外唯識宗、應理圓實宗、中宗、普爲乘教宗等ノ異名アリ

華嚴宗 此宗大華嚴經ヲ以テ根據トスル宗旨ナルカ故ニ華嚴宗ト名ク抑モ此華嚴經ハ支

那ニ於テ三度譯セラレタリ先ツ東晉ノ代ニ佛陀跋陀アリ譯シテ六十卷ト爲ス次ニ唐朝ニ至リテ實叉難陀之ヲ譯シテ八十卷トナス第三ニハ唐ノ貞觀年中ニ般若三藏譯シテ四十卷トス元來此經ハ十萬偈三十八品アルコトナルカ其中三萬六千偈ヲ譯シタル者カ第一ニシテ次ハ四万五千偈ヲ譯シ第三ノ譯ハ入法界ノ一品ヲ別譯シタルモノナリ次ニ相承傳來ヲ親フニ本宗ニハ七祖アリ馬鳴、龍猛、杜順、智儼、香象、清涼、宗密是レナリ中ニ於テ最モ立教開宗ニ力アリシハ香象大師ナリトス師ハ實ニ華嚴宗ノ高祖ナリト云ハサルベカラス乃チ師ハ大唐則天武后ノ嘉運ニ當テ探立記、五教章等ノ大著述ヲナシ教觀二門ヲ完成シ廣ク五教ノ宗義ヲ談ス是ニ至テ華嚴ハ純然タル一宗トナリテ世ニ弘通セラレタリ師ニ繼テ清涼大師アリ涼ノ後チ宗密禪師アリ偕ニ數多ノ製作アリ宗光益ス輝ク

眞言宗 ハ兩部ノ大經(大日經、金剛頂經)等祕密眞言ノ教ニ據ル所ノ宗旨ニシテ法身說法ヲ談シ即身成佛ヲ説ク唐ノ開元四年(我靈龜二年)ニ善無畏三藏來リ大日經等ヲ譯シテ創メテ此宗ヲ傳フ次ニ開化八年ニ及ンデ金剛智三藏其資不空(此時僅ニ十四歲)ヲ隨ヘ此宗ノ梵本ヲ齎シ來リテ大ニ譯傳ヲ爲ス而シテ不空三藏ハ三十七歲ノ時印度ニ還リ龍智菩薩ニ遇フ

テ更ニ秘法秘典ヲ稟ケ本宗所有ノ典籍ヲ請來シ天寶五年（我天平十六年）ヲ以テ着ス時ニ玄宗皇帝深ク之ヲ恭敬シ勅シテ經ヲ譯セシム即チ金剛頂經ヲ始メ其他一切ノ秘法秘典皆悉ク翻傳ス茲ニ於テカ兩部大經ノ翻譯初メテ完成シ本宗一切ノ經典法軌ハ皆傳ヘラル以來弘通漸ク盛ニシテ惠果阿闍梨ノ代ニ至リ最モ隆榮ヲ彰ハス以上ノ四師ハ皆本宗ノ高祖ナリ善無思及ヒ金剛智ノ兩師ハ共ニ龍猛菩薩ノ上足龍智菩薩ニ傳ヘ不空三藏ハ菩薩及其師ニ隨テ二度之ヲ傳フ而シテ惠果阿闍梨ハ不空三藏ノ高弟ナリ

法相華嚴ノ興起スルヤ攝論地論ノ二宗獨立單行ノ地位ヲ喪ヘシコト既ニ述ヘタルカ如シト雖モ其他ノ各宗ハ皆唐朝ニ至テ彌ヨ榮ヲ極メタリ殊ニ律宗ノ如キハ甚ダ盛ニ行ハレ法礪、道宣、懷素ノ三大律師此時ニ現ハレ遂ニ律ノ三宗ヲ爲ス禪宗亦此時ヨリ流行セシト雖モ其最モ隆盛ナリシハ趙宋ノ時代ナリトス此時ヤ世ノ碩學名士ノ輩皆喜ンテ之ヲ迎ヘタリト云フ是レ第二期ノ現象ナリ

第三期 近世ノ佛教

近世ノ佛教ハ傳道史トシテハ格別述ルニ足ル者ナシト雖モ今或支那史ニ依テ近世佛教ノ盛

衰大畧ヲ辨セン

元明佛教ノ光景ハ固ヨリ唐宋ノ佛教ニ比スベシモ非スト雖モ而モ大勢力アル宗教トシテ多數ノ人心ヲ支配シ依然隆盛ヲ減セサリシナリ其元朝ノ僧侶ノ如キハ概チ皆歷代ノ帝師タリシ而シテ清朝ニ至テハ其僧侶ハ無識無德ノ墮落僧侶ニシテ夫ノ古代ノ如法堅固且ツ宣教弘傳ニ熱心ナル僧侶ハ最早見ルコトヲ得ス加之ナラス時ノ制度布教ノ自由ヲ害スルノ傾向アリテ其信仰ノ範圍ハ次第ニ喇嘛教ヲ蠶食スル所トナリ其勢力漸々ニ衰微ニ赴キ今日トナリテハ壞敗亦救フ可ラサルノ狀ヲ呈セリ蓋シ其布教ハ自由ニ任シテ牽掣スルヲ無シト雖モ之ヲ喇嘛教ニ比スレハ甚ダ檢束スルモノ、如シ乾隆五年ノ制ニ曰ク今後各省ニ於テ新ニ寺廟ヲ創造スルヲ許サス舊設ノモノト雖モ其壞敗ニ委シテ修繕ヲ加フルナカレ又乾隆三年十九年ノ制ニ曰ク民間ノ獨子及ヒ年十六歲以上ナラサル者ハ出家スルヲ許サス若シ年少ニシテ果シテ父兄ノ怙ルヘキナキ者ハ暫ク之ヲ許スト雖モ年二十ニ至テ受戒ヲ願ハサル者及二十以內ト雖モ自ラ生計ヲ營ムヲ得ル者ニシテ還俗ヲ願フモノハ之ヲ聽シテ拒マヌ又婦女ノ年四十二至ラサル者ハ出家スルヲ許サス惟四體偏癡或ハ五官缺陷ニシテ實ニ歸スル所ナキ者

ハ暫ク許シテ其餘生ヲ養ハシム且僧タル者例規アリテ恣ニ人ヲ度シ徒弟ト爲スヲ得ス縱使
定規ニ合スト雖卅年四十ヲ超テ始メテ一人ノ徒弟ヲ招クヲ許ス又猥リニ衆ヲ集メテ勸化ス
ルヲ許サズ

已上ノ法制ノ如キヲ以テ現今支那佛教ノ形勢ヲ知ルヘシ而シテ其佛寺ノ大ナルモノハ在來ノ
莊田ニ食シ小寺ノ如キハ多クハ寺中ノ空房ヲ租賃シ或ハ募化シテ已レノ生活ヲナスノ實
ニ落日黄昏纒カニ餘光ヲ保ツニ過キス尙ホ現今支那ニ於ケル喇嘛教ノ形勢ニ至テハ第十章
ニ於テ其一班ヲ記述スヘシ

第三、日本ノ傳道

佛法ノ初メテ支那ニ傳來セシヨリ三百餘年ヲ經テ百濟國ニ傳ヘテレ百濟國ニテ一百餘年ヲ
經テ佛法創メテ本邦ニ傳ハル即チ欽明ノ朝壬申ノ年ニ傳ヘテレ後チ一百二年ヲ經テ孝
德ノ朝ニ道昭和尙始メテ入唐ス茲ニ於テ支那佛法トノ交通開ケタリ以來相互ノ交通漸ク頻
繁ニ高僧ノ往來次第ニ増加シ各々有縁ノ宗旨ヲ弘メ立教開宗漸次ニ繁興シテ聖武ノ朝マテ
ニ弘通セシモノハ三論、法相、華嚴、俱舍、成實、律、ノ六宗アリ傳ヘテレシ者天台、眞

言ノ二宗アリ其後禪宗、淨土宗ノ弘通アリ茲ニ於テ八宗十宗トナリ遂ニ現今ニ迄テ十二
宗二十二派ノ多種ヲ成スニ至レリ

思フニ本邦ハ佛教ノ中ニ於テ最モ大乘有縁ノ地ナリ日本ハ佛教ノ爲ニ良好ナル相談役ナリ
佛法ノ真相ハ日本ニ依テ護持セラレタリ而シテ佛日ノ光輝ヲシテ世界ニ放タシメント欲ス
レハ其好相談役タル者日本ヲ措テ何クニカアル思フニ印度支那ノ佛教ハ俱ニ衰頽萎靡不振
ニ歸シ且ツヤ今日存在スル所ノ教法ハ殘肴冷炙タルノ觀アリ然ルニ獨リ日本ノ佛教ハ一千

三百餘年ノ間テ教燈聯綿トシテ弘傳宣行シ王政時代ニアリテモ封建時代ニアリテモ將タ立
憲王政ノ今日ニテモ血族社會ノ頃ニテモ華族社會ノ頃ニテモ將タ公民社會ノ今日ニテモ未
タ甚シキ蹉跌ナク駸々トシテ歩武ヲ進メ今ヤ將ニ歐米各國ニ傳ヘツ、アレリ若シ佛教ニシ
テ日本ノ在ルナクハ焉ツ斯ク妙法ヲシテ今日アラシメ佛日ノ光明ヲシテ世界萬國ニ赫々
タラシムルコトヲ得ンヤ然リ而シテ日本ハ又佛教ニ依リテ大ナル利益ヲ供給セラレタリ其
學問ニ美術ニ風俗ニ習慣ニ言語ニ思想ニ將マテ治民術ニ道德學ニ甚タ有益ナル結果ヲ與ヘ
タリ今ヤ復タ佛教ハ國權ノ伸暢ニ向テ好便宜ヲ與フルノ地位ニ立テリ然ラハ則チ日本ハ佛

教ノ好相談役タルト同時ニ佛教ハ日本ノ好相談役ナリト謂ハサルベカラス
 佛教ハ古來神道家、古典家、儒者先生ノ破毀攻撃ヲ蒙ムリシコト甚シトモ殊ニ近世ニ至
 テ垂加、宣長、篤胤ノ諸輩、林及ヒ中井ノ者流ハ種々ノ著作ヲ起シテ大ニ罵詈ヲ極メ痛ク
 攻撃ヲ向ケ彼等ハ殆ント佛教排斥ノ爲ニ世ニ生レタルヤノ觀アリシカ彼等ノ議論ハ概テ皮
 想ノ見ニシテ或ハ奇談怪説ヲ擧ケ或ハ僧徒ノ醜態ヲ發キテ喋々シタルニ過キサリシカハ未
 タ以テ佛教ノ進行ヲ防遏スルニ足ラザリキ其佛教ノ勢ヲ弱メ動スレハ廢額滅亡ヲ釀サント
 シタルハ常ニ内部ノ腐敗ニテアリシナリ

以上述ル所ニテ總体論ハ終リタリ次ニ日本佛教ヲ説明スルノ本文ニ取掛ルヲ要ス予輩ハ例
 ニ依リ之ヲ三期ニ區分シ第一期ニ於テ南都ノ六宗ヲ述ヘ第二期ニ於テハ遷都以後ノ二宗ヲ
 述ヘ而シテ第三期ニ於テハ近世ノ宗旨ヲ陳述スベシ

第一期 古代ノ佛教

三論宗 ハ高麗國ノ貢僧惠灌ニ依テ傳ヘテレタリ灌ハ唐ノ嘉祥大師ヨリ三論宗ヲ學習セ
 シ人ニシテ推古天皇ノ御宇三十三年ニ來朝シ孝德ノ朝ニ至テ始メテ三論ノ講義ヲ爲ス講義

ヲ遂ケ竟リシ日ニ於テ僧正ニ補セラル是レ日本第二ノ僧正ナリ灌ノ後ニ福亮アリ亮ノ後ニ
 智藏アリ藏ハ入唐シテ重テ此宗ヲ傳フ藏ノ後ヲ紹ク者ヲ道慈トス慈又テ唐ニ留學スルコ
 ト十八年其間諸多ノ宗旨ヲ學ヒ歸朝ノ後主トシテ此宗ヲ弘ム以來漸ク盛運ニ向ヒ永觀、珍
 海、樹朗、重譽等ノ英才アリ近代ニハ明遍、貞敏、秀惠、覺澄等ノ名哲アリ宗義彌ヨ盛ナ
 リ

清相宗 三論宗ハ日本宗旨ノ濫觴ナルガ之ニ續テ興リシ者ハ此宗ナリ此宗ノ傳來ハ之ヲ
 詳論スルニ凡ソ四傳アリ第一ニ道昭和尙ノ傳來アリ和尙孝德天皇ノ白雄四年ニ入唐シ玄奘
 三藏ヨリ之ヲ傳フ其後六年ヲ經過シテ齋明天皇ノ四年戊午ニ當テ智通、智達ノ三法師唐ニ
 往キ玄奘三藏及ヒ其高足窺基法師ニ就テ此宗ヲ傳ヘ來リシヲ第二傳トス第三傳ハ彼ノ白雄
 四年ノ後五十一年文武天皇ノ大寶三年ニ至テ新羅ノ歸化人智鳳、智蘭、智雄ノ三師勅命ニ
 依テ入唐シ樸揚大師ヨリ之ヲ傳ヘリ第四ハ道昭入唐六十四年ノ後元正天皇ノ靈龜二年ニ玄
 奘僧正渡唐シ又テ樸揚大師ニ就テ此宗ノ教義ヲ研究シ在唐留學スルコト二十年此宗一切ノ
 典籍ヲ携帶シ聖武天皇ノ天平七年七月ヲ以テ歸朝ス

以上四傳ノ中第二傳ヲ以テ第一傳ニ合シテ元興寺ニ傳ヘ之ヲ南寺ノ傳ト稱ス第三傳ヲ以テ第四傳ニ合シテ興福寺ニ傳ヘ之ヲ北寺ノ傳ト稱ス南北待時シテ昌ニ講究シ廣ク弘通セシカ後代ニ至リテハ大家碩徳多クハ興福寺ノ方ヨリ出テ其傳獨リ大ニ世ニ行ハル

華嚴宗 道璿律師ハ此宗ノ始祖良辨僧正ハ初興ノ本願審祥大徳ハ初講ノ祖師而シテ聖武天皇ハ則チ造寺興學ノ大壇主トナリ此等三大祖師一大壇主ニ依テ吾華嚴一乘教ハ建興セラレタリ壬申百八十年ヲ經テ聖武ノ朝天平八年七月道璿來朝ス璿ハ支那華嚴寺普寂和尚ノ高第ニシテ和尙授ルニ華嚴及ヒ禪教ヲ以テス而シテ璿ハ又北宗ノ開祖神秀禪師ヨリ禪教ヲ稟ケ且ツ律宗ニモ明ニシテ亦天台ニモ達セル名師ナリ璿律師來テ本宗ヲ傳ヘシト雖モ未ダ之ヲ講シ之ヲ弘ムルニ至ラサリシ然ルニ良辨僧正アリ深ク此宗ヲ信シ廣ク此宗ヲ弘ント願ヒ勅請ヲ得テ當時大安寺ニ住セシ新羅ノ人審祥トイフ名師ヲ請待シ天平十三年十月八日ヲトシ東大寺ニ於テ大華嚴經ノ講演ヲ開ク天皇獻覽感歎無限乃チ綵帛一千餘疋ヲ施シ玉フ其後天平十二年ニ至リ詔ヲ降シ知識華嚴ノ別供ヲ創メ玉フ以來毎年之ヲ行ヒ遂ニ恒式トナル玆ニ於テ此宗益ス光榮ヲ顯ハシ來リ崇道、正義、長期等ノ諸徳ハ審祥良辨ニ尋テ現出シ後白河ノ

朝ニハ辨曉法師アリ後嵯峨天皇ノ朝ニハ宗性權僧正アリ共ニ一世ノ碩學ニシテ盛ニ華嚴ヲ唱フ

俱舍宗 阿毘達摩俱舍論ニ依テ立テラレタル宗旨ナル故ニ俱舍宗ノ名アルナリ而シテ俱舍論ハ世親ノ婆娑論ノ要義ヲ述ヘタル者ニシテ婆娑論ハ發智論ヲ解釋シタル者ナリ若シ所說ノ法門ニ從ヘハ此宗ハ須ク說一切有部教ト名クナリ是レ三世實有法体恒有ノ主義ヲ談スレハナリ此宗ハ世親菩薩ヲ太祖トナス玄奘三藏之ヲ支那ニ傳ヘ其高足普光法師三十卷ノ記ヲ作テ之ヲ主張ス而シテ吾朝ニ於テハ智通智達及ヒ玄昉ノ三師法相宗ト共ニ之ヲ傳ヘ來レリ以來南都ノ各寺ニ於テ之ガ修學ニ從事スルモノ甚々多シ中古ニハ秀惠、顯範、覺雄、尊玄ノ四英アリ尋テ覺澄、貞禪、義海、義信ノ四哲アリ近代ニハ良忠、聖徳ノ二大家アリ尋テ快圓、定春ノ兩碩學アリ皆本宗ノ達匠ナリトス

成實宗 俱舍宗ノ法相宗ニ屬セラレテ行ハレシカ如ク成實宗ハ三論宗ニ屬シテ弘通セリ是レ本宗三論ト共ニ傳來セラレタルニ依ル高麗ノ惠慈、惠觀、百濟ノ惠聰、觀勒ノ諸法師ハ並ニ皆三論宗ノ英髦ニシテ又成實ノ宗義ニ達セシ人々ナリ此等諸法師ノ來航スルト同

時ニ成實宗亦傳ハリタリ聖德太子三經ノ疏ヲ製作セラル、ニ當テ此宗ノ義理ヲ採リシコト多シ斯ノ如クシテ三論ヲ學サルノ處ハ成實ヲモ兼修セリ願フニ此二宗ハ教理上ノ關係ヨリシテ三論宗ノ人ハ必ス成實ノ義ヲ知ルコトヲ要スルナリ

律宗 ノ開祖ハ鑿眞和尚トス和尚ハ壬申以後二百三年ヲ過キテ孝謙天皇ノ天平勝寶六年ニ來朝ス是ヨリ先キ百濟ニ往テ戒法ヲ稟ケ唐ニ航シテ律義ヲ學ヒ且又律師ノ來朝スル等ノコトヲヒタヒトイフモ機縁未タ成熟セル戒壇ヲ築キ法式ヲ行フノ運ヒニ至ラスシテ終レリ

鑿眞和尚ノ來朝スルニ追ンテ創メテ戒壇ヲ大佛殿ノ前ニ築キ菩薩戒ヲ授與ストキ是レ和尚來朝ノ四月ニシテ最初登壇受戒ノ人ハ實ニ天皇ニテアリシ以來授戒ノ事漸ク昌ンニ行ハレ遂ニ戒壇院ヲ設立スルニ至リ壇法ノ儀式茲ニ全備ス而シテ和尚ハ又天平寶字三年ニ招提寺ヲ建立シ以テ律法久住ノ地トナシ法礪ノ律疏、定實ノ記、道宣ノ律法等ヲ弘ム和尚ニ代テ戒壇第二ノ和上タリシモノハ法進僧都ナリ招提寺ニ如實、法載、義靜ノ三師ニ依テ繼カレ又豐安、道淨、仁階等ノ相承スルアリテ此宗彌ヨ宣布セラル保元年中ニ至テ實範法師アリ戒壇ノ式ヲ作り此宗ヲ中興ス以來傳持聯綿トシテ敢テ斷絶セス

鑿眞和尚ハ弘景禪師ニ隨テ具足戒ヲ受ケ並ニ台教ヲ學ベリ其菩薩戒ハ之ヲ道岸律師ニ受ク而シテ弘景禪師ハ南山律師授具ノ弟子ニシテ其台教ノ學習ハ之ヲ章安大師ニ於テセリ

以上述フル所ノ六宗ハ遷都以前ノ佛教ニシテ當時ノ首府南都ニ於テ弘通シ初メタルモノナリ古來稱シテ南都ノ古佛教トイフ而シテ此等ノ古宗ハ今日猶ホ依然トシテ行ハル、コトナルカ其行ハル、仕方少シク他ノ宗旨ト相違シ宗旨トシテ行ハレズ寧ロ學問トシテ行ハレ居ル又純然一宗ノ體面ヲ爲サス常ニ他宗ニ兼綜セラレ以テ佛日增輝ノ要素トナレリ即チ六宗ハ皆今日ノ諸宗ニ依テ兼修セラレ唯ダ律宗ノ眞宗ノ一ニ依テ行ハレザルノミ斯ノ如ク六宗今日ノ諸宗ノ兼修スル所ナリト雖モ其最モ盛ニ講究セラル、モノハ俱舍法相ノ二宗ナリトス而シテ此二宗ハ近世眞言宗ノ諸僧正ニ依テ發達セシカ如シ即チ彼ノ海應、信海、龍謙、法住、快道ノ諸師ハ俱舍論、唯識論ニ向テ新研究法ヲ附シ俱舍唯識ノ發達ニモ大ニ功勞アル人ナリトス

第二期 中古ノ佛教

遷都以後ニ興リシ新佛教ハ凡ソ四宗アリ天台、眞言、淨土、禪是ナリ前二者ハ王政時代ニ興

リ後ノ二者ハ封建時代ニ興レリ而シテ天台ヨリ日蓮宗ヲ派生シ淨土ヨリ眞宗及ヒ時宗ヲ支流ス今中古ノ佛教トシテ述ルトコロハ王政時代ニ興立セシニ宗ニアリ

天台宗 三論ノ始祖道瑠律師ハ台教ヲ學ビタル人ナリ鑒眞和尚又此宗ノ大家ニシテ且ツ此宗ノ典籍ヲ持參セシ人ナルカ當時開宗ノ機會ナク一方ハ三論ニ他方ハ律宗ノ弘通ニ盡力セリ而シテ之ヲ興起セシ人ハ實ニ傳教大師其人ナリ師ハ桓武ノ朝即チ延暦二十三年勅命ヲ被リテ唐土ニ入り天台第十代ノ祖道邃和尚及ヒ佛瀧寺ノ行滿師ニ遇フテ此宗ヲ學ヒ又順曉阿闍梨ヨリ眞言教ヲ傳ヘ而シテ又修然禪師ニ隨テ禪法ヲ受ケ又菩薩戒ヲ道邃和尚ニ授リ諸教學ヲ研受シテ翌二十四年ニ歸朝シ之ヲ叡山ニ弘メテ延暦寺ト名ケタリ然ルニ其頃義眞和尚ナル人アリ傳教ト同シク入唐受學シ俱ニ歸朝シテ叡山ヲ興シ遂ニ叡峰第一ノ座主トナレリ傳教ノ高弟ニ慈覺大師アリ義眞ノ高弟ニ智證大師アリ兩大師俱ニ本宗ノ名哲ニシテ何レモ入唐求法シ此宗及ヒ眞言宗ヲ傳來シ大ニ之ヲ弘ム之ヲ慈覺門流智燈門流ト稱セリ智證ハ江州三井ノ園城寺ニ遷リシ以來山門寺門ノ號アリテ山門ノ天台ハ慈覺ノ後ニ惠亮、滿賢、良源アリ寺門ノ天台ニハ智證ノ後ニ猷憲、康濟、増ノ輩アリ俱ニ寫瓶相承シテ法緒繼續セリ

現今ニハ叡山ヲ天台宗ト稱シ三井チ寺門派ト呼ビ此外又タ眞盛派ナル一派アリテ一方ノ法旗ヲ樹ツルナリ

本朝ノ天台宗ハ一種特別ニシテ即チ密教及ヒ禪學ヲ兼學セリ蓋シ前述スル如ク傳教大師入唐ノ際ニ本宗ニ併セテ密教及ヒ禪門ヲ相傳シタルト且ツ密教ハ速疾頓覺ノ要法鎮護國家ノ秘訣ニシテ禪門ハ是心是佛ト談スルコト本宗ノ已心中所行ノ法門ト類同スル所アルカ故ナリ

眞言宗 眞言ノ濫觴ハ弘法大師以前ニ於テ既ニ傳來アリシト雖モ本宗ノ開祖トスベキ人ハ弘法大師ナリ蓋シ元正ノ朝及聖武ノ朝ニ存在セシモノハ唯タ其形ヲ存スルニ過キス故ニ一宗トシテ許サレザリキ大師桓武ノ朝即チ延暦二十年ニ入唐シ青龍寺惠果阿闍梨ニ隨テ兩部ノ大法秘藏眞言等ヲ傳ヘ大同元年ヲ以テ歸朝シ大著述ヲ興シテ昌ノニ之ヲ弘通シタリ想フニ弘法大師ハ嘗ニ本邦眞言教ノ開祖タルノミナラス是レ眞言一教ノ大高祖ナリト謂フベシ

眞言一教ハ大師ニ依テ一大曲折ヲ爲セリ則チ大師ハ十卷章、十住心論等ノ肝要ナル著述ヲ

爲シ大ニ宗義ヲ整齊セリ其教相判釋門ニ於テハ横堅ノ二途ヲ設ケテ一切佛教ヲ判決シ堅ニ十住心ヲ立テ、背闇向明求上ノ次第ヲ明カシ且ツ之ニ寄セテ各宗ノ優劣ヲ判シ横ニ顯密二教ヲ以テ生身說法ト法身說法トヲ對比シ其眞否ヲ決ス而シテ毫末モ臆斷ニ聘スルコトナク悉ク之ヲ經典ニ鑑ミ疑滯ノ挾ムベキ餘地ナカラシム是ニ於テカ事教ニ相全ク備足シ覺王教ノ眞相彌ヨ明ニナリタリ

大師ノ後ニ道興大師、法光大師、理源大師、本覺大師等ノ碩德アリ相承弘傳甚々盛ンナリ鳥羽帝ノ時ニ當リテ興教大師アリ義章秘釋ヲ作テ古來未聞ノ新義ヲ立ツ而シテ此新義ハ賴瑜、聖憲二師ニ依テ大成セラレ遂ニ新義派眞言古義派眞言ノ別ヲ見ルニ至レリ

第三期 近世ノ佛教

欽明敏達ノ朝ヨリ桓武平城等ノ歷朝凡ソ三百年ノ間ハ聖德太子ヲ始メ道昭、行基、良辨、鑒眞、傳教、弘法ノ諸高僧アリ各々濟度衆生ノ活方便ヲ凝シ各々有縁ノ宗教ヲ弘メシカハ諸教頻々トシテ勃興シ教法駁々トシテ流傳セリ殊ニ傳教弘法ノ二大師ハ俱ニ曠世ノ英傑ヲ以テ日本ノ旭日時代ヲ形造ル想フニ二師ハ嘗ニ王公貴紳ノ歸依ヲ得テ満足スルナク廣ク天

下ニ巡化シテ四民ノ信仰ヲ博セリ且ツ二師ノ經世的事業ニ於テハ誰カ敬服セサランヤ翻テ二師カ教法上ニ於ケル奏功ノ次第ヲ窺フニ夫ノ本地垂迹ノ說ハ勿論教大師ノ如キハ日本天台トモ稱スヘキ獨特無類ノ一宗ヲ興シ大ニ法華一佛教ノ眞價ヲ顯スノ便セリ而シテ法大師ニ至テハ更ニ驚クヘキ者アリ其所立ノ義途ハ卓絶獨歩セリ其所歸ノ旨趣ハ深遠不可測ナリ若夫レ進歩發達ノ語吾佛教ニ亦タ當欲ルモノトスレハ佛教ノ理論ハ此時既ニ絶頂ニ達シタリト謂ハザルベカラス大師嘗テ言フコトアリ曰ク文ハ執見ニ隨テ隱レ義ハ機根ヲ逐テ顯ハルト大師眞ニ吾人ヲ欺カサルナリ

傳教、弘法以後二三百年ハ智德兼有二利雙修ノ高僧續々輩出シ法燈ヲ挑ケ群生ヲ度スル故ニ君臣歸依シ上下尊信シ隆盛ナルコト敢テ二師ノ時ニ讓ラサリシカ降テ承曆永保ノ頃トナリテハ内部ノ腐敗此ニ兆シ僧徒ノ弊害此ニ發シ各宗各派ノ間平和ナル教義ノ戰爭ハ一轉シテ腕力ノ鬪爭トナリ南都北嶺三井ノ群僧等互ニ間隙ヲ爲シ或ハ兵器ヲ弄ヒ王法ヲ侵シ遂ニ夫ノ英邁ナル法皇ヲシテ端ナク三不如意ノ嘆ヲ爲サシメ奉ルニ至ル法門ノ衰頽ト云ハサルベケンヤ爾來不和鬪爭歇マズ腐敗増シ亂行募リ源平時代ニ至リテハ當時僧侶タリシ者ハ壯

士的ナルニ非サレハ風月のナリ壯士の一派ハ名利崇拜ノ奴輩ニシテ風月のノ一類ハ一個ノ營養是レ計ルノ者流ナリ豈ニ此等ニ向テ濟世主義ノ實行ヲ望ムヲ得ンヤ衰頽ノ極此ニ至ルヤ之ヲ慨キ之ヲ嘆シテ其復興ヲ計ルモノ陸續現ハレタリ於是カ第三期初マル

鎌倉ノ代ニ禪宗及ヒ淨土宗興リ北條ノ代ニ一向宗、日蓮宗、時宗、大念佛宗興立ス禪宗ハ甚タ武士氣質ニ適ヒ最モ武人社會ニ行ハレ淨土宗ハ群生一般ノ歸依ニ便ニシテ多數人民ノ信仰ヲ博セリ左ニ其傳來ノ一斑ヲ述ブレハ

禪宗 ノ濫觴ハ聖武ノ朝及ヒ桓武ノ朝ニアリシ然レモ遂ニ開宗セラレスノ終リタリ其開宗ハ之ヲ鎌倉時代以後ニ求メサルヘカラス今日ノ禪門ハ臨濟、曹洞、黃蘗ノ三宗成立テリ而ノ最モ初ニ開レタル者之ヲ臨濟派ノ禪門トナス即チ榮西ノ所傳是レナリ西禪師ハ仁安年中ニ宋ニ赴キ台教ヲ學ヒ文治ノ末再ヒ入宋ノ萬年寺ノ懷尙禪師ニ就テ教外別傳ノ心印ヲ授ガリ歸朝ノ之ヲ唱導ス源賴家深ク之ヲ信仰シ爲ニ建仁寺ヲ立ッ是レ臨濟宗ノ起源ニシテ本邦禪宗ノ創開ナリ、曹洞派ノ禪門ハ道元禪師ノ所傳ナリ師ハ後堀河天皇ノ御宇貞應二年宋ニ航シ天童山如淨禪師ニ遇フテ洞門ノ眞訣ヲ傳ヒ建長中歸國シテ之ヲ弘ム時賴、時宗、貞

時等深ク之ヲ崇信ス、今日洞宗ノ本源ハ即チ是ナリ後光明天皇ニ御代ニ當テ支那黃蘗山ノ隱元禪師來朝シテ一宗ヲ立ッ之ヲ黃蘗宗ト云フ

淨土宗 ハ高倉ノ朝ニ圓光大師ノ創開シタルモノナリ是ヨリ先キ空也、永觀、惠心ノ三僧各々念佛ヲ修行シ往生ノ道ヲ弘通セシコトアリシカ是レ一時ノ勸進ニシテ歇ミタリ一向宗 ハ圓光大師ノ高弟、見真大師ノ興シタルモノナリ淨土一向其宗義ヲ異ニスルモ共ニ道綽善導ノ淨土教ニ根據ヲ置クハ一ナリ

日蓮宗 ハ日蓮上人ノ新立スルモノニシテ天台ニ據リ更ニ一機軸ヲ出セルモノナリ時宗 ハ一遍上人ノ創立スル所ニシテ上人空也ノ先縱ヲ踏ミ海内諸國ヲ周遊シテ念佛修行ヲ勸進セリ故ニ別稱シテ遊行念佛宗トモ云フ上人ヲ呼テ遊行上人ト云フ大念佛宗 ハ良忍上人ノ開基シタル宗旨ナリ

已上佛教史ノ一斑ニシテ之ヲ詳カニ論述スレハ大卷廣帙ノ書冊ヲ待タサルベカラス、然レトモ今其要畧ヲ摘ミ骨子ヲ拔キ以テ一場ノ講說トスルニハ先ツ上來ノ所述ニ出テザルベシ若夫レ佛教ノ玄海ヲ汲ミ玄海ノ遺珠ヲ得ントスル人ハ請フ之ヲ教界博識大家ノ門ヲ叩キ釋

然其疑網ヲ解シテ要スルナリ
尙ホ佛教史ノ遺漏ヲ補ハシメテ次段ニ日本佛教各宗門派ノ一覽ヲ表示シ併セテ全國著名ノ諸寺院ヲ摘載ス

第九章 各宗門派一覽

*印ハ現今廢絶シタル宗門ナリ

華嚴*	三論*	法相*	律台	天台	真言	俱舍*	真言	成實*
天	寺門派	真盛派	四條派	市屋派	靈山派	國阿派	一逼	宗相
開祖	最澄	開祖	開祖	法融	義淵	宗佛	宗相	宗相
古義派	新義派	空海	開祖	開祖	開祖	開祖	開祖	開祖
淨土	鎮西派	西山派	源空	源空	源空	源空	源空	源空

開祖良忍
諡號聖應大師

禪	臨濟	曹洞	黃蘗	眞	宗
始祖榮西	開祖道元	開祖劉琦隱元	本願寺	本願寺	本願寺
日蓮	妙滿寺派	八品派	興正寺派	佛光寺派	山元派
一致派	本隆寺派	勝劣派	三門徒派	高田派	高田派
開祖	開祖	開祖	開祖親鸞	見真大師	見真大師

全國著名寺院

天台宗

寺號	國名	門派	創立年	開基	開山
延曆寺	近江	寺門	延曆七年	桓武天皇	僧最澄
園城寺	全	寺門	朱雀元年	大友與多主	僧教待
圓滿院	全	寺門	長久元年	僧明尊	僧明尊

聖護院	山城	全	寬治四年	僧增	譽僧增
實相院	山城	全	建久年間	僧圓忠	僧圓忠

真言宗

教王護國寺	山城	延曆十五年	桓武天皇	僧空海
金剛峯寺	紀伊	弘治七年	嵯峨天皇	僧空海
圓明寺	全	神龜六年	役小角	僧覺鑿
長谷寺	大和	天正十五年	僧豐德	僧德譽
智積院	山城	慶長元年	德川家康	僧玄宥
仁和寺	全	仁和二	宇多天皇	寬平法皇
大覺寺	山城	貞觀十八年	淳和天皇	恒山叔法親王
醍醐寺	山城	全十六年	清和天皇	僧聖寶
護國寺	武藏	新義	天和二	德川綱吉
				僧亮賢

法相宗

法隆寺	大和	推古天皇十五年	廐戶皇子	廐戶皇子
興福寺	全	不詳	齊明天皇	僧玄昉

淨土宗

智恩院	山城	承安四年	僧慈鎮	僧源空
禪林寺	全	齊衡二年	文德天皇	僧真紹
增上寺	武藏	明德四年	齊藤道真	僧聖聰
金戒光明寺	山城	安元元年	僧太田	僧源空
智恩寺	全	應永年間	僧源	僧源空
清淨華院	全	貞觀二年	清和天皇	僧仁圓
光明寺	全	建久九年	四條天皇	僧源空
圓福寺	全	建長三年	後深草天皇	僧圓空

誓願寺 全 全 天智天皇六年 天智天皇 僧惠隱

時宗

清淨光寺 相摸 正中二年 僧吞海 僧一 遍

無量光寺 全 當 嘉永年間 僧內阿 僧內阿

金蓮寺 山城 四條 嘉慶年間 僧淨阿 僧一 遍

金光寺 全 市屋 弘安七年 僧作阿 僧一 遍

金光寺 全 遊行 正中年間 僧吞海 僧一 遍

蓮花寺 近江 一 向 僧一 遍

正法寺 山城 靈山 僧國阿 僧一 遍

雙林寺 全 國阿 僧國阿 僧他阿

臨濟宗

新善光寺 常陸 解意 僧解意

曹洞宗

天龍寺 山城	相國寺 全	建仁寺 全	南禪寺 全	妙心寺 全	建長寺 相摸	東福寺 山城	大德寺 全	圓覺寺 相摸
興國四年	元中元年	建仁二年	正慶二年	延元二年	建長五年	嘉禎二年	正中元年	弘安五年
足利尊氏 僧 踈石	足利義滿 僧 妙葩	源賴家 僧 榮西	龜山天皇 僧 普門	花園天皇 僧 慧玄	北條時賴 僧 道隆	藤原道家 僧 辨圓	後醍醐天皇 僧 妙超	北條時宗 僧 徂真

永平寺 越前 總持寺 能登

寬元二年 元享元年 波多野義重 僧道元 僧瑩山

黃 檗 宗

萬福寺山城 寬文元年 德川家綱一僧隱元

融通念佛宗

大念佛寺攝津 大治五年 僧良忍 僧良忍

眞 宗

本願寺山城	文永九年	僧親鸞	僧如信
大谷	慶長七年	僧親鸞	僧光壽
高田	嘉祿元年	僧親鸞	僧親鸞
木邊	全	全	全
興正寺	文明八年	全	僧經豪
全	建曆二年	全	僧親鸞
出雲寺	天福五年	全	全

日蓮宗

證誠寺越前	山本	承元元年	僧親鸞
誠照寺全	誠興寺	弘安二年	僧如寬
專照寺全	三門徒	正應三年	全

久遠寺甲斐	文永十二年	波木井實永	僧日蓮
本門寺武藏	全	池上宗仲	全
妙顯寺山城	元享二年	不	僧日像
本國寺全	建長五年	不	僧日像
法華經寺下	全	富木胤	僧日蓮
妙滿寺山域	康應元年	僧日繼	全
本門寺駿河	永仁六年	僧日什	僧日什
大石寺全	正應三年	僧日興	全

本門寺	全	全	興仁六年	全	僧日代
妙蓮寺	全	全	元享三年	全	僧日華
久遠寺	全	全	建武三年	全	僧日鄉
妙本寺	安房	全	全	全	僧日尊
要法寺	山城	全	延曆元年	全	僧日尊
實成寺	伊豆	全	正安三年	全	僧日尊
光長寺	駿河	八品	建治二年	不	僧日蓮
鷲山寺	上總	全	建治三年	小早川内記	僧日辨
妙蓮寺	山城	全	永仁二年	不	僧日象
本能寺	全	全	應永廿五年	山本宗司	僧日隆
本禪寺	山城	本成寺	全	不	僧日陳
本隆寺	全	本隆寺	長享二年	中山親道	僧日眞
本興寺	攝津	八品	應永廿七年	細川右京太夫	僧日隆

第十章 喇嘛教一斑

本成寺 越後 本成寺 永仁五年 長尾 某僧 日印

喇嘛教モ佛教ノ一種ナリ喇嘛教ニ二派アリ一チ黄教ト云ヒ一チ紅教ト云フ共ニ釋迦ヲ祖トス、周末ノ頃始メテ印度ヨリ西藏ニ入ル後チ拔思發ナルモノアリテ紅教ヲ起ス西藏、蒙古、滿洲ニ行ハレ直隸、山西、陝西、甘肅、四川、各省ノ地ニ及ブ支那帝ノ信仰スル所ノモノチ黄教トス黄教ハ宗喀巴ヨリ創ル宗喀巴一名チ羅卜藏札克巴ト云フ明ノ永樂年中西寧衛ニ生レ西藏ノ甘丹寺ニ得道シ成化十四年示寂ス初メ喇嘛教徒皆チ紅綺ノ禪衣ヲ服ス本ト印度ヨリ傳來スル袈裟ノ舊式ニ法トレリ而シテ紅教ハ專ラ密呪ヲ持ス其流弊遂ニ火ヲ吐キ刀ヲ呑ムチ以テ俗ヲ惑シ殆ト巫者ト異ナルコトナシ宗喀巴初メ紅教ヲ修シ既ニシテ深ク紅教ノ改革スベキヲ知ル即チ衆チ會シ自ラ其衣冠ヲ黄ニス此ニ於テ黄教初メテ興ル又其二大弟子ニ遺囑シ世々呼畢爾半化身ヲ以テ轉世シ大乘經ヲ演ヘシム二大弟子一チ達賴喇嘛ト云ヒ一チ班禪喇嘛ト云フ皆チ死スルニ臨ンテ其再生スル所ヲ指示ス果シテ其徵アルチ以テ神聖トシ弟子之ヲ迎ヒ取テ之ヲ立ツ故ニ常ニ輪迴己マス本性不滅トシテ達賴、班禪ノ二人歷世互ニ喇

喇嘛教ノ師トナルモノトス而シテ紅黃二教ノ異ナル所以ハ紅教ハ妻ヲ娶リ子ニ傳ヘ黃教ハ妻
 ヲ娶ラス化身轉世ヲ以テ傳來ス、又喇嘛教徒ノ道行並ヒ高クシテ轉世スルモノヲ胡國克特
 ト稱シ達賴及ヒ班禪之ヲ印證シテ教化ヲ分掌セシム達賴班禪及ヒ胡國克特ノ示寂セシキ世
 ニ轉世シタル呼畢爾半ヲ尋ルハ向キニ達賴喇嘛所囑ノ拉穆吹忠ナルモノ、設ケシ法ニ由リ
 神ヲ其體ヲ降シテ呼畢爾半ノ所在ヲ指出シ而シテ之ヲ訪迎スルノ例ナリシモ乾隆帝其妄ヲ
 斥ケ之ヲ改革シ特ニ金瓶一ヲ西藏ナル布達拉ノ大寺ナル大昭ニ設ケ一ヲ北京ノ雍和宮ニ設
 ケ報出スル呼畢爾半數人ノ名字生時ヲ記シテ此瓶中ニ納レ製定セシムルコトナレリ現今支
 那帝ハ喇嘛教ヲ以テ慄悍ナル蒙古人ヲ御スルノ方便トセリ
 尙ホ第六篇第二章道教ノ部ニ於テ現今ニ於ケル喇嘛教師ノ像アリ就テ之ヲ見ルヘシ

第 參 篇 洋 教

第 壹 章 洋 教 總 論

上下茫茫數千歲國ハ列星ノ碧空ニ燦然タル如ク人ハ瓦石ヲ陶化シテ黃金トナスノ人、文物
 開明以テ宇内萬國ノ權勢ヲ集聚シ人トシテ富豪ヲ極メサルナク物トシテ快樂ヲ極メサルハ
 ナシ嗚呼歐米ノ國勢一ニ何ソ斯ノ如ク隆ンナルカ夫レ人生ヲシテ無上ノ快樂ヲ與ヘ國家ヲ
 シテ無上ノ文化ニ進マシムルノ基礎タルモノ果シテ何トカ爲ス歐米ノ國務ヲシテ今日ノ旺
 盛ニ立到ラシメタルモノ果シテ何トカ爲ス他ナシ宗教ノ勢力茲ニ及ビタルモノニ非ズシテ
 何ソヤ社會ニ於テ要素タルモノ誠ニ宗教ノ外ナキナリ豈ニ夫レ鑒察セサル可ケンヤ
 猶太教、羅馬教、希臘教、新教、回教、此等ヲ結ンテ洋教ト稱スベシ此等宗教中教義ノ
 是非邪正等ナキニ非ズト雖モ概シテ之ヲ言ヘハ人ヲシテ安心立命勸善懲惡ノ印象ヲ與ヘタ
 ルモノナルコト明カナリ故ニ今マハ各宗教ノ本義トスル所ヲ述ベテ敢テ教義ノ邪正ヲ判別セ
 サルナリ其教義ノ意ニ適スルト否ヤトハ之ヲ讀者ノ認評ニ任スヘシ

抑々歐洲各國人民カ古來奉信スル所ノ宗教其數一ナラス又其教義モ一ナラスト雖モ俱ニ是レ聖經ニ載スル所ノ上帝啓示ノ道ト行ヒトノ本源ニ依憑セルモノナルコトハ各國各教一ナリト謂フヘシ夫レ聖經即チ「バイブル」ナルモノハ素ト猶太人ノ手ヨリ出ヅ是レ其ノ本據ナリ洋教ノ説ク所ニ依レハ此經ハ是レ上帝ノ猶太人ニ啓示スル所ノ至極ノ道行ニシテ之ヲ以テ無上本源ノ經典トセリ而シテ猶太人ハ之ヲ神聖トシテ數百年間國人ノ手ニ護持セリ抑モ聖經ニ二種アリ一チ舊約書トシ一チ新約書ト云フ新約ハ耶蘇基督ノ舊約ニ就テ改正セシモノニテ且ク其純雜ヲ論スレハ新約ハ後人ノ説トシテ雜體タルヲ免カレヌ故ニ純成無雜ナル舊約ハ獨リ上帝ノ真意ニ叶ヘタリト猶太人ハ信セリ斯ク經典ニ新舊ノ區別立チシハ後年ノ事ニシテ最モ洋教ノ源礎タルモノハ實ニ舊約タル書ニアリト謂フベシ

舊約ハ往古猶太人ニ關スル上帝ノ約束ナリ抑モ猶太ハ亞細亞ノ西部ハレスチナノ地方ニシテ今ハ土耳其領ニ屬セリ蓋シ最大陸中央ノ地ナリ開闢ノ初メ闔地未タ人畜ヲ棲マシメス上帝先ツメソポタミアノ一地ヲトシ埃田ト名クル樂園ヲ設ケ始メテ人ヲ造リ此地ニ置キ闔地人ノ祖先トナセリコレ今ヨリ六千年或ハ七八千年以前ノ事ナリキメソポタミアハ猶太ノ東

北數日程ノ所ニアリ爾後二千或ハ三四千年ヲ支那ノ始トシ又千五百年或ハ二千年ヲ日本ノ始トス夫レ上帝ハ無始無終永遠不變ニシテ全智全能ナレモ人目其形ヲ見ル能ハス人耳其聲ヲ聞ク能ハス天ヲ寶位トシ地ヲ足筵トセリ而シテ上帝曾テ已チ頌美セシメンガ爲メニ人間ヲ造テ地上ニ置キ地上ノ萬物ヲ治理セシメ加フルニ自主ノ權ヲ以テセリ茲ニ於テ人其權ヲ妄用シ恒ニ惟々慝ヲ作シ初メテ帝意ニ逆戻セリ是則チ罪ノ起原ニシテ人地上ノ幸福ヲ自棄スル所以ナリ老死衰病艱厄厄者ナ是ヨリ地上ニ行ハル上帝既ニ其此ノ如クナルヲ察シ曾テ責罰ヲ加フルト雖モ亦預メ至仁ナル救濟ノ方ヲ施シ特ニ一民ヲ脫シ之ヲ聖別シテ撰民トナシ之ヲ豐饒ナル猶太國則チ古ノカナノ地ニ遷シ常ニ惟一ノ上帝ニ奉事セシメ且ツ預言者ヲ起シテ罪ノ畏ルベキコトヲ誨ヘ時熟スルニ及テ救世主ヲ降生セシメンコトヲ告ゲシメタリ其上帝ニ奉事スルノ方法ハ猶太ノ耶路撒冷ヲ以テ神殿ノ在所トナシ廣大美麗ナル宮殿ヲ建テコレニ祭司ト參司長等ヲ置キ祭祀ノ事ヲ掌ラシメ年々嚴肅ナル犠牲ヲ獻シテ贖罪ノ祭ヲ行ハシム是ヲ以テ耶路撒冷ハ猶太ノ首都トナリ國體ハ政教一致ニシテ國王ト祭司長トハ共ニ當時人間無上ノ尊爵ヲ有セリ預言者ハ道士ノ風ヲ帶ヒ政官又ハ教班ノ外ニ立チ悠然閑日月

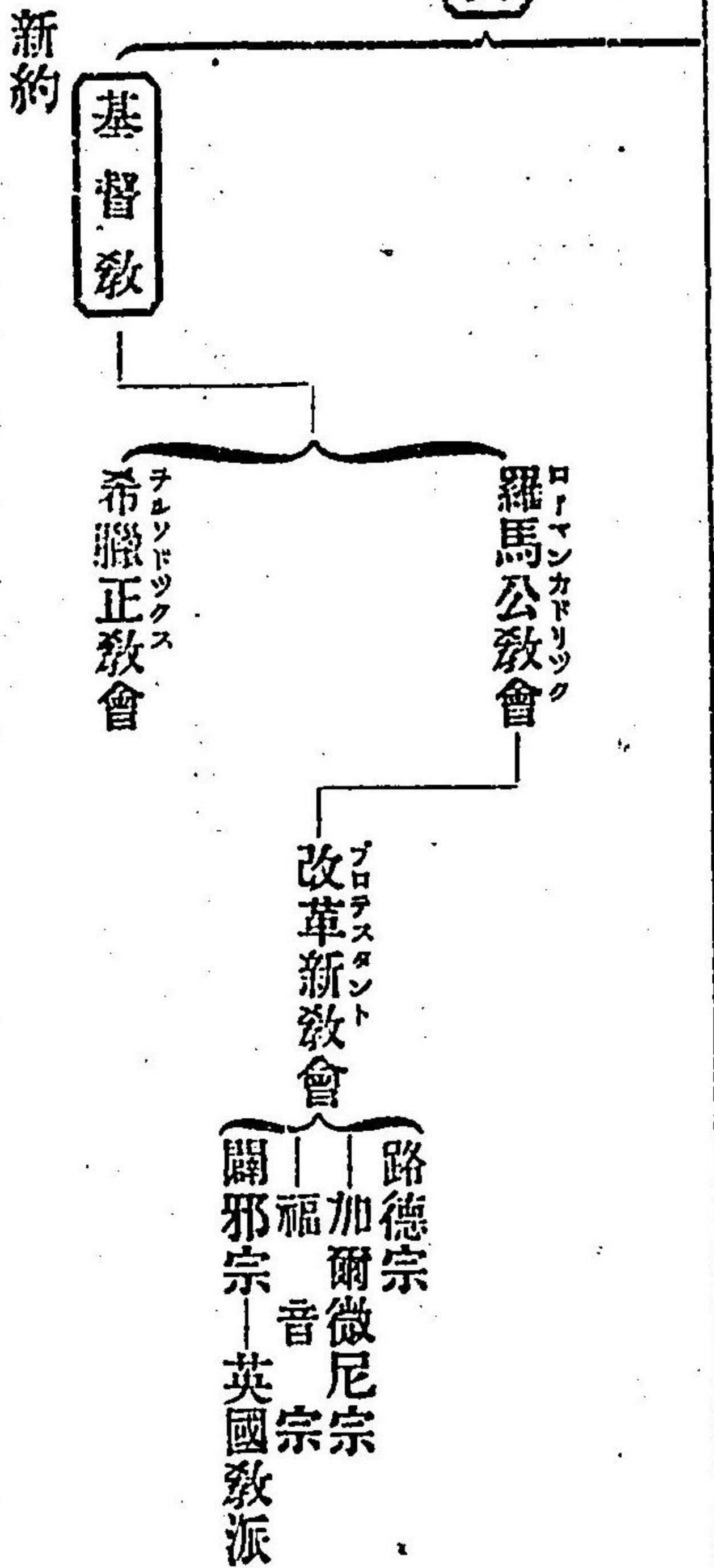
ナ樂ム而ノ此預言者ハ一種特別ノ天爵ヲ有シ屢々奇跡ヲ行フテ其上帝ノ使命ヲ佩フルヲ顯
 揚セリ希伯來經典即チ舊約ノ書ハ三十九卷アリ二十餘人ノ先聖又ハ豫言者等カ上帝ノ默示
 感格ニ由テ書札ニ筆シ或ハ歌頌ニ詠セシモノニテ人類ノ創造ヨリ巴比倫人ガ猶太ヲ劫掠ス
 ル迄ノ事ヲ記シ其大別ハ律法、歴史、教誨、預言等ヨリ成レリ律法ハ摩西之五經即チ卷首
 ノ五書ヲ包括シ預言書ハ細分シテ前後二篇ト爲ル前編ハ約書亞記、士師記、撒母耳記、及
 ヒ列王紀畧ノ衆書ヨリ成リ後篇ハ以賽亞、耶利米、以西結ノ三大豫言書ヨリ成ル猶太人ハ
 之ヲ以テ無上ノ眞教トセリ而ノ基督信徒ハ亞力山大ノ譯例ニ倣ヒ之ニ加フルニ但以里及ヒ
 小預言書ノ諸書ヲ以テセリ舊約ノ第三部（律法ヲ第一部トシ諸預言ヲ第二部トス）ハ紀百
 紀、箴言、詩篇、所羅門之雅歌、傳道書、路得氏記、哀歌、以士帖記、但以里、以士喇、
 及ヒ第一第二歴代志ヨリ成レル聖書ヲ包括セリ前後數書ノ順序ハ七十士譯經典、教會教父
 及ヒ路德ノ彙類ト猶太人ノ彙類トハ互ヒニ其意見ヲ異ニセリ次ニ新約ハ救世主ナル耶蘇基
 督ガ身ヲ犠牲ニ供シテ贖罪ノ祭ヲナシ新ニ救濟ノ約束ヲ立テシ者ナリ然レモ別主義ヲ開キ
 シニハアラス止テ舊約ヲ成就セシニアリ又基督一世ノ言行ヲ記シテ福音ト名ケ四種ノ卷冊

トナシ聖神ノ作勳使徒ノ傳教等ヲ録シテ使徒行傳ト名ク其他使徒ノ書簡ト默示ノ書トナ合
 セテ一部廿八卷アリ此記者八人ニシテ基督降世後百年以內ノ著作トス而ノ新約聖書ハ猶太
 人之ヲ擯斥シテ取ラスト雖モ同シシ猶太人ノ手ニ成レリ故ニ耶蘇曰ク人世ノ罪障ヲ救フハ
 猶太人ノ手ヲ假ルト故ニ洋教諸宗ノ起源ハ猶太教ニアルコトヲ知スヘシ猶太教ニハ亞伯拉
 罕ヲ鼻祖トシ摩西ヲ以テ中祖トス而ノ此二祖又タ洋教總體ノ教祖ト稱スルヲ得ヘキナリ故
 ニ洋教ノ來歴ヲ述フルニ先ツ猶太教ヨリ述フルヲ順序トス依テ次ニ其教ノ教旨等ヲ明スヘ
 シ而シテ「バイブル」即チ經典ナル語ハ希臘語ノ「バイブリア」羅甸語ノ「ライベルリ」ヨリ
 轉訛セシモノニテ其意ハ小冊子ノ義ナリ紀元後第四世紀キリソストム氏撰メテ此語ヲ用出
 シ基督信徒カ默示教ノ教書ト認ムル聖書ニ題セシナリ今洋教ノ分立セシ次第ヲ圖シテ讀者
 ノ便覽ニ供スヘシ

舊約

猶太教

希伯來經典



第二章 猶太教

教旨及祭式

猶太教ノ教旨即チ十三條ノ規律ヨリ成ル、今之ヲ約載スルニ左ノ如シ、上帝ノ在ルアルヲ信シ、其唯一無形常存不死ニシテ黎庶ノ獨リ拜スヘキモノタルヲ信シ、預言者ノ諭告ヲ信シ且ツ摩西ヲ以テ其首導トシテ之ヲ信シ、摩西ハ萬古不易ノ授法者タルヲ信シ、上帝ハ人ノ意思行爲ヲ洞知シテ善ヲ賞シ惡ヲ罰ストイフヲ信シ、救世ノ當ニ世ニ出ツヘキヲ信シ、

其時ニ方リテハ死者ノ魂再ビ蘇回スベシト云フヲ信スル是レナリ、此十三條ノ規律ハ其素舊約書ノ意ヲ承ケテ立教セルモノナリ、而ノ教徒又タ多兒革謨西ト稱シ希伯來經文ヲ迦勤底語ニ反譯セル書及ヒ多兒沒士ト號シ口碑ニ傳フル神法訓戒等ヲ載スル書等ヲモ尊信セリ、方今猶太教徒カ最モ重要ト爲シテ研究スル所ハ迦巴刺學ナリ、其學ハ神ノ性質神使ノ現存スルヲ及ヒ其實跡等ノ事ヲ臆量スル所ノ說ヲ集メタルモノニシテ、旁ラ聖經ノ意ヲ字體句數等ニ照シテ、奇異幽遠ノ解釋ヲ爲シタルモノナリ、而ノ教徒ハ此學ノ本源ハ上古ヨリ最モ密授ノモノニシテ完全無欠ノ理學ナリシモ、後世迂僧ノ爲メニ大ニ其本旨ヲ壞滅セリト云ヘリ、

猶太教徒カ行フ所ノ拜神式其數多岐ニシテ筆紙能ク盡クス能ハサルナリ、今其中重式ナル祭式ヲ掲ケテ、纔ニ其一班ヲ知ラシム

第一、新年祭 此日教會ノ中選ニ當ルモノ處テ期シテ角ヲ吹ク、教徒此日ヲ以テ天地初メテ開闢シ、上帝初メテ此世ヲ統御スルノ紀元日ト爲シ、特ニ祝シテ角ヲ吹クト云フ、此祭式ハ教徒ノ最モ重ナル禮ニシテ、凡ソ各教會ニ列スル者ハ時ニ先チテ豫シメ之ヲ知リ、

各其會ニ臨マシムヘキカ爲メニ、數日前ヨリ此式ヲ行フノ準備ヲ爲ス、凡ソ教徒ハ前夜六時ヨリ戒食シ、此日角聲ヲ聞クニ至ルマテ、食ヲ喫スルヲ許サス、故ニ吹角ノ地ヲ距ル遠キニ居ルモノハ、必ス角聲ノ達スル處ニ來ラサルヲ得ス、富者ハ爲メニ其室ヲ開キ、遠人ヲ迎ヘテ之ヲ聞カシム、又教徒カ普通ノ説ニ此日ハ上帝衆人ガ前年ノ所行ヲ審覈シ、本年中其生死ノ判定ヲ扱ムルノ日ト爲ス、故ニ教徒等相逢フキハ、君カ名ハ慶福新年ノ簿上ニ登ルベシトイフヲ以テ新年ノ祝辭トセリ、

第二、贖罪日 新年祭ヲ去ル十日ニシテ贖罪ノ日アリ、此兩節ノ間ハ教徒ノ専ラ小心懺悔スヘキノ時ト爲ス、是此日ニ至テ上帝正ニ其審覈ヲ畢ヘ、生殺ノ命ヲ降スノ期ト爲セハナリ、此時昔ノ宵ニ於テ教徒式ハ一異式ヲ行フモノアリ、祭ルニ純白ノ雄鶏ヲ以テシ、之ヲ殺スモ亦最モ嚴肅ノ貌ヲ以テセリ、乃チ其新故朋友ヲ會シ、主人死鶏ヲ取り、立テ之ヲ座客ノ頭上ニ揮推スルヲ九回、念誦シテ曰ク、冀クハ此牲ヲ以テ吾輩ノ罪ヲ贖フニ足ランヲナト、此日モ又日晷ニ至ルマテ嚴ニ斷食ス、波蘭ノ教徒ニ至リテハ、其最モ敬謹ヲ盡スヲ表セシ爲メ此日已カ死後ノ葬處ト豫定スル所ニ到リ、拜神ノ禮ヲ行フヲ例トセリ

第二、聖帳會

越テ五日ニシテ凡ソ七日間之ヲ行フ此會ノ初日ニ集拜堂ニ詣ルモノ皆十扁

桃、柳枝、長春樹枝等ヲ拘束シ拘櫛子ヲ挿ミ狹帛ヲ以テ裝飾セルモノヲ携ヘテ行ク貧者ノ

資力乏シクシテ此式ヲ行フ能ハサルモノハ富者ノ邸中ニ於テ此設ヲ爲ス

第四、新月祭 此祭ハ専ラ盛饌ヲ饗スルニ意ヲ用ヰル迄ニテ左程謹肅ノ禮ヲ要セス

第五、潔淨祭 此祭ハ上古アンチキニスエプアチルカ神壇上ニ於テ牝羊ヲ殺シ聖地ヲ

汚セシニ依リマツカピース爲メニ兵ヲ起シテ之ニ勝ツノ後其汚穢ヲ清淨スル爲メ神壇ノア

ル所ノ堂ヲ再建セシヲ追想シテ行フ所ノ祭ナリ

第六、卜日祭 此祭ハ加南カ惡計ヲ發見シテ之ヲ殲セシヲ追想スルカ爲メニ設ル所ナリ

前夜ニ於テ教徒拜堂ニ集マリ埃及記篇ヲ取テ之ヲ讀ム此時加南ノ名ニ至ル毎ニ小木槌ヲ以

テ周圍ノ牆壁等ヲ槌ツ之レ加南ノ人ト爲リテ憎ムノ意ヲ表スルナリ

第七、踰越節 此祭ハ其祖先以色列人カ嘗テ埃及ヲ出シ日ヲ記スル聖期ニシテ萬民ノ間接

ニ幸福ヲ得タルハ論ナク特ニ以色列人ハ直接ニ幸福ヲ享ケタルヲ最モ大ニシテ一夜ノ中ニ

埃及多年ノ羈軛ヲ脱セリ此祭禮前ニ安息日アリ名ケテ大安息日トイフ方今行フ所ノ式ハ概

概

シテ左ノ如シ

祭日ニ方リテ拜堂ヨリ歸來レハ舉家一食事ニ圍座シ奴婢モ又之ニ陪スルヲ得其食卓ハ極メテ壯麗ニシテ數器ヲ据エ盛ルニ百味ヲ以テス鹽水ヲ滿ルアリ節餅ヲ粧フアリ燒羊骨片ヲ載スアリ或ハ羊肉ヲ型シテ臼狀ト爲スモノヲ用ニ皆ナ之ヲ被フニ苦味ノ蔬菜ヲ以テス家主先ツ葡萄酒一盞ヲ飲了シ拜神ノ文ヲ誦スルヲ數回スレハ一座皆之ヲ享ク次テ太關カ聖詩ヲ歌フ是レ其祖先ガ摩西ニ隨テ埃及ヲ逃レシ時ノ事ヲ追想スルナリ詩中埃及十患ノ事ヲ載ス歌テ其句ニ至レハ一座皆ナ其指ヲ酒ニ浸スナリ是ニ於テ餅ヲ擘テ之ヲ食ヒ禮闈ハニシテ衆立テ羊骨ヲ撫ス是レ踰越節的ノ羊ヲ記スナリ又祭間葡萄酒一盞ヲ預言者越利遮ニ供ス是レ教徒カ此預言者此日ニ方リテ各人ノ家ニ到ルト爲セハナリ越利遮ハ聖經中最モ俊偉ノ預言者ニシテ猶太宗徒ハ以テ救主來生ニ先テ再來スベシトセリ此節ニ作ル所ノ餅ハ專テ麵粉ト水ノミヲ用井嚴ニ酵母ヲ避ケ祭日ノ間ハ蒸餅ニ代ヘテ之ヲ食フナリ

第八、五旬節 又ハ七日節ト云フ此日ハ摩西カ十條誡ヲ授クルヲ記スル日ニテ甚タ嚴肅ヲ極ムル祭式ナリ

極ムル祭式ナリ

右ノ外小祭戒食ノ式抄シトセス本教ノ古者言ルコアリ蒼穹ヲ以テ洋紙トシ滄溟ヲ以テ墨汁トシ飛鳥ノ翅ヲ集メテ筆ト爲スモ我教徒ノ習禮ヲ記シ盡スコ能ハスト以テ其多種ナル知ルヘシ次ニ禮拜儀式ニ關スル諸項ヲ舉クレハ平素ノ禮拜ニハ縵帕ヲ以テ其面ヲ掩ハサレハ應驗ナシトス而シテ祈文十九首ヲ誦スルコト三回聖經中ノ要文ヲ讀ムコト兩回スルヲ要ス又拜堂ニ會スル者男ハ專テ中堂ニ坐シ女ハ周圍ノ閣上ニ坐ス閣ハ屏スルニ柵欄ヲ以テス其集拜堂ニ出ルニ方リテハ他帕ヲ用ユ男子ハ其私拜(自家ニ行)公拜(拜堂ニ行)ヲ問ハス經牌ヲ帶フルヲ例トス經牌トハ聖經ノ文章ヲ帕上ニ記セルモノニテ之ヲ其頭及腕ニ被フ爲メニ用ユルナリ又教徒カ最モ嚴肅ニ勤行スヘキ式ハ勢皮ヲ斷ツノ式ナリトス凡ソ子生ル、キハ其父教師ニ贈ルニ錢ヲ以テス之レ其子ノ罪障ヲ贖フノ意ナリ又教宗ノ者ハ男女ノ寡居ヲ禁ス而シテ十八歳ヲ其婚期トス婚禮ノ日ニ方リテハ教師先ツ祝酒ヲ把リテ祈文ヲ誦ヘ了リテ婦郎ニ傳フ郎乃チ其指環ヲ把テ婦ノ指ニ申シ信愛渝ルヘカラスト誓フ是ニ於テ第二盞ヲ傾ケ空盞一ハ之ヲ郎ノ前ニ置ク郎起テ之ヲ踐ミ碎ク此時座客一齊ニ能事畢ルト呼ヒ婚禮了ルヲ禮トス、又公會ノ拜堂ニハ必ス俗務ノ會社ヲ附シ病者ヲ惠ミ葬費ヲ資ク等ノ事務ニ掌ラシム故ニ貧

者ハ無論富人ト雖トモ其惠ヲ受クルコアリ而シテ教徒ノ死スル者アレハ人ナ都會ノ地ニ遺シテ之ヲ公告ス使人携フルニ一ノ銅錢函ヲ以テ途上ニ於テ屢ハ之ヲ搖鳴ス逢フモノハ之ヲ誰何シ多少ノ贖錢ヲ函中ニ投ス是レ同錢ヲ以テ葬費ニ充テ又ハ遺族ニ給スルナリ又教徒ノ墳穴ハ必ス豫メ之ヲ穿テ置キ新ニ之ヲ穿ツチ好マヌ若シ新ニ穿ツモノアルヲ聞クハ墳墓ヲ汚ストシテ之ヲ忌嫌フナリ

教祖及分派

本教ノ教祖トシテ敬崇スルハ前章ニ述ヘタル如ク亞伯拉罕及ヒ摩西ナリ故ニ本教ヲ以テ亞伯拉罕宗或ハ摩西宗ト稱セリ而シテ此兩祖ニ繼テ一宗ヲ擴張ノ版圖ヲ廣大ニセシハ大關及所羅門ノ二人トス之ヲ猶太教ノ四傑ト種セリ今四傑ノ傳ヲ叙スヘキ處ナレモソハ後段史傳ニ於テ叙ス今マ鼻祖タル亞伯拉罕ノ畧傳ノミチ茲ニ叙スヘシ

亞伯拉罕初メアブラム(貴父ノ意)ト云フ紀元二千八百年前ノ人、人祖十九世ノ嫡孫ナリ父ヲ太拉ト云フ齡七十有五ニシテ摩哩ノ椽樹下ニ於テ親リ神ヲ拜シ直ニ祭壇ヲ築イテ之ヲ崇奉ス神嘗テ亞伯拉罕ノ信仰如何ヲ試ンガ爲メニ之ヲ呼テ曰ク予レ此ニ在リ汝カ鍾愛スル所

ノ一子以撒ヲ携ヘ摩哩ニ往キ予カ示ス所ノ山ニ於テ之ヲ燒キ以テ予ニ獻身スヘシト亞伯拉罕是ニ於テ夙ニ起キ驢ヲシテ柴ヲ負ハシメ二僕及ヒ一子以撒ヲ携ヘ將ニ神ノ示ス所ノ地ニ詣ラントシ中途ニシテ僕ニ命シテ曰ク汝ト驢トハ姑ク此ニ待ツヘシ我ト以撒ハ彼ニ往キテ神ヲ祭リテ還ラント自テ火ト刀トヲ持シ以撒ヲシテ柴ヲ負ハシメ神ノ示ス所ノ地ニ詣リ別ニ壇ヲ築キテ柴薪ヲ比ヘ一子以撒ヲ縛シテ壇上ニ置キ刀ヲ乘リ今ヤ其子ヲ屠ラントスル時忽チ天ニ聲アリ呼テ曰ク汝ノ一子ヲ傷ルナカレ予レ汝カ畏敬ノ深厚ナルヲ知レリト其後屢々子孫蕃衍ノ神勅ヲ受ケ遂ニ本教ノ鼻祖トナルニ至レリ

近年英國ニアル教徒本教ヨリ分派シテ一宗ヲ立ツ是レ猶太教ノ年紀中一大要事トス此新宗ノ者ハ一切耳聞口傳ノ式條ヲ採ラス務メテ拜禮守行ヲ改修セントス因テ更ニ教師ヲ立テ祈禱文式ヲ改メ自ラ親利太尼猶太教ト稱ス又々專信經宗ト名ツクルモノアレモ門徒少ナク止マ專テ亞細亞ニ散在セリ此宗徒モ耳聞口傳ヲ信セス偏ニ舊約書ニ載スル所ヲ以テ足レリト是レ本教ノ新派ナリ

猶太教ヲ奉スル現今人民ノ統計ハ一説ニ依レハ且ク左ノ如シト云フ猶太人ハ凡ソ六百三十

萬人ニ及ブモ本部巴列斯丁ニ住スル者ハ僅ニ二萬五千人ニ過キス其他亞細亞ニ於テハ土耳其ニ十九萬五千人此内二萬五千人ハ巴列斯丁ニアリ魯西亞ニ四萬七千人アリ波斯ニ一萬八千人アリ中央亞細亞ニ一萬四千人アリ印度ニ二千九百人アリ又歐羅巴ニ於テハ埃地利ニ百六十四萬四千人アリ伊太利ニ四萬人和蘭ニ八萬二千人留米耳亞ニ廿六萬五千人魯西亞ニ二百五十五萬二千人土耳其ニ十萬五千人白耳義ニ三千人西班牙ニ一千九百人布拉兒加利亞ニ十萬人希臘ニ三千人瑞典ニ三千人瑞西ニ七千人丁抹ニ四千人アリ又亞非利加ニ於テハ埃及ニ八千人タニシアニ五萬五千人アルシヤニ三萬五千人モロツコーニ六萬人アリ又亞米利加ニ於テハ合衆國ニ二十三萬人大西洋ノ沿岸ニ二萬人アリ之ヲ總合スルニ世界中ニ散栖スル猶太人ノ總計ハ凡ソ六百三十萬人ナリトス而シテ米國ニ散在スルモノ甚タ多ク特リ紐育府ノミニテモ其數一萬以上アリト云ヘリ

又タ猶太拜堂ノ盛ナルモノハ龍動ニ十字各州ニ三十十字アリ其大拜堂ト稱スル者ハ龍動ノ公子街ニアリ教長一名之ヲ主宰ス教長ハ諸聖會ノ撰ム所ニ係レリ尙ホ本教ノ來歴及ヒ組織ハ細大共ニ摩西傳ニ於テ述フベシ

第二章

基督教

教義及來歴

基督教ハ耶蘇基督ニ由テ世ニ傳播セラレタル宗教ナリ耶蘇トハ救主ノ義ニシテ基督モ又救主ノ義ナリ猶太語ニテ「メツシヤ」ト云フチ希臘語ニテ「キリスト」ト云フ共ニ救主ノ義ナリ此教ハ今ヲ距ルヲ凡一千八百九十一年前(我垂仁天皇二十年ヲ當ル)ニ亞細亞西部ニアル猶太國ニ起レリ其國民ハ所謂以色列人ニシテ最モ古キ人民ナリ猶太國ニハ古來數多ノ預言者ト稱スル者アリ皆チ神ニ代リテ神ノ誠律命令チ人民ニ宣ヘ傳フ而シテ預言者ノ預言誠訓等ハ皆チ舊約全書ニ記載アリ此書ハ唯タ其預言ノミナラス天地開闢物類創造等ヨリ國王ノ讚、神歌、箴言等チモ記載ス其中ニ屢々後年ニ一大救主ノ來降アランヲチ説リ茲ニ一千八百九十一年前猶太國ニ耶蘇ト名クル教主出生セリ其生地ハ猶太國ノ伯利恒村ナリ耶蘇カ其地ニ生ル、^{ミカ}舊約全書中米加ノ書ニ預言アリ曰ク「汝伯利恒以法太ヨ汝ハ猶太ノ地ノ中ニハ小ナルモ以色列ニ王タラン者汝ノ中ヨリ出ベシ其王ノ出ルコト古ヨリ無始ヨリ已ニ定マレ

リト是レ耶蘇カ彼地ヨリ出生センコトヲ預言セル者ナリト云フ耶蘇教徒曰ク耶蘇既ニ是ノ如ク預言ニ隨テ降誕セリ故ニ耶蘇ハ凡夫ニアラズシテ神ノ子ナリ上古ヨリ預言シ來レル大救主ナルコト明白ナリト又新約書ヲ見ルニ耶蘇自ラ已ガ神ノ子タルコト明セリ而シテ耶蘇自ラ諸方ヲ經巡リテ造物主神ナル唯一ノ神意ヲ傳ヘ又耶路撒冷ニ於テ天ノ正道公義ヲ講説セリ然ルニ耶蘇ノ講説事業等悉ク舊約書中ノ預言ト符合スルヲ以テ衆人皆耶蘇ノ「キリスト」ナル事ヲ認メタリ茲ニ同國ノ學者及ビパリサイ並ニサドカイ宗ノ教徒ハ大ニ之ヲ嫉ミ讒ヲ構ヘテ遂ニ耶蘇ヲ磔刑ニ處セシメタリ然ルニ耶蘇ハ十字架上ニ死テヨリ後三日ニ復活シ其後四十日ニ上天セリ是ヨリ先ニ耶蘇其弟子ニ告テ曰ク「我ハ造物主ナル我父ヨリ天上下下ノ諸權ヲ悉ク賜ハリヌ是故ニ汝等往テ萬國ノ人ヲ教ヘ父ト子ト聖靈ノ名ヲ以テ之ニ「バプテスマ」(洗禮)ヲ授ケテ我門徒ト爲セ又我ガ汝等ニ命ゼシ所ノ事ヲ萬國ノ人ニ教ヘテ之ヲ守ラシメヨ我ハ誠ニ世ノ終リマテ汝等ト共ニアルナリ」ト耶蘇ハ是ノ如ク世ノ最終マテ存在シ最終ノ日ニ至リテ自ラ世ニ臨ンテ大審判ヲ行ヒ善惡邪正公平無私ノ判決ヲ與フト云フ耶蘇上天ノ後ヲ其使徒等ハ皆其遺命ニ順テ身命ヲ抛テ傳道ニ盡力セリ

畢竟猶太元始ノ宗教ハ將ニ世ニ臨マントスルノ救世主ヲ待ツノ心ヲ以テ神ヲ崇敬セシムルヲ目的トシ基督教ハ耶蘇ヲ已ニ此世ニ臨ミタル人類ノ救主及ヒ贖罪主トシテ之ヲ信スルノ心ヲ以テ神ヲ崇敬セシムルヲ目的トス之レ兩教ノ異ナル要點ナリ然レモ基督教ノ骨子ハ即チ猶太教ニアルヲ以テ僅ニ本末ノ差アルノミ故ニ耶蘇明言シテ曰ク「我來テ法律及預言者ヲ壞ルト思フ勿レ我來ルハ之ヲ壞ルニアラス之ヲ成スナリ我誠ニ爾ニ告グ天地未ダ廢セス法律ノ一點一畫斷シテ廢スル能ハス悉ク必ス成ラン」ト故ニ耶蘇來生シテ經典上稍ヤ不明瞭ニ啓示セシ所ノモノハ愈ヨ明瞭ニ啓示シ又未ダ發セサル所ノモノハ之ヲ啓示シテ其遺漏ヲ補加シ人民ヲシテ全ク眞理ヲ會得スルノ便ヲ得セシメタリト謂フヘシ故ニ天地創造尊崇ノ上帝ヨリ遵守ノ十誡及ヒ依憑ノ教義等ハ猶太教ト異別ナシ唯タ經典ノ一二ニ至テ舊約ノ外ニ新約ヲ用ユナリ元來基督教ハ天啓教ナル故ニ「神ノ言」ノ外ニ一モ基クトコロナシ使徒保羅曰ク期ニ由テ神ハ宣ニ由テ其道ヲ顯ハセリ宣ハ即チ神我ガ救主ノ命ニ由テ我ニ托セラレシ者ナリ」ト以テ神ノ言ハ基督教ニ於ケル唯一無二ノ本義ナリト知ルヘシ而シテ耶蘇基督ハ人ニ此神ノ言ヲ傳フルニ書ヲ以テセズシテ口授即チ宣ヲ以テ傳ヘタリ又

ノ頃羅馬ノ都ヲ昆斯且丁諾布爾ニ遷スニ當リ一大教會ヲ別立ス之ヲ昆斯且丁教會ト曰フ即
 是レ東宗(希臘教)ノ基礎ナリ此ヨリ羅馬聖會ノ權亦タ振ハス新都ノ聖會其下風ニ立ツチ肯
 ンセス是ヨリ兩都ノ聖會交々異論ヲ生シ軋轢漸ク甚シキヲ見ルモ未ダ流派ヲ分ニ至ラス
 如此ナルヲ數百年延テ紀元一千百年代ニ至テ遂ニ兩會互ニ誓書ヲ作り斷然交ヲ絶テ分派
 ナ公告セリ基督教此ニ於テ抑メテ分裂シ東西ノ兩宗トナル而ノ之ニ羅馬、希臘ノ國名ヲ冠
 セシメタルハ單ニ其地名ニ因ミテ此稱ヲ下セシモノナリ又希臘教徒ハ獨リ基督ノ傳ヘタル
 教ヲ正シク守ルモノナリトシテ正教ト稱セリ又羅馬教徒ハ自ラ揚言シテ我コソハ天下萬民
 ニ傳播スベキ基督ノ公教ヲ守ル者ナリト云ヒ自ラ加特力教即チ公教ト稱セリ故ニ之ヲ羅馬
 加特力教トモ云フ兩教分裂ノ時ヨリ西教ノ風化漸ク西方ニ及ボシ其權力賞財大ニ増加シ法
 王ノ宣言ハ各國ノ王者人民皆ナ恐悚シ敢テ其命ニ從ハザルモノ無キニ至レリ然ルニ法王ノ
 權力ハ永ク之ヲ維持スルコト能ハスシテ百弊交モ群生シ終ニ一千五百年代ニ至テ四方有志ノ
 徒起テ自ラ改教黨ト稱シ羅馬教會ヲ離レテ大ニ其弊習ヲ改ム就中日耳曼ノ路德ノ如キ瑞西
 ノ蘇尹屈ノ如キ俊傑顯ハシテ羅馬教ノ非ヲ鳴ラシ流血ノ慘タルヲ見ルニ至ルマテ之ト戰ヒ

遂ニ歐洲大陸ニ於テ一新教派ヲ創起セリ此ヨリシテ數多ノ分派ヲ生ス概シテ之ヲ彼羅提士
 ト云フ(即チ抗抵闢邪ノ意)又始祖ノ名ニ資テ之ヲ路德宗トモ稱ス是ニ於テ基督教再ヒ分レ
 テ三大派トナレリ今人ノ概シテ新教ト稱スルモノ是レナリ此中ニテ英國教派若シハ「エビ
 スバル」派ト稱スル者ハ之ヲ他教派トスヘキナリ英國教派ハ英王顯利八世ノ創始セシモノ
 ニテ固ヨリ路德主義ニハ基ケトモ教會ノ神位ヲ存立シテ監督長老執事ノ三職ヲ置キ其組織
 彼羅提士ノ諸教派ト同シカラス又米國ノ「エビスバル」派ハ素ト英國教派ヨリ出テ、之ト相
 等シキヲ以テ英國教會ニ附セサルベカラス以上耶蘇教ノ來歴ヲ述ベ畢リヌ此レヨリ前述ノ
 三大派ニ就キ逐次其教義開立ノ異ナル所以ヲ略述スヘシ

(一) 羅馬教 又西宗

羅馬ノ牧師ハ世之ヲ稱シテ教父或ハ教王ト號ス教王ハ獨リ本教ノ王タルノミナラス亦世務
 ノ主長ニシテ伊太利ヲ三分シテ其一ヲ統御ス而ノ葺加ノ宮中ニ政廳ヲ置キ屬僚ノ牧師七
 十八王ヲ輔ケテ政教ヲ執務ス教王ノ世務ヲ執ルハ實ニ紀元七百年代ニ始マル統内ノ人口現
 ニ二百六十萬以上アリトス又教王ハ一系世襲ニアラス七十ノ牧師中才德兼備ノ者ヲ撰ヒ而

ノ頃羅馬ノ都ヲ昆斯日丁諾布爾ニ遷スニ當リ一大教會ヲ別立ス之ヲ昆斯且丁教會ト曰フ即
 是レ東宗(希臘教)ノ基礎ナリ此ヨリ羅馬聖會ノ權亦タ振ハス新都ノ聖會其下風ニ立ツチ肯
 ンセス是ヨリ兩都ノ聖會交々異論ヲ生シ軋轉漸ク甚シキヲ見ルモ未タ流派ヲ分ニ至ラス
 如此ナルヲ數百年延テ紀元一千百年代ニ至テ遂ニ兩會互ニ誓書ヲ作り斷然交ヲ絶テ分派
 ナ公告セリ基督教此ニ於テ癩メテ分裂シ東西ノ兩宗トナル而シテ羅馬、希臘ノ國名ヲ冠
 セシメタルハ單ニ其地名ニ因ミテ此稱ヲ下セシモノナリ又希臘教徒ハ獨リ基督ノ傳ヘタル
 教ヲ正シ守ルモノナリトシテ正教ト稱セリ又羅馬教徒ハ自ラ楊言シテ我コソハ天下萬民
 ニ傳播スベキ基督ノ公教ヲ守ル者ナリト云ヒ自ラ加特力教即チ公教ト稱セリ故ニ之ヲ羅馬
 加特力教トモ云フ兩教分裂ノ時ヨリ西教ノ風化漸ク西方ニ及ボシ其權力貴財大ニ增加シ法
 王ノ宣言ハ各國ノ王者人民皆ナ恐悚シ敢テ其命ニ從ハザルモノ無キニ至レリ然ルニ法王ノ
 權力ハ永ク之ヲ維持スルコト能ハスシテ百弊交モ群生シ終ニ一千五百年代ニ至テ四方有志ノ
 徒起テ自ラ改教黨ト稱シ羅馬教會ヲ離レテ大ニ其弊習ヲ改ム就中日耳曼ノ路德ノ如キ瑞西
 ノ蘇尹屈ノ如キ俊傑顯ハシテ羅馬教ノ非ヲ鳴ラシ流血ノ慘タルヲ見ルニ至ルマテ之ト戰ヒ

遂ニ歐洲大陸ニ於テ一新教派ヲ創起セリ此ヨリシテ數多ノ分派ヲ生ス概シテ之ヲ彼羅提士
 ト云フ(即チ抗抵闢邪ノ意)又始祖ノ名ニ資テ之ヲ路德宗トモ稱ス是ニ於テ基督教再ヒ分レ
 テ三大派トナレリ今人ノ概シテ新教ト稱スルモノ是レナリ此中ニテ英國教派若シハ「エビ
 スパル」派ト稱スル者ハ之ヲ他教派トスヘキナリ英國教派ハ英王顯利八世ノ創始セシモノ
 ニテ固ヨリ路德主義ニハ基ケトモ教會ノ神位ヲ存立シテ監督長老執事ノ三職ヲ置キ其組織
 彼羅提士ノ諸教派ト同シカラス又英國ノ「エビスパル」派ハ素ト英國教派ヨリ出テ、之ト相
 等シキヲ以テ英國教會ニ附セサルベカラス以上耶蘇教ノ來歴ヲ述ベ畢リ又此レヨリ前述ノ
 三大派ニ就キ逐次其教義開立ノ異ナル所以ヲ略述スヘシ

(一) 羅馬教 又西宗

羅馬ノ牧師ハ世之ヲ稱シテ教父或ハ教王ト號ス教王ハ獨リ本教ノ王タルノミナラス亦世務
 ノ主長ニシテ伊太利ヲ三分シテ其一ヲ統御ス而シテ兼知加ノ宮中ニ政廳ヲ置キ屬僚ノ牧師七
 十八王ヲ輔ケテ政教ヲ執務ス教王ノ世務ヲ執ルハ實ニ紀元七百年代ニ始マル統内ノ人口現
 ニ二百六十萬以上アリトス又教王ハ一系世襲ニアラス七十ノ牧師中才德兼備ノ者ヲ撰ヒ而

テ伊太利出身ニテ齡ヒ重五ニ達セサレハ賢者ト雖トモ其資格ナキモノトス教王ニ亞キテ七
 十人ノ牧師ハ教界中ノ公侯タル權位ヲ有セリ此牧師ノ次ニ主教師アリ各一王國ノ教政ヲ管
 轄スル所ノ牧師ナリ次ニ最大牧師アリ數部ノ「ダイオセス」牧師管轄ノ地ヲ統轄ス又次ニ大牧師ア
 リ一ハ教化ノ及フ所ノ地ヲ管轄シ其地名ヲ取テ爵名トス一ハ不信者國ヲ管轄ス是レ基督教
 ノ行ハレサル國名ヲ取テ爵名トス已上ノ諸役ヲ教官ト曰フ此外點燭師、讀經師驅邪師等ア
 リ之ヲ小官ト曰フ教官ノ品級ハ着用ノ冠ヲ以テ區別ス羅馬教ノ他ノ基督教ト異ナル點ハ大
 要左ノ如シ

一ニハ神書ノ書ニ載スル者即チノミヲ以テ信奉ノ規條トナサス二ニハ必ス世々教中ニ傳ヘ
 誨フル所ヲ以テ聖書ノ導子トナス三ニハ獨リ該教ヲ以テ唯一眞教ト爲ス四ニハ本教ノミ信
 奉スル所ニ於テ敢テ誤惑ナシトス五ニハ室女摩利亞神靈ニ感シテ懷妊シ且ツ罪障ナクシテ
 生ルトス六ニハ七個ノ聖禮ヲ謝恩ノ標的印章契信トナス七ニハ人界ト天堂ノ間ニ煉罪處アリ
 リ凡ソ人死スレハ其魂魄一旦此處ニ至リ生前ノ罪過ヲ罰セラル故ニ死者ノ爲メニ冥福ヲ祈
 ルチ教法ニ合フトス八ニハ神使ヲ拜シ故聖ニ祈ルハ生者ノ爲メニ應驗アリ故ニ其助力ヲ祈

ルチ適當トス此等ノ教旨ハ他ノ基督教ト異ナレル點ナリ次ニ羅馬教ノ聖禮節ハ左ノ如シ

第一、洗禮 此日教師拜堂ニ出テ孩兒ト其教保トヲ迎ヘ兒ノ面ニ向テ氣ヲ呵スルヲ三回シ
 テ曰ク邪靈去レト次ニ兒ノ前額ト胸部トニ指ニテ十字ヲ打シ又鹽ヲ把テ之ヲ祝シ少量ヲ兒
 ノ舌上ニ置キ又宣シテ曰ク兒汝智鹽ヲ餐ケヨト然シテ後チ兒ヲ引テ洗盤ノアル所ニ到リ教
 師手ヲ水ニ浸シ注テ兒ノ鼻孔耳穴ニ入レ「以法以」(此語ハ希伯來語ニテ「啓ラカシメヨ」ト
 云フノ義ナリ)ト唱フ此時兒ヲ抱キテ盤上ニ臨ミ聖油ヲ以テ兒ノ肩胛間ニ十字ヲ打シ又神
 水ヲ用ユルヲ三回毎回上帝三位ノ一ヲ呼拜ス

第二、堅信禮 此禮ハ洗禮ノ後ニ行ヒ基督教門ニ入ルモノ益ス其信ヲ堅クスルヲ證スル式
 ナリ

第三、聖餐禮 此禮節ニ行フ所ノ拜神禮ヲ「マツス」ト云フ教徒ハ此禮ニ依リテ能ク生者死
 者ノ爲メニ眞個贖罪ノ供テ上帝ニ致シ得ルト信ス此節ニ供スル酒ト餅トハ外形ハ依然酒餅
 ナレモ其實ハ實ニ基督カ血肉ニ化スト信ス

第四、苦悔式 洗禮ヲ受テ教門ニ入リシ後チ其心行壞滅スルトキハ苦悔痛行シテ再ヒ教門

ニ入ルノ準備ヲナス之レ苦悔式ナリ

第五、傅油禮 病者ノ身體ニ聖油ヲ傅クルノ禮ニシテ唯タ九死ノ人ニ施ス此禮ヲ行フキハ能ク其人生前ノ罪ヲ滅シ身體ノ煩悶ヲ輕クスト云フ

第六、任職禮 此ハ教師ニ官階ヲ授クル時ノ禮ナリ

第七、婚禮 男女定例ノ如ク共ニ信愛渝ラスト誓ヒ了テ教師其男女ヲ扶ケテ互ニ握手セシ

メ聖水ヲ撒瀝シ其申ツ所ノ指環ヲ祝シテ聖物トナシ之ニ十字形ヲ横打シ始メテ夫婦ノ稱ヲ得ルナリ

本教ノ禮拜式ハ都テ壯麗嚴肅ヲ極メ禮間ニハ音樂唱歌ヲ奏吹シ教徒拜神ノ文ハ皆ナ羅旬語ヲ用ユ是レ上帝獨一各會齋同ノ義ニ則トルナリ紀元一千年來此教會ニ入テ教師タラン者ハ

終身娶妻ヲ許サレヌ是レ齋家ノ勞ヲ省キテ專心一意奉神ニ從事セシメンカ爲メナリ次ニ送葬ノ式ハ此宗ノ俗徒死スレハ其屍ヲ仰臥シ手ニ十字架ヲ持シメ足邊ニ聖水盤ヲ置ク愈ヨ送葬式ニ臨メハ驅邪師聖水ヲ捧持シテ先導シ十字架ヲ持スルモノ之ニ次ギ執業ノ教師之ニ次ギ歩々贖罪之歌及ヒ他ノ聖詩ヲ唱フ已ニシテ拜堂ニ到レハ柩圍ニ小蠟燭ヲ點シ教師吊死ノ

文ヲ誦シ「マツス」ヲ行フ然ノ後テ教師香ヲ焚キ柩ヲ匝テ聖水ヲ灌キ香爐ヲ動カシ香煙ヲ柩ニ薰ス而ノ墳穴ニ到リテ此ノ如クスル一更ニ一回ス

本教ニハ通世修道人ノ會派其數極メテ多シ然レモ教旨ノ異ナルニ非ス其修業ノ規則ト修行スル所ニ異アルノミ畧シテ其名稱ヲ掲クヘシ

別涅底革丁會 紀元第五百二十九年頃ノ創立

阿護斯丁會 紀元第八百年ニ始マル

度密尼干會 紀元第一千二百一十五年ニ始マル

佛蘭修斯干會 紀元一千二百〇九年ニ始マル

已上ノ四會ハ方今其派出ノ教師英國ニアル所ノモノナリ此外大約五十種ノ聖會アリ今之チ省 零ス會徒ノ英國ニ於テ立ツル教館數宇アリ其中最モ大ナルモノハ斯德尼保兒斯當及ヒ都伯林ノ近傍ニアリ

(二) 希臘教 又東宗

魯西亞管轄ノ歐亞兩洲ノ中廣濶ノ地方ハ數百年間大畧東宗教主ノ教政下ニ屬セリ然ルニ一

千五百八十五年魯帝セオドルノ時ニ方リテ其首府孟斯科ニ於テ更ニ教主ヲ置キ嗣君世々之ヲ敬待セリ尋テ一千七百年大王ピートルノ代ニ至リ帝自ラ教主ノ位ヲ襲ヒ更ニ教律應ヲ置キ諸支應ヲ立テ教律ヲ管理ス而シテ希臘國モ亦此制ニ倣ヒ新ニ政應ヲ立テ教律ヲ管理セシメタリ然ルニ希臘ノ教律應ハ殆ント無上教政ノ大權ヲ領セリ唯々王者ニ讓ル所ノ權ハ此會衆カ撰舉スル所ノ教官ヲ制可冊命スルノニテ分權スルノミ故ニ希臘教會ノ教政主治ハ專ラ昆斯且丁諾布教主、魯西亞帝、希臘國教應ノ三主長ノ管轄ニ屬セリ

希臘教主ハ皆ナ法王ノ稱ヲ冒ス法王ニ次テ大牧師アリ各數邑府ノ教政ヲ管理ス之ニ次テ牧師、修道院長、小修道院長、祭司、聖會執事、讀經師、堂司等ノ諸教官アリ都テ法王ノ任スル所ナリ又「プロトイル」トテ俗人ニシテ教師ヲ兼ヌルモノアリ又俗人ニシテ祭司、聖會執事等ノ官ニ就カントスル者ハ宜ク神學校ノ教則ヲ畢フヘク必ス妻ヲ娶ルヲ要ス但シ寡婦ヲ娶ルヲ禁セリ若シ其妻死スレハ再ヒ婦ヲ迎ルヲ得ス

希臘教ノ羅馬教ト其教旨ヲ異ニスル點ハ大畧左ノ如シ

一ニハ本教ニテハ七日ノ中何日ニ會スルヲ問ハス猶太曆第一日第十四日ヲ越ルノ三日ヲ以

テ瞻禮ヲ行フナリ二ニハ聖餐會ニハ俗人ト雖モ葡萄酒餅ヲ陪享スルヲ許スナリ三ニハ俗人へ自由ニ聖經ヲ讀讀セシム四ニハ死者ノ冥福ヲ許スモ羅馬教ノ如ク煉罪之處アリト云フ

ノ說ヲ容レヌ五ニハ聖靈ハ專ラ上帝ヨリ來格スト信ス六ニハ拜堂ニ偶像ヲ置クヲ非トス七ニハ聖者過分ノ功ハ衆人爲ス所ノ不足ヲ補フト云フ說ヲ容レヌ八ニハ罪惡ヲ赦サルナリ已上ノ八者全ク羅馬教ニ異ル點ナリ而シテ其羅馬教ト同シキ點ハ一ニハ神ニ代ヘテ聖者ヲ拜スルヲ二ニハ聖禮ノ回數ナリ三ニハ祭司神ニ代テ罪ヲ赦スヲ四ニハ餅酒化體ノ說ヲ信スルヲ五ニハ聖禮ノ應驗アルヲ信スルヲ等ナリ

聖書上ニ於テ本教ト羅馬教ト解釋ヲ異ニスル所少ナカラス今マ其ノ一例ヲ舉クレハ聖書ニ「婦ノ子」ト云フ一語アリ本教ハ之ヲ解シテ女ノ子即チ一人稱ニシテ聖母摩利亞ヲ指ストス然ルニ羅馬教徒ハ之ヲ二人稱ニ解シ「婦」ハ摩利亞ヲ指シ「子」ハ基督ヲ指ストセリ之レ教義ニ於テ各解釋ヲ異ニスル所トス又本教ノ聖禮回數ハ羅馬教ト異ナシ唯々其式方ノ同シカラサルノミ今一二ヲ茲ニ掲クヘシ

洗禮 バプテスマ ニハ冷水ヲ兒頭ニ灌クヲ三回シテ邪靈ヲ兒體ヨリ驅逐ス其盤水ニハ常ニ少量ノ油ヲ

混シ之チ兒ノ前額及ヒ體軀諸部ニ撒瀝ス
 聖餐會 ニハ嬰兒モ此會ニ陪列スルヲ得其用井ル餅ハ羅馬教ト異ニシテ酵母ヲ和シ上面
 ニ耶蘇基督征服ノ三語ヲ刻出ス又供スル所ノ酒ニハ必ス水ヲ混シ基督カ兩性ヲ存セリト云
 フノ意ヲ表セリ

婚禮 ハ婚約戴冠解冠ノ三序ニ分テリ婚約節ニ男ハ女ニ黄金ノ指環ヲ贈リ女ハ男ニ白銀ノ
 指環ヲ酬フ次ギニ戴冠節ニ用井ル冠ハ希臘ニテハ扁帶ニ裝飾セル橄欖枝ヲ用井魯西亞ニテ
 ハ金或ヒハ銀ヲ用ユ次ギニ解冠節ニハ教師祈禱式ヲ行ヒ男女頭上ノ冠ヲ解テ之ヲ取ル而シ
 テ教師カ祈禱ノ功德ニ因テ此冠夫婦カ來世ノ爲メニ天界ニ安置セラル、者トセリ此外傳油
 禮、苦悔式、任職式及ヒ祈禱油禮等ノ聖禮ハ羅馬教ト異ナルナシ希臘教ノ禮式逐一枚舉ニ追
 ナシ今其最重ノ者ヲ掲ケレハ葬式、祝水式、瞻禮ノ如キ是レナリ此中瞻禮ハ本教ノ最モ重
 要ナル所ノ禮式ニテ群僧侶ノ容易ニ集會シ得ヘキ拜堂アル大都府ニテハ其式特ニ壯麗ヲ極
 メ甚タ人心ヲ感動セシムナリ今此禮式ヲ記スレハ凡ソ此日ノ前夜子時ニ最等ノ拜堂ニ人群
 充滿シ遅刻ノモノハ入ルヲ能ハスノ街上ニ咽塞セリ此時修業ノ教師低聲ニ例節ノ祈文ヲ誦

ス此間始終燈火ヲ用井スシテ堂内ヲ暗黒ニス是レ救主カ死ヲ喪スル爲メナリ已ニシテ午夜
 ニ垂ントスレハ大教師ト教師ト神壇ノ前ヲ去リ講坐ニ登リテ仍ホ祈文ヲ低誦ス座衆皆手ニ
 蠟燭ヲ把リ歡時至ラハ之ニ點火セントシ各屏息シテ期ノ至ルヲ待ツ既ニシテ砲聲一發午夜
 ノ過クルヲ告ク是ニ於テ大教師十字杖ヲ把テ天ニ指シ大喝一聲基督天ニ昇ルト呼フ座衆一
 同又之ヲ回呼ス此時衆始メテ點燭シ滿堂白晝ノ如シ伶人樂ヲ奏シ其曲歡喜ヲ極ム是ニ於テ
 知友互ニ握手シ相賀シ相祝ス次日ニ至レハ朋友親戚交モ雞蛋ヲ相贈遺ス之ヲ瞻禮ノ蛋ト云
 フ蛋ハ皆ナ赤色ニ塗リ白墨ヲ以テ基督昇天ノ語或ハ十字款式等ヲ書セリ富者ハ盜ヲ以テ蛋
 ナ作り粧飾ヲ加フト云フ

本教ノ諸宗派ハ概シテ左ノ如シ

涅斯德利安派 本教諸宗ノ中最モ舊キモノ 宗徒大約六十萬人アリ

齊利安雅各派 宗徒大約一十五萬人アリ

各希的又埃及的雅派 宗徒大約一十萬人アリ

亞皮西尼的派 宗徒大約一十萬人アリ

亞爾美尼的派 稍ヤ羅馬教ニ類ス宗徒大約四百萬人アリ

魯西亞國內ニ於ケル希臘教ノ支派二十餘種アリ其徒大約五百萬人ニ至レリ一千六百年代希臘教典改革ノ時ニ方リ始メテ本宗ト分離ス其中多クハ古典ヲ守ル近世新教徒ハ本宗ヲ呼テ「奧留士度屈」トス即チ正教ノ意ナリト云フ希臘教ノ組織概畧斯ノ如シ

(三) 新教 路德宗、加兒微尼宗、福音宗、圓邪宗

此教モ其初メハ血闘ニ起リシモノニテ過激暴行アリシヲ免レヌ乃チ開祖路德ニ黨スル日耳曼列國ノ諸侯帝ニ叛キ兵ヲ舉テ兵亂二十年ノ久キニ彌レリ紀元一千六百四十八年ニ至テ僅ニ講和ノ會ヲ爲シ始メテ日耳曼列國諸教會ノ徒ニ信奉自由ノ權ヲ享ルヲ許ス初メ路德カ日耳曼ニ在テ改教ノ業ニ就クノ際瑞西ニ蘇尹屈利士ナル者アリテ同ク斯ニ從事セリ而シテ聖禮ノ中聖餐ノ事ニ於テ二人ノ間ニ異論ヲ生セリ乃チ路德ハ供スル所ノ酒餅其質ハ依然トノ變セザルモ基督ノ血肉實ニ其中ニ存ストナシ之ヲ餅血同化ト稱ス又蘇尹屈利士ハ酒餅ヲ以テ特ニ基督カ血肉ニ象ルモノト爲ス路德ニ次テ默蘭具頓ナル者起リ蘇尹屈利士ニ次テ加兒尹ナル者出ツ此二人後チ治那ニ於テ立會長教律ヲ立ツ又二人常ニ相合同シテ教ヲ輔ケシモ當

時門徒ノ僻執他教ヲ忌ムノ熱心ナルヨリ遂ニ二教ヲシテ相背馳セシムルニ至レリ由之改革

新教中二派ニ分レ一チ路德宗トシ一チ加爾微尼宗トス

此後路德ノ門徒又分レテ數派トナリ互ニ犄角ヲ爭ヒシカ一千五百七十九年ニ至リ別兒屈ニ於テ各派公會ヲ開キ信條ヲ發シテ各派ノ同盟ヲ行ヒタリ茲ニ於テ益々加爾微尼宗徒ヲ拒絕

シ講和ノ計策ハ徒爲ニ屬セリ路德宗徒カ信守スル所ト其禮拜式トハ今專テ普魯斯、威兒典

不爾草、薩尼黑那不、北日耳曼諸部、瑞典、諾威等ニ行ハル又魯西亞、和蘭、葡萄牙、米合衆國等ニモ其聖會アリ而シテ瑞西、和蘭、佛蘭西、蘇忽蘭等ノ關邪教會ノ徒ハ皆チ加爾微尼宗ニ係レリ

一千五百三十年ノ頃路德、默蘭具頓ノ二人カ澳具斯堡教條委員集會即チ所謂澳具斯堡信條ナル者ハ教徒今ニ至テ尙其教ノ本旨トシテ之ヲ守ル此信條ハ分テ二十二則トセリ其大要左ノ如シ

神ノ一體三位ヲ有スルコト、耶穌基督ノ一體二性ヲ有スルコト、信德ヲ以テ義ヲ爲スト稱スヘキコト、福音ヲ講シ聖禮ヲ行フチ神恩ヲ謝スルト爲スコト、善行ヲ信德ノ成果ト爲スコト、善言